D01017501A

SS-CDR1

Solid State / CD Stereo Audio Recorder

取扱説明書

安全にお使いいただくために

この取扱説明書への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の意味

⚠警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

	△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
	⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠警告

万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店またはティアック修理センターに修理をご依頼ください。

万一機器の内部に異物や水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店またはティアック修理センターに交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧（交流 100 ボルト）以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。

この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。

この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。

この機器の上に花びんや水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

この機器のカバーは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センターにご依頼ください。

この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

⚠警告

万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

この機器を設置する場合は、壁から20 cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2 cm以上、背面から10 cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

⚠注意

オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。

電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

５年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センターにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用についてはご相談ください。

次のような場所に置かないでください。火災、感電やけがの原因となることがあります。

・調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所
・湿気やほこりの多い場所
・ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所

電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグに容易に手が届くようにしてください。

移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

この機器には、付属の電源コードセットをご使用ください。それ以外の物を使用すると故障、火災、感電の原因となります。

付属の電源コードセットを他の機器に使用しないでください。故障、火災、感電の原因となります。

目次

第1章　はじめに

このたびは、SS-CDR1をお買いあげいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいたうえで、本製品の性能を十分に発揮させ、末永くご愛用くださいますようお願い申しあげます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。

本機の概要

- CDディスクおよびCFカードをメディアに使った2チャンネルオーディオレコーダー。
- 1Uのラックマウントサイズ。
- CFカードを使って、サンプリング周波数44.1kHzおよび48kHz、16ビットのリニアPCMオーディオ（WAV形式）またはMP3オーディオの録音／再生が可能。また、CDディスクを使って、CD-DAオーディオ（オーディオCD）またはMP3オーディオの録音／再生、およびWAVオーディオの再生が可能。
- パラレルおよびシリアルのコントロールポートを装備し、外部からのコントロールが可能。
- 瞬時に再生が始まるフラッシュスタート（ポン出し）機能を装備。
- ピッチコントロール、キーコントロールなどの再生コントロールが可能。
- プレイリストやフォルダを使って、再生範囲を自由に設定可能。
- トラック編集が可能。（CFカードに記録されたリニアPCMオーディオのみ）
- タイムスタンプ用の時計を内蔵。
- バランスおよびアンバランスのアナログオーディオ入出力とコアキシャルタイプのデジタルオーディオ入出力を装備。
- 確実な操作が可能なワイヤードリモコンを付属。
- PS/2キーボードからのコントロールや文字入力が可能。

本製品の構成

本製品の構成は以下の通りです。
なお、本機を開梱する時、損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は後日輸送するときのために保管しておいてください。
付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合、当社までご連絡ください。

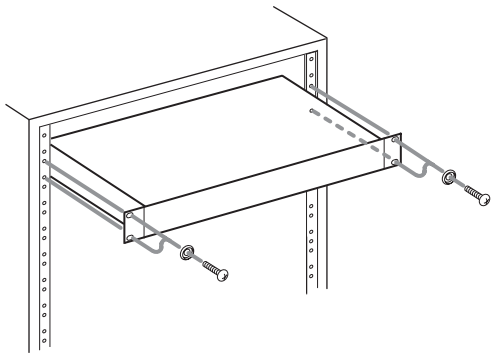
• SS-CDR1本体	×1
• リモコン（RC-SS1 / ワイヤー長：5m）	×1
• 電源コード	×1
• ラックマウントビスキット	×1
• セキュリティビス	×2
• 保証書	×1
• 取扱説明書（本書）	×1

本書の表記

本書では以下のような表記を使います。

- 「コンパクトフラッシュカード」のことを「CFカード」と表記します。
- 「CD-DA」形式のことを「オーディオCD」形式と表記する場合があります。またオーディオCD形式のトラックを記録したCDディスクを「オーディオCD」と表記する場合があります。
- MP3やWAVファイルを記録したCDを「データCD」と表記する場合があります。

設置上のご注意

- 本製品の動作保証温度は摂氏5度〜35度です。
- 本製品は水平に設置してください。
- 放熱を良くするために、本製品の上には物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上に本製品を置かないでください。
- 本製品をラックにマウントする場合は、付属のラックマウントビスを使って、下図のように取り付けてください。
  なお、ラック内部では、本製品の上に1U以上のスペースを開けてください。

結露について

本製品を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは約1 〜2 時間放置した後、電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。化学ぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコール等で拭かないでください。表面を痛めたり色落ちさせる原因となります。

アフターサービス

- この製品には保証書を別途添付しております。保証書は所定事項を記入してお渡ししておりますので、大切に保管してください。

- 保証期間はお買い上げ日より１年です。保証期間中は記載内容によりティアック修理センターが修理いたします。その他の詳細につきましては保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センターなどにご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客さまのご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生し修理を依頼される場合は、次の事項を確認の上、ティアック修理センターまでご連絡ください。
  - 型名、型番（SS-CDR1）
  - 製造番号（Serial No.）
  - 故障の症状（できるだけ詳しく）
  - お買い上げ年月日
  - お買い上げ販売店名

CF(コンパクトフラッシュ)カードについて

本機はCFカードを使って録音／再生を行うことができます。
本機ではタイプIのCFカードを使用します。タイプIIやマイクロドライブは使うことができません。
なお、古いCFカードや一部のCFカードの中には動作スピードの遅いメモリー部品を使っていたり内部バッファ容量の小さいものがあります。こうしたCFカードを使うと本機の録音性能に影響を及ぼす可能性があります。新しいCFカード（特に高密度DSLRカメラ用に作られているもの）は読み書きのスピードが速いだけでなく、保存容量も大きくなっています。タスカムのウェブサイトには、当社でテスト済のCFカードのリストが掲載されていますので、ご参照ください。（http://www.tascam.jp/）

取り扱い上の注意

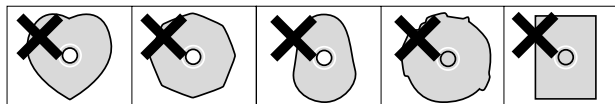
CFカードは精密にできています。カードやスロットの破損を防ぐため、取り扱いにあたって以下の点にご注意ください。

- 極端に温度の高いあるいは低い場所に放置しないこと。
- 極端に湿度の高い場所に放置しないこと。
- 濡らさないこと。
- 上に物を乗せたり、ねじ曲げたりしないこと。
- 衝撃を与えないこと。

CD（コンパクトディスク）について

以下のマークがあるコンパクトディスクをお使いください。

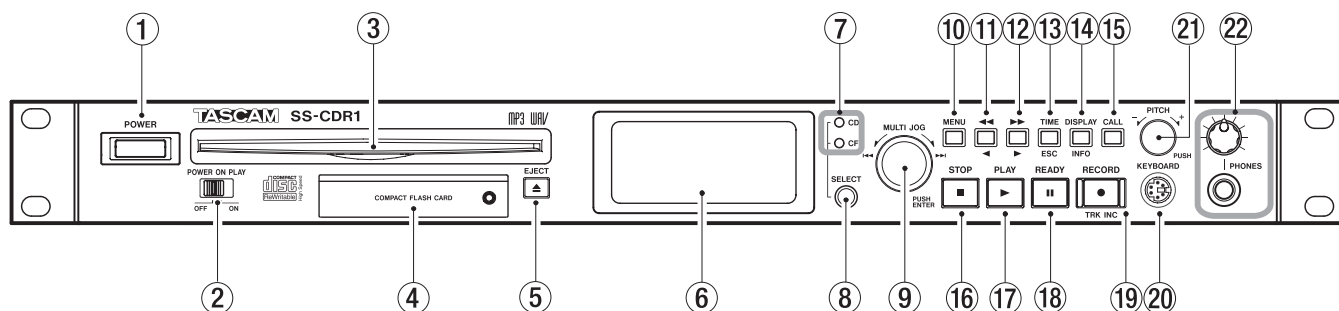
取り扱い上の注意

- ディスクは、必ずレーベル面を上にして挿入してください。
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手で挟むように持ってください。
- 信号録音面（レーベルがない面）には触れないでください。
  指紋や脂などが付着していると、録音するときにエラーの原因になることがあります。
- 信号録音面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布を使って中心から外側に向かって軽く拭いてください。
  ディスクの汚れは音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。
- ディスクの清掃に、レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどの化学薬品を使用することは絶対お止めください。表面が変質して再生不能になる恐れがあります。
- ディスクにラベルなどを貼ることはおやめください。盤面にセロハンテープやレンタルCDのシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本製品にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。
- 市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因になります。
- ヒビが入ったディスクは使用しないでください。
- ハート形や名刺形、八角形など特殊形状のCDは、機器の故障の原因になりますので使用しないでください。

- いくつかのレコード会社より「コピーコントロールCD」と銘打った著作権保護を目的としたディスクが販売されています。これらはCD規格に則っていないディスクも存在するため、本機で再生できない場合があります。
- CD-RやCD-RWディスクの取り扱いについてご不明な点がある場合は、ディスクメーカーに直接お問い合わせください。

CD-RディスクとCD-RWディスク

CD-Rディスクには、一度だけしか記録できません。記録したトラック（曲）を消去することもできません。ただし、ファイナライズ処理を施していないディスクで、ディスクの記録可能時間が残っている場合は、追加記録が行えます。記録が終わったCD-Rは、ファイナライズ処理を施すことで、一般のCDプレーヤーでも再生できるようになります（一部のCDプレーヤーでは再生できないことがあります）。
CD-RWディスクは、記録可能容量を使いきった場合でも、記録した曲を消去すれば繰り返し使用することができます。ただし、消去できるのは指定した曲から最後に記録した曲までに限られます。途中の曲だけを消去することはできません。CD-RWは、ファイナライズ処理を施しても、CD-RWに対応したCDプレーヤーでしか再生できません。

第2章　各部の名称と働き

フロントパネル

① **POWERスイッチ**
電源をオン／オフします。

② **POWER ON PLAYスイッチ**
パワーオンプレイ機能（電源をオンにすると再生を開始する機能）のオン／オフを設定します。（ → 24ページ「パワーオンプレイ」）

③ **CD挿入部**
CDをセットします。（ → 19ページ「CDをセットする」）

④ **CFカード挿入部**
CFカードをセットします。（ → 18ページ「CFカードをセットする」）

⑤ **EJECT（⏏）キー**
CDをイジェクトします。（ → 19ページ「CDをセットする」）

⑥ **LCDディスプレイ**
ホーム画面を表示する他、各種メニュー画面、ファインダ画面、警告メッセージなどを表示します。

⑦ **デバイスインジケーター（CD、CF）**
カレントデバイスとして選択されているデバイス（CDまたはCF）のインジケーターが点灯します。デバイス選択操作の途中およびメディアに書き込み時、点滅します。

⑧ **SELECTキー**
カレントデバイス（CDまたはCF）を選択します。使用するメディアに応じて選択してください。カレントデバイスのインジケーター（CDインジケーターまたはCFインジケーター）が選択中は点滅、確定後は点灯します。

⑨ **MULTI JOGダイヤル**
このダイヤルは、回して使うホイール機能と押して使うキー機能を兼ね備えています。

［ホイール機能］
ホーム画面表示中、トラックの選択を行います。
プログラム入力時、登録トラックの選択を行います。
メニューモード時、メニュー項目の選択や設定値の選択を行います。
名前の編集時、文字の選択を行います。
DISPLAY / INFOキーを押しながら**MULTI JOG**ダイヤルを回すと、ディスプレイのコントラストを調節できます。

［キー機能］
選択や設定を確定します（**ENTER**キー機能）。
ファインダ画面表示中に長押しすると、反転中のファイルが移動／コピーの対象になります。（ → 50ページ「ファイルの移動／コピー」）

⑩ **MENUキー**
ホーム画面表示中に押すと、メニューモードに入り、**MENU**画面が表示されます。
停止中／再生待機中に長押しすると、カレントデバイスおよび再生エリアの設定に応じたファインダ画面を呼び出します。（ → 43ページ「フォルダファインダ画面を開く」）（ → 52ページ「CD-DAファインダ画面を開く」）（ → 53ページ「プレイリストファインダ画面を開く」）

⑪ **◀◀ / ◀ キー**
再生中／再生待機中に押し続けると、音声を出力しながら早戻し（レビュー）を行います。
再生中／再生待機中にポンと押すと、タイムスキップを行います。（ → 22ページ「タイムスキップ」）
メニューモード時、手前の階層に戻ります。
再生エリアが**FOLDER**のとき、停止中に押すことによってカレントフォルダを選択することができます。
再生エリアが**PLAYLIST**のとき、停止中に押すことによってカレントプレイリストを選択することができます。
名前の編集時、カーソルを手前に移動します。

⑫ **▶▶ / ▶ キー**
再生中／再生待機中に押し続けると、音声を出力しながら早送り（キュー）を行います。
再生中／再生待機中にポンと押すと、タイムスキップを行います。（ → 22ページ「タイムスキップ」）
メニューモード時、次の階層に進みます。
再生エリアが**FOLDER**のとき、停止中に押すことによってカレントフォルダを選択することができます。再生エリアが**PLAYLIST**のとき、停止中に押すことによってカレントプレイリストを選択することができます。
名前の編集時、カーソルを次に移動します。（ → 44ページ「フォルダー名を編集する」）（ → 47ページ「ファイル名を編集する」）

⑬ **TIME / ESCキー**
メニュー画面やファインダ画面表示中に押すと、ディスプレイがホーム画面に戻ります。
ホーム画面表示中に押すと、本機の時間表示モードが切り換わります。（ → 24ページ「再生時間表示モードを選択する」）（ → 38ページ「録音時間表示モードを選択する」）
名前の編集時、カーソル位置の文字を削除できます。また、長押しするとカーソル位置より後ろの文字を全て消去できます。
デバイス選択操作時に押すと、操作をキャンセルしてホーム画面に戻ります。

⑭ **DISPLAY / INFOキー**
ホーム画面表示中に押すと、画面左下の表示が「ファイル名 → フォルダ／プレイリスト名 → ファイル情報」の順に切り換わります。ファイル／フォルダ／プレイリスト名を表示中にこのキーを長押しすると、スクロール表示します。

PC等で作成したMP3ファイルで、ID3タグにタイトル情報が含まれている場合は、ホーム画面でファイル名表示を選択すると、タイトル名を表示します。
ファインダメニューを表示中、選択しているフォルダやトラックのプロパティ情報を表示します。
名前の編集時、文字種（大文字／小文字）を切り換えます。
このキーを押しながらMULTI JOGダイヤルを回すと、ディスプレイのコントラストを調節できます。

⑮ CALLキー
このキーを押すと、コールポイント（再生待機状態から最後に再生を開始したポイント）をサーチして再生待機になります。（→ 28ページ「コール機能」）
名前の編集時、空白（スペース）を挿入できます。
CDとCFカードでのコピー／変換コピーを行う場合、ファイルの選択／解除を行います。

⑯ STOPキー
再生や録音を停止します。
停止状態でトラック選択を行っているときに押すと、選択トラックがキャンセルされます。
プログラムモードで停止中に押すと、全てのプログラムがクリアされます。
編集操作中に押すと、操作の取り消しを行います。

⑰ PLAYキー
停止中または再生待機中に押すと、再生を開始します。
録音待機中に押すと、録音を開始します。
再生中や録音中、キーが点灯します。

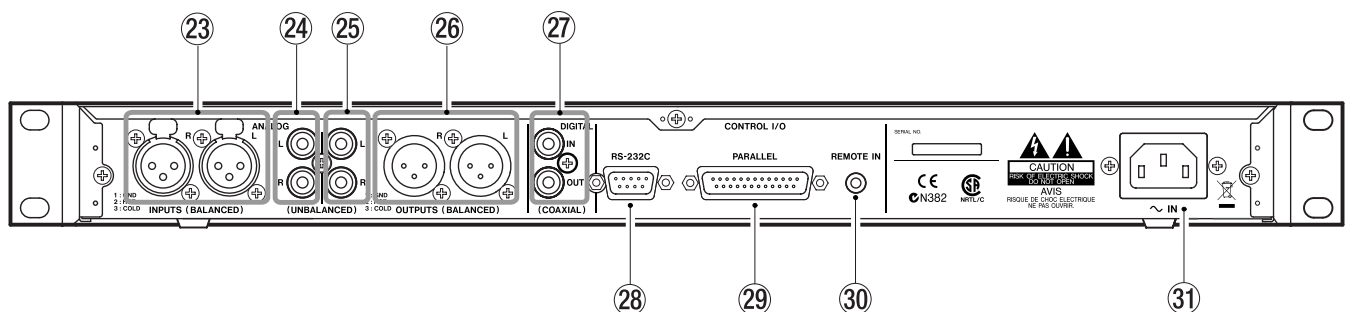
⑱ READYキー
停止中または再生中に押すと、再生待機になります。
録音中に押すと、録音待機になります。
再生待機中や録音待機中、キーが点灯します。

⑲ RECORD / TRK INCキー
停止中に押すと、録音待機になります。
録音中に押すと、トラック番号がインクリメントされます。
録音中や録音待機中、キーが点灯します。
カレントデバイスにメディアをセットしていないときに押すとインプットモニターになり、選択中の入力信号が出力されます。
インプットモニター中、キーが点滅します。

⑳ KEYBOARD端子
PS/2キーボードを接続します。
接続するキーボードに合わせて、UTILITYメニューのKEYBOARD項目を設定します。（→ 66ページ「キーボードタイプの設定」）

㉑ PITCHつまみ
このつまみを回して、ピッチ（再生スピード）の設定を行います。
このつまみを押すと、ピッチコントロールのオン／オフが切り換わります。
このつまみを長押しすると、ピッチステップの切り換えモードになります。（→ 25ページ「ピッチコントロール再生」）

㉒ PHONESつまみ、PHONES端子
PHONES端子にステレオヘッドホンを接続します。
PHONESつまみを使って、ヘッドホンの音量を調節します。

リアパネル

㉓ ANALOG INPUTS L/R（BALANCED）端子
アナログ入力端子（XLRバランス）です。
規定入力レベルは＋4dBuです。
ピン接続は、1番ピン＝グラウンド、2番ピン＝ホット、3番ピン＝コールドです。

㉔ ANALOG INPUTS L/R（UNBALANCED）端子
アナログ入力端子（RCAピンジャック）です。
規定入力レベルは－10dBVです。

㉕ ANALOG OUTPUTS L/R（UNBALANCED）端子
アナログ出力端子（RCAピンジャック）です。
規定出力レベルは－10dBVです。

㉖ ANALOG OUTPUTS L/R（BALANCED）端子
アナログ出力端子（XLRバランス）です。
規定出力レベルは＋4dBuです。
ピン接続は、1番ピン＝グラウンド、2番ピン＝ホット、3番ピン＝コールドです。

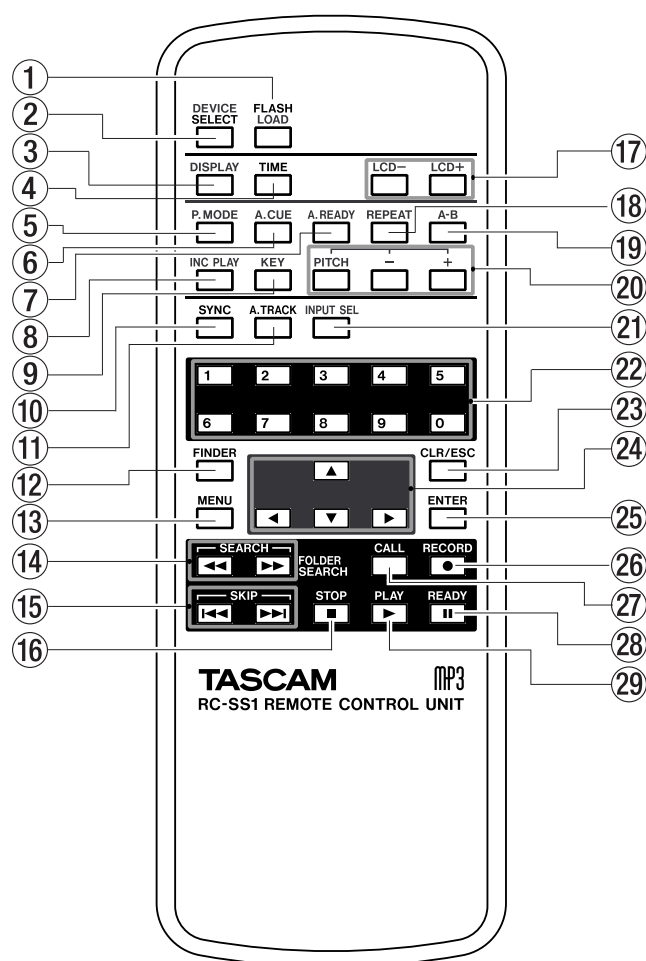
㉗ DIGITAL IN／OUT（COAXIAL）端子
IEC-60958（S/PDIF）に準拠したデジタル入力／出力端子です。

㉘ CONTROL I/O（RS-232C）端子
D-Sub 9ピンのRS-232Cコントロール用I/O端子です。
外部PCなどを接続します。（→ 68ページ「RS-232C端子を使う」）

㉙ CONTROL I/O（PARALLEL）端子
D-Sub 25ピンのパラレルコントロール用I/O端子です。外部のコントローラーを接続します。ピン配列などについては「パラレル端子を使う」（68ページ）をご覧ください。

㉚ REMOTE IN 端子
専用リモコンRC-SS1を接続します。

㉛ AC IN コネクター
付属の電源コードを接続します。

リモートコントロールユニット（RC-SS1）

① FLASH LOADキー
フラッシュスタートの準備として登録トラックの読み込みを行います。読み込み完了後はディスプレイに "FLASH" が点灯します。（ → 30ページ「フラッシュスタート機能」）

② DEVICE SELECTキー
本体フロントパネルのSELECTキーと同じ働きをします。

③ DISPLAYキー
本体フロントパネルのDISPLAY / INFOキーと同じ働きをします。

④ TIMEキー
ホーム画面表示中に押すと、本機の時間表示モードが切り換わります。（ → 24ページ「再生時間表示モードを選択する」）（ → 38ページ「録音時間表示モードを選択する」）

⑤ P.MODEキー
再生モードを切り換えます。再生モードはCONTINUE（通常の連続再生）、SINGLE（1曲再生）、PROGRAM（プログラム再生）、RANDOM（ランダム再生）の中から選択できます。（ → 23ページ「再生モード」）

⑥ A. CUEキー
オートキュー機能のオン／オフを切り換えます。（ → 27ページ「オートキュー機能」）

⑦ A. READYキー
オートレディ機能のオン／オフを切り換えます。（ → 28ページ「オートレディ機能」）

⑧ INC PLAYキー
インクリメンタルプレイ機能のオン／オフを切り換えます。
（ → 28ページ「インクリメンタルプレイ機能」）

⑨ KEYキー
キーコントロール再生機能のオン／オフを切り換えます。（ → 26ページ「キーコントロール再生」）

⑩ SYNCキー
シンク録音のオン／オフを切り換えます。（ → 38ページ「シンク録音」）

⑪ A. TRACKキー
オートトラックモードを切り換えます。OFF、LEVEL、DD、TIMEの中から選択できます。（ → 40ページ「オートトラック機能」）

⑫ FINDERキー
カレントデバイスおよび再生エリアの設定に応じたファインダ画面を呼び出します。（ → 43ページ「フォルダファインダ画面を開く」）（ → 52ページ「CD-DAファインダ画面を開く」）（ → 53ページ「プレイリストファインダ画面を開く」）

⑬ MENUキー
本体フロントパネルのMENUキーと同じ働きをします。ただし、長押しによるファインダ画面の呼び出し機能はありません。

⑭ SEARCH（◀◀ / ▶▶）キー
本体フロントパネルの ◀◀ / ▶▶ キーと同じ働きをします。ただし、メニューモードでは動作しません。

⑮ SKIP（|◀◀ / ▶▶|）キー
本体フロントパネルのMULTI JOGダイヤルを回したときと同じ動作を行います。

⑯ STOPキー
本体フロントパネルのSTOPキーと同じ働きをします。

⑰ LCD（＋／－）キー
LCDディスプレイのコントラストを調節します。（ → 17ページ「コントラストの調整」）

⑱ REPEATキー
リピート再生機能のオン／オフを切り換えます。（ → 24ページ「通常のリピート再生」）

⑲ A-Bキー
A-Bリピート再生の操作に使います。（ → 24ページ「A-Bリピート再生」）

⑳ PITCH（＋／－）キー
PITCHキーは、本体フロントパネルのPITCHつまみを押したときと同じ働きをします。
(＋／－)キーは、本体フロントパネルのPITCHつまみを回したときと同じ働きをします。（ → 25ページ「ピッチコントロール再生」）

㉑ INPUT SELキー
録音入力ソースを切り換えます。ANALOG（RCA)、ANALOG（XLR)、COAXIALの中から選択できます。（ → 32ページ「入力ソースを選択する」）

㉒ テンキー（0～9）
トラックを選択するときに使います。（ → 21ページ「トラック番号を指定する」）

㉓ CLR/ESCキー
トラック番号入力操作中に押すと、トラック番号入力の初期状態に戻ります。
プログラム入力時、トラック番号登録中はトラック番号が取り消され、それ以外は最後に登録されたプログラムが削除されます。（ → 23ページ「プログラム再生」）
メニュー画面やファインダ画面表示中に押すと、ディスプレイがホーム画面に戻ります。

㉔ CURSOR（ ▲, ▼, ◀, ▶ ）キー
メニュー操作時に使います。CURSOR ▲ / ▼キーは、上下の項目選択や値の選択を行います。CURSOR ◀キーはメニュー階層を戻るときに使い、CURSOR ▶キーはメニュー階層を進むときに使います。

㉕ ENTERキー
フロントパネルのMULTI JOGダイヤルを押したときと同じ動作を行います。

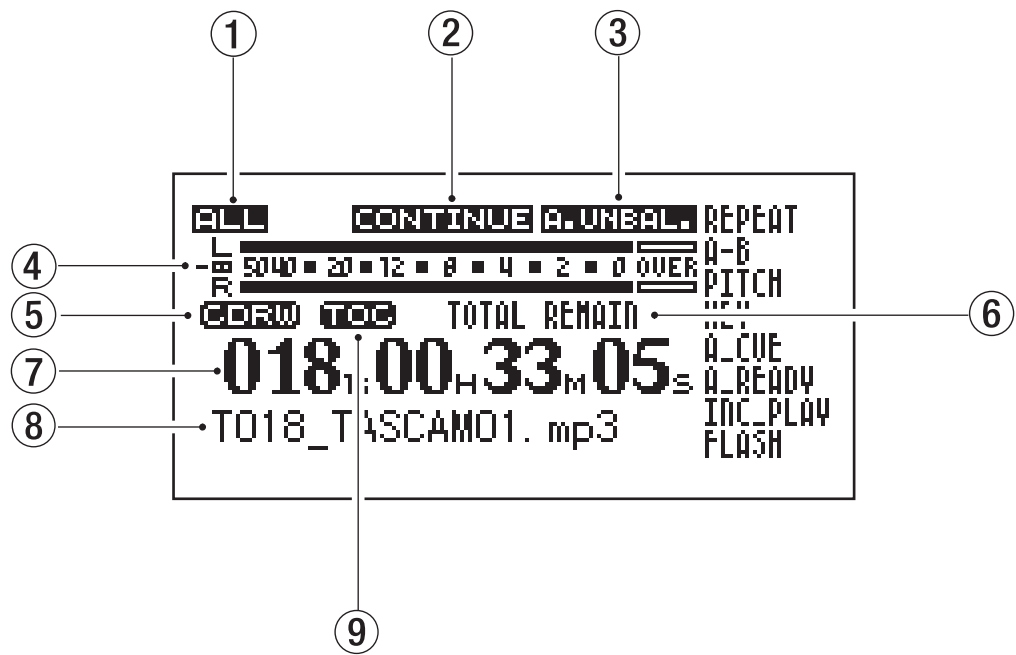
㉖ RECORDキー
本体フロントパネルのRECORDキーと同じ働きをします。

㉗ CALLキー
本体フロントパネルのCALLキーと同じ働きをします。
（ → 28ページ「コール機能」）

㉘ READYキー
本体フロントパネルのREADYキーと同じ働きをします。

㉙ PLAYキー
本体フロントパネルのPLAYキーと同じ働きをします。

ホーム画面

ディスプレイに表示される基本画面をホーム画面と呼びます。
ホーム画面以外の画面を表示中、TIME / ESC キー（またはリモコンの CLR/ESC キー）を押すとホーム画面に戻ることができます。

ホーム画面は、以下の情報を表示します。

① 再生エリア
設定中の再生エリアを表示します。

② 再生モード
設定中の再生モードを表示します。

③ 入力ソース
設定中の入力を表示します。

④ レベルメーター
再生中は再生レベル、録音中／録音待機中は録音レベルを表示します。

⑤ カレントデバイス
カレントデバイス（"CD" または "CF"）が表示されます。ただし、カレントデバイスが CD で、CD-RW あるいは CD-R ディスクがセットされている場合、それぞれ、"CDRW"、"CDR" と表示されます。

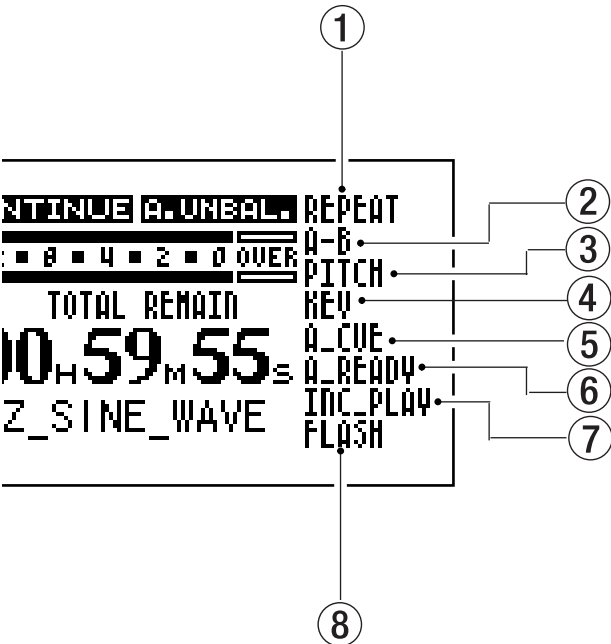
⑥ 時間表示モード
選択中の時間モードを表示します。

⑦ カウンター
トラック番号および時間を表示します。
時間は選択中の時間表示モードに基づいて表示されます。

⑧ 情報表示
ファイル名などを表示します。

⑨ TOC
ファイナライズ済みの CD をセットして、本機が TOC 情報の読み込みを完了すると "TOC" が点灯します。

各種インジケーター

再生／停止時と録音／録音待機時とで、表示内容が異なります。

再生時／停止時

① REPEAT
リピートモード中に点灯します。

② A-B
A-B リピートモード中に点灯します。

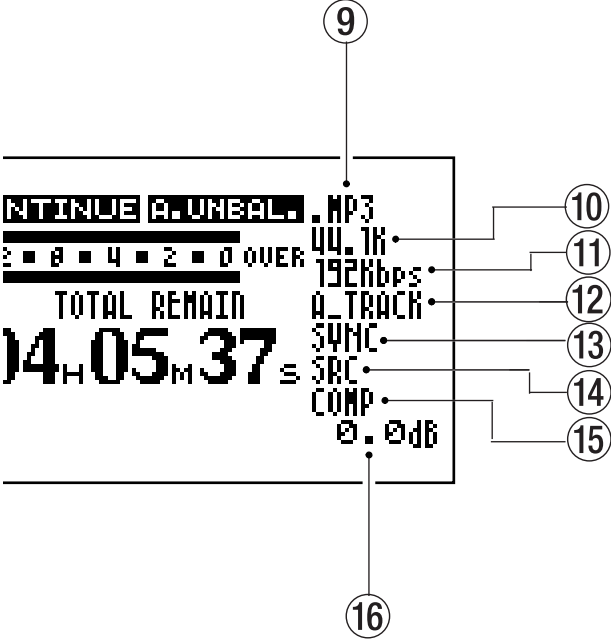
③ PITCH
ピッチコントロール機能が有効なとき点灯します。

④ KEY
キーコントロール機能が有効なとき点灯します。

⑤ A_CUE
オートキュー機能が有効なとき点灯します。

⑥ A_READY
オートレディ機能が有効なとき点灯します。

⑦ INC_PLAY
インクリメンタルプレイ機能が有効なとき点灯します。

⑧ FLASH
フラッシュロードが完了しているとき点灯します。

録音時／録音待機時

⑨ FILE
録音ファイルフォーマット（ WAV、MP3 または CD-DA ）を表示します。

⑩ FS
録音ファイルのサンプリングレートを表示します。

⑪ BIT
録音ファイルのビットレートを表示します。（MP3 ファイルのみ）

⑫ A_TRACK
オートトラック機能が有効なときに点灯します。

⑬ SYNC
シンク録音が有効なときに点灯します。

⑭ SRC
サンプリングレートコンバーター機能が有効なときに点灯します。

⑮ COMP
コンプレッサー機能が有効なときに点灯します。

⑯ VOLUME
録音ボリュームを表示します。

第3章　メニュー画面

本機はメニューシステムを使って各種初期設定を行います。
MENU キーを押すとメニューモードに入り、メインメニューリスト画面が表示されます。

［CF デバイス選択時の MENU］

```
MENU
 1.PLAY      1.PLAY AREA
 2.REC       2.PLAY MODE
 3.UTILITY   3.AUTO CUE
 4.CD        4.AUTO READY
             5.REPEAT
             6.KEY
```

［CD デバイス選択時の MENU］

メニューの構成

以下の４つのメインメニューがあります。

PLAY メニュー：再生に関するメニューです。
REC メニュー：録音に関するメニューです。
UTILITY メニュー：本機の環境設定などを行うメニューです。
CD メニュー： CD 特有の操作に関するメニューです。

以下に、各メニューの項目概要を表にまとめます。

メニュー項目	サブメニュー項目	機能	参照ページ
PLAY	PLAY AREA	再生エリアの設定	→P20
	PLAY MODE	再生モードの設定	→P23
	AUTO CUE	オートキューのオン／オフ設定	→P27
	AUTO READY	オートレディのオン／オフ	→P28
	REPEAT	リピート再生のオン／オフ	→P24
	KEY	キーコントロールのオン/オフ設定	→P26
	PREFERENCE	各種再生プリファレンス設定	→P29～

メニュー項目	サブメニュー項目	機能	参照ページ
REC	INPUT SELECT	入力ソースの選択	→P32
	INPUT VOLUME	入力ボリュームの設定	→P34
	REC FORMAT	録音ファイルのフォーマット設定	→P33
	SYNC	シンク録音の設定	→P38
	AUTO TRACK	オートトラックインクリメントの設定	→P40
	PREFERENCE	各種録音プリファレンス設定	→P34～
UTILTIY	MEMORY FORMAT	CF カードのフォーマット	→P65
	LCD BRIGHTNESS	ディスプレイの輝度設定	→P18
	KEYBOARD	PS/2 キーボードタイプの設定	→P66
	CLOCK ADJUST	内蔵時計の時刻設定	→P17
	RS-232C	RS-232C の通信設定	→P68
	INFORMATION	本機の動作時間やメディア情報を表示	→P65
	FACTORY PRESET	工場出荷時設定に戻す	→P65
CD	FINALIZE	CD-R/CD-RW のファイナライズ	→P36
	ERASE	CD-RW の消去	→P63
	BURN TO CD	CF から CD への書き込み	→P56
	RIP TO CF	CD から CF への書き込み	→P60

メモ

CD デバイス選択時であっても、CD がセットされていないと CD メニューを選択することができません。

メニュー画面の操作

画面内の操作は、以下の要領で行います。

- **項目を選択する（画面の縦方向の選択）には：**
  本体では MULTI JOG ダイヤルを回します。
  リモコンでは CURSOR ▲ / ▼キーを使います。
- **反転表示した項目を確定するには：**
  本体では MULTI JOG ダイヤルを押します。
  リモコンでは ENTER キーを押します。
- **カーソルを左右に移動するには：**
  本体では ◀◀ / ▶▶ キーを使います。
  リモコンでは CURSOR ◀ / ▶キーを使います。

- **画面に表示されていないサブ画面（右側に▶が表示されます）に進むには：**

  本体では ►► キーを押します。
  リモコンでは CURSOR ▶キーを押します。

- **メニュー階層をひとつ戻るには：**

  本体では ◄◄ キーを押します。
  リモコンでは CURSOR ◀キーを押します。

- **メニューモード中、直接ホーム画面に戻るには：**

  本体では TIME / ESC キーを押します。
  リモコンでは CLR/ESC キーを押します。

メ モ

現在表示されているリストの上または下にも項目がある場合、画面の上部に ▲ または下部に ▼ が表示されます。
以下に具体例として、PLAY メニューの AUTO CUE 項目を ON に設定し、さらにオートキューレベルを変更する手順を説明します。

1. MENU キーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. メニューを選択します。

   本体操作の場合：
   MULTI JOG ダイヤルを回して PLAY 項目を反転し、MULTI JOG ダイヤルを押します。

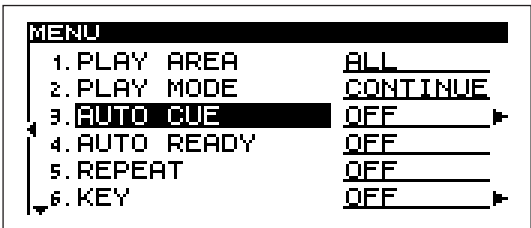
   リモコン操作の場合：
   CURSOR ▲ / ▼キーを使って PLAY 項目を反転し、ENTER キーを押します。

3. AUTO CUE 項目を選択します。

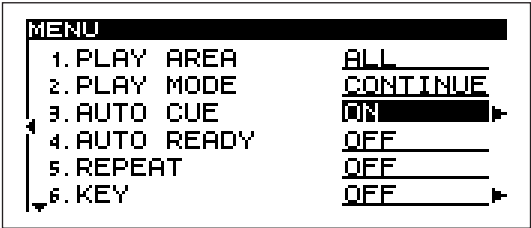
   本体操作の場合：

   MULTI JOG ダイヤルを回して AUTO CUE 項目を反転し、MULTI JOG ダイヤル（または ►► キー）を押します。

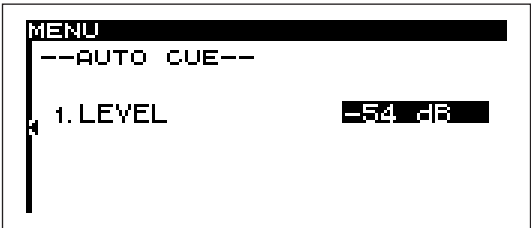
   リモコン操作の場合：

   CURSOR ▲ / ▼キーを使って AUTO CUE 項目を反転し、ENTER キー（または CURSOR ▶キー）を押します。

4. AUTO CUE 項目を ON に設定します。

   本体操作の場合：
   MULTI JOG ダイヤルを回して ON を反転します。

   リモコン操作の場合：
   CURSOR ▲ / ▼キーを使って AUTO CUE 項目を反転します。

5. AUTO CUE のサブ画面に進みます。

   本体操作の場合：
   ►► キーを押します。

   リモコン操作の場合：
   CURSOR ▶キーを押します。

6. AUTO CUE LEVEL を希望の値に設定します。

   本体操作の場合：
   MULTI JOG ダイヤルを回して値を選択します。

   リモコン操作の場合：
   CURSOR ▲ / ▼キーを使って値を選択します。

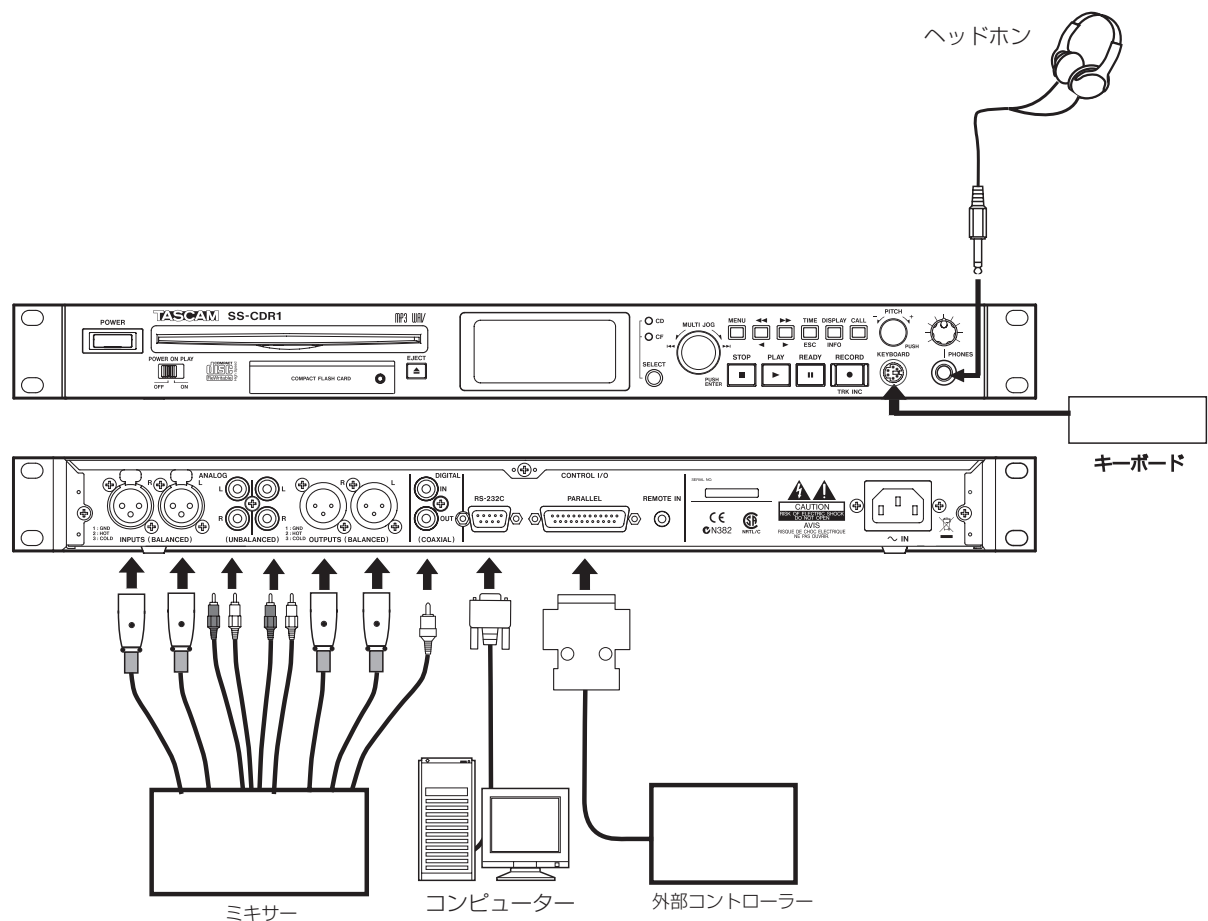
7. ホーム画面に戻ります。

   本体操作の場合：

   TIME / ESC キーを押します。

   リモコン操作の場合：

   CLR/ESC キーを押します。

接続する

ヘッドホンの接続

PHONES端子にステレオヘッドホンを接続します。ボリュームはPHONES端子のすぐ上のPHONESつまみで調節します。

PS/2キーボードの接続

ファイル（トラック）名やフォルダ名の入力の他に、キーボードからの操作が可能です。（ → 66ページ「コンピュータキーボードを使った操作」）

オーディオ機器の接続（入力）

外部のオーディオソース（CDプレーヤー、ミキサーなど）を、本機のANALOG INPUTS (BALANCED)端子、ANALOG INPUTS (UNBALANCED)端子、DIGITAL IN端子に接続します。

入力選択はRECメニューのINPUT SELECT項目を使って行います。

入力ボリュームをRECメニューのINPUT VOLUME項目を使って調節することができます。

オーディオ機器の接続（出力）

外部のモニターシステムやミキサーなどを、本機のANALOG OUTPUTS (BALANCED)端子、ANALOG OUTPUTS (UNBALANCED)端子、DIGITAL OUT端子に接続します。

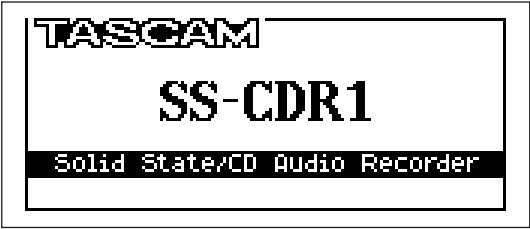
パソコン

本機のRS-232C端子とパソコンのRS-232C端子を接続することによって、パソコンから本機をシリアル制御することができます。接続後、本機の通信設定を正しく行います。（ → 68ページ「RS-232Cを使う」）

パラレル制御のコントローラー

外部のコントローラーから本機をパラレル制御するときには、PARALLEL端子（25ピンD-Sub コネクター）を使います。PARALLEL端子のピン配列については「パラレル端子を使う」（68ページ）をご覧ください。

電源を入れる

POWERスイッチを押して電源をオンにします。

本機が起動し、起動画面が表示されます。

カレントデバイスにメディアがセットされていないとき、ディスプレイに "NO MEDIA" と表示されます。
メディアがセットされているときは、ディスプレイに "MEDIA READ" と表示され、メディアの読み込みが行われます。読み込みが終了するとホーム画面に変わります。

電源を切るには：
特別な終了動作は不要です。POWERスイッチを押して、電源を切ります。

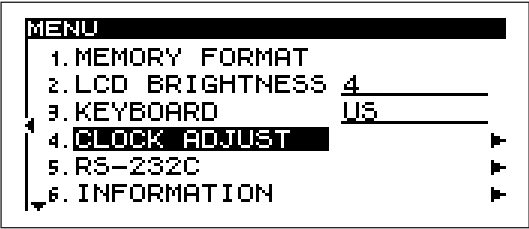
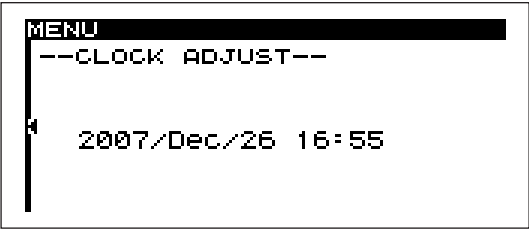
ご注意

デバイスインジケーター（ CDまたはCF ）点滅時（書き込み中）は、電源を切らないでください。

日時を設定する

本機内蔵の時計の日時を設定します。録音を行うとき、オーディオファイルのデータとして日時が記録されます。

1. MENUキーを押してメニューリスト画面を表示します。

2. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを使って）UTILITYを反転し、MULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
UTILITYメニューを選択する画面になります。

3. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを使って）CLOCK ADJUSTを反転し、本体の ►► キー（またはリモコンのCURSOR ►キー）を押します。
クロック設定画面になります。

4. 本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
西暦の下２桁が反転表示されます。

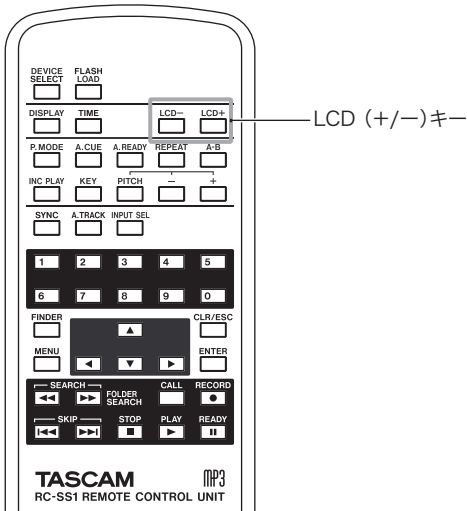
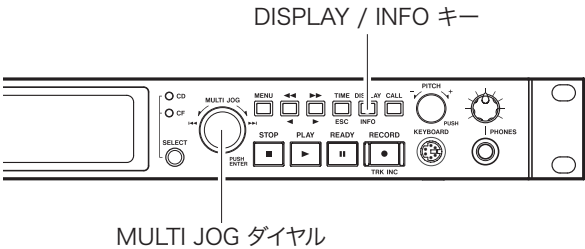
5. 以下の要領で日時を設定します
- 本体の ◄◄ / ►► キー（またはリモコンのCURSOR ◄ / ►キー）を使って設定したい項目を反転表示させます。
- 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを押して）反転表示された項目を変更します。

6. 設定を終えたら、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押して、日時を確定します。

ディスプレイを調整する

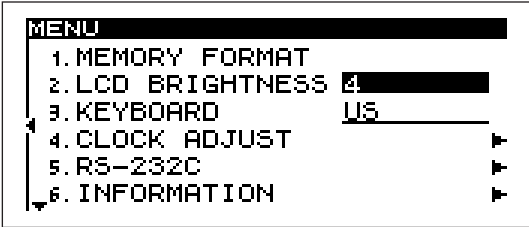
必要に応じて、ディスプレイのコントラストと明るさを調節することができます。

コントラストの調整

DISPLAY / INFOキーを押しながらMULTI JOGダイヤルを回すことにより（またはリモコンのLCD ＋／ーキーを使って）、本機のディスプレイのコントラストを調節することができます。

明るさの調整

UTILITYメニューのLCD BRIGHTNESS項目を使って、バックライトの明るさを調整することができます。

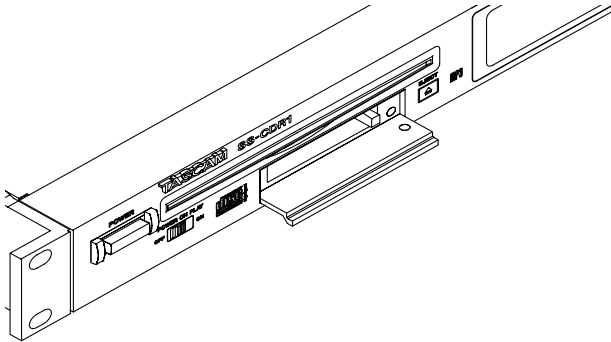
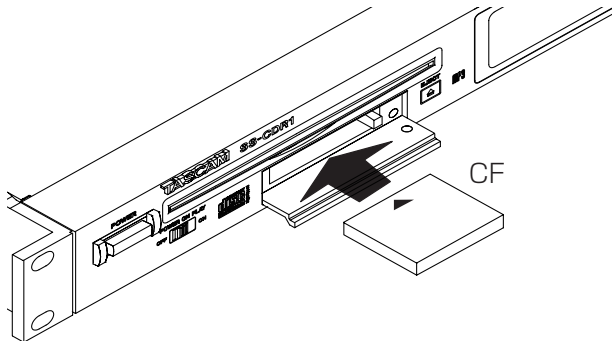
1. MENUキーを押してメインメニューリストを表示します。
2. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを使って）UTILITY項目を反転し、本体のMULTI JOGダイヤルまたは ►► キーを押します（リモコンの場合、ENTERキーまたはCURSOR ►キーを押します）。

3. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを使って）LCD BRIGHTNESS項目を反転し、本体のMULTI JOGダイヤルまたは ►► キーを押します（リモコンの場合、ENTERキーまたはCURSOR ►キーを押します）。

4. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを使って）明るさを調節します）。

CFカードをセットする

メモ

電源のオン／オフ、カレントデバイスの選択にかかわらず、いつでもカードをセットすることができます。

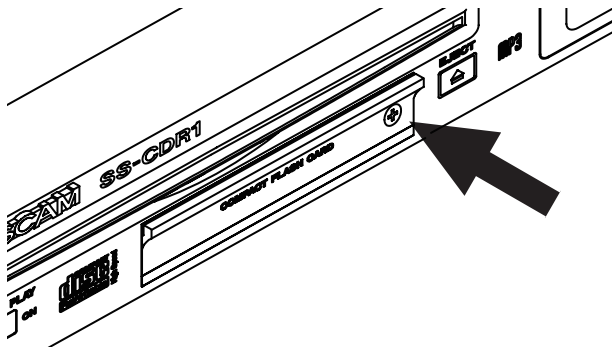
1. CFカード用スロットのドアを開きます。

2. CFカードを正しい向きに挿入します。
   ラベル面を上、端子部を奥にして挿入します。

3. ドアを閉じます。

メモ

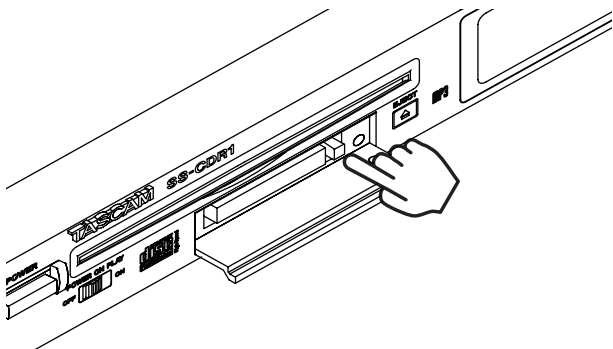
スロットのドアが閉まらない場合、一度カードを抜き、カード挿入口の右にある四角ボタンを押し込んでから、再度カードを入れてください。

カレントデバイスがCFの場合、電源がオンのときにカードがセットされると、ディスプレイに "MEDIA READING" と表示されます。
電源がオフのときにセットされた場合は、電源オン時に起動画面表示後、"MEDIA READING" と表示されます。

セキュリティについて

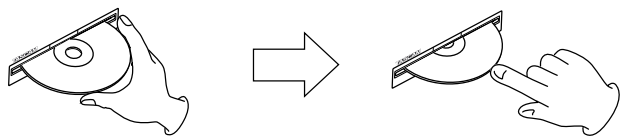
付属のセキュリティビスを使って、CFカード用スロットのドアをロックすることができます。
セキュリティビスの取り付け／取り外しは、プラスドライバーを使って行ってください。

カードを取り出すには

電源をオフにするか、動作を停止してから、カードを取り出します。記録中（CFインジケーター点滅中）は絶対にカードを取り出さないでください。

1. ドアをロックしている場合は、ドライバーを使用してセキュリティビスを外します。
2. CFカード用スロットのドアを開きます。
3. カード用スロットの右にある四角ボタンを押すと、ボタンが出てきます。

4. 出てきた四角ボタンを押し込むと、カードが一部排出されます。
5. 手でつまんでカードを引き出します。

CDをセットする

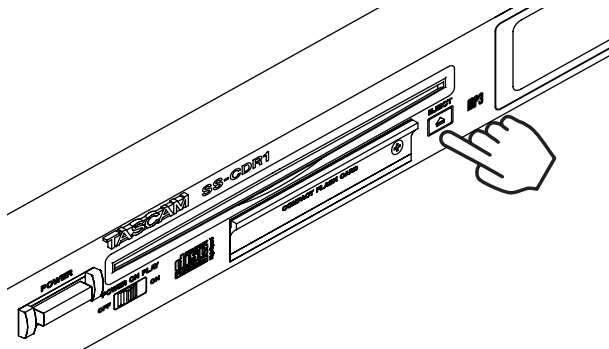
メモ

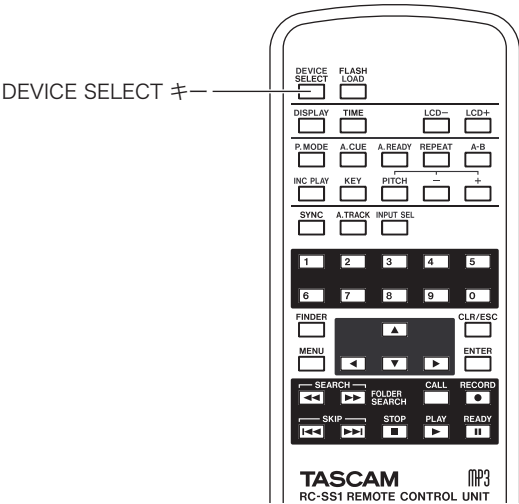
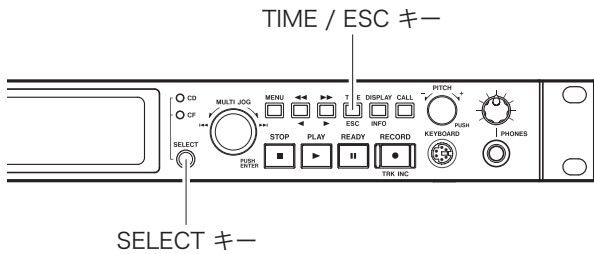
カレントデバイスにかかわらず、電源がオンのときはいつでもCDをセットすることができます。

1. 図のようにレーベル面を上にしてディスクの側面を持って、途中までディスクを挿入してください。
2. さらにディスクを押していくと、ディスクが挿入口に隠れる直前で自動的に引き込まれます。

ディスクがうまく入らないとき

ディスクが引っかかる等、押しにくい時は、無理に押し込まずに一度ディスクを抜いてEJECTキーを押してから、再度入れ直してください。（無理に押し込むと、製品を破損する場合があります。）

CDを取り出すには

EJECTキーを押します。
ディスクが途中まで排出されますので、指で引き抜きます。

デバイスを選択する

本機を使って作業を行う前に、使用するメディア（CDまたはCFカード）に応じてデバイス（CDまたはCF）を選択します。選択中のデバイスを「カレントデバイス」と呼びます。
デバイスを選択するには、本体のSELECTキーまたはリモコンのDEVICE SELECTキーを押して希望のデバイスのインジケーター（"CD" または "CF"）を点滅させ、本体のMULTI JOGダイヤルまたはリモコンのENTERキーを押して確定します（デバイスインジケーターが点灯に変わります）。
デバイス選択操作を取り消す場合、本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押します。

第5章　再生

CDまたはCFカードに収録されているオーディオファイルの再生機能を説明します。
以下の説明では、オーディオファイルが記録されたCDまたはCFカードが本機にセットされ、本機の電源がオンになっていて、カレントデバイス（CDまたはCF）が適切に選択されていることを前提にしています。（ → 19ページ「デバイスを選択する」）

再生可能なファイル

本機では以下のフォーマットのファイルを再生することができます。

CFカード使用時：

- **WAVフォーマットのファイル**
  ステレオおよびモノラル、サンプリング周波数**44.1kHz**および**48kHz**のWAVファイルを再生できます。
- **MP3フォーマットのファイル**
  ステレオおよびモノラル、サンプリング周波数**44.1kHz**および**48kHz**、ビットレート**64kbps** ～**320kbps**のMP3ファイルを再生できます。

CD使用時：

- **CD-DA（オーディオCD）フォーマットのファイル**
  市販のオーディオCDや、オーディオCDフォーマットで記録したCDを再生できます。
- **WAVフォーマットのファイル**
  ステレオおよびモノラル、サンプリング周波数**44.1kHz**および**48kHz**のWAVファイルを再生できます。
- **MP3フォーマットのファイル**
  ステレオおよびモノラル、サンプリング周波数**44.1kHz** および**48kHz**、ビットレート**64kbps** ～**320kbps**の**MP3**ファイルを再生できます。

ご注意

MP3ファイルの圧縮方式がVBRのファイルについて
VBRのファイルはフォーマット上の制約により正確な位置検出ができません。そのため、タイムスキップ、コール、**A-B**リピートの**A**点設定など、トラック途中でのポイント設定が必要になる機能を本機で行う場合、設定時のポイントと再生を開始するポイントで若干のズレが生じることがあります。

ヒント

上記のファイルフォーマットであれば、本機で録音したファイルでなくても再生することができます。
例えば、パソコンあるいは他のオーディオ機器を使用し、上記の要件を満たすファイルをCDやCFカードに書き込み、そのメディアを本機にセットして再生することができます。
したがって、本機の再生素材を作成する際に効率的に作業を行うことが出来ます。

トラックとファイル

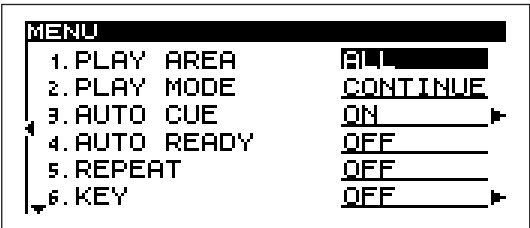
メディア上にはオーディオデータが「オーディオファイル」として保存されています。これらのファイルは、本機では「トラック」として扱われます。
したがって、本書における再生や録音の説明では、オーディオファイルのことを「トラック」と呼び（場合によって「曲」と呼ぶ場合もあります）、メディア管理などの説明では主にファイルと呼びますが、実体としては同じものを指すとご理解ください。

再生エリア

ホーム画面上で選択できる再生トラックの範囲を「再生エリア」と呼びます。
オーディオCDの場合は、常にディスク全体が再生エリアになります。WAVファイルやMP3ファイルを記録したCD、およびCFカードでは、再生エリアを設定することができます。
メディア上に多数のファイルが記録されている場合など、選択範囲を限定することによりトラック選択が容易になります。

再生エリアのタイプを選ぶ

メニューを使って、再生エリアのタイプを設定します。
（メニュー画面の操作に関しての詳細は「メニュー画面の操作」（14ページ）をご覧ください。）

1. 停止、またはメディアがセットされていない状態で、**MENU**キーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. **PLAY**メニューを選択します。
3. **PLAY AREA**項目を選択します。

4. 希望の再生エリアのタイプを設定します。
   CFカード使用時は、**ALL**、**FOLDER**、**PLAYLIST**の中から選択できます。
   データCD使用時は、**ALL**、**FOLDER**のいずれかを選択できます。
   オーディオCD使用時は、常に**ALL**です。
5. 設定を終えたら、本体の**TIME / ESC**キー（またはリモコンの**CLR/ESC**キー）を押してホーム画面に戻します。
   ホーム画面の左上部に、再生エリアのタイプが表示されます。

メ モ

再生エリア設定は、電源を切っても保持されます。

カレントフォルダ、カレントプレイリストを選ぶ

再生エリアをフォルダやプレイリスト（CFカード使用時のみ）に設定した場合、ホーム画面表示中で本機が停止中に、本体の ◀◀ / ▶▶ キー（またはリモコンのSEARCH ◀◀ / ▶▶ キー）を使って、再生対象とするフォルダやプレイリストを選択することができます。これらのフォルダ、プレイリストをそれぞれ「カレントフォルダ」、「カレントプレイリスト」と呼びます。

メモ

- フォルダファインダ画面やプレイリストファインダ画面から、「カレントフォルダ」や「カレントプレイリスト」を選択することもできます。(→ 43ページ「フォルダファインダを使う」)(→ 53ページ「プレイリストの編集[CFのみ]」)
- WAV形式、MP3形式のオーディオファイルの場合、本機で再生可能なトラック数は、最大999トラックです。
  999以上のトラックが記録されているメディアを本機にセットした場合、本機のシステム上のルールに基づいて選択された999トラックが再生可能となります。それ以外のトラックは、再生や編集を行うことができません。
- オーディオCD（CD-DA）形式のオーディオファイルの場合、本機で再生可能なトラック数は、最大99トラックです。

再生の基本操作

ここでは、再生、一時停止、停止などの基本操作について説明します。
以下の説明では、必要な接続を終え、本機の電源がオンになっていて、オーディオファイルが記録されたメディアがカレントデバイスにセットされ、ディスプレイがホーム画面を表示していることを前提にしています。

再生する

再生を始めるには、PLAYキーを押します。

メモ

本機で再生可能なオーディオファイルがメディア上に記録されていない場合、カウンター表示部（トラック番号および時間表示）がすべてゼロ表示になります。

- 再生を停止するには
  STOPキーを押します。
- 再生を一時停止するには
  READYキーを押します。

なおこの取扱説明書では、特に断らない限り、再生モードがCONTINUE（連続再生モード）に設定されているものとして説明しています。

トラックを選ぶ

再生エリアに複数のトラックが存在するときの選曲方法を説明します。選曲方法には、前後のトラック番号に移動する方法（スキップ）と、トラック番号を直接指定する方法があります。

前後のトラックにスキップする

フロントパネルのMULTI JOGダイヤルを回すと（またはリモコンのSKIPキーを押すと）前後のトラックにスキップします。

- MULTI JOGダイヤルの場合、右に回すと次のトラック、左に回すと手前のトラックにスキップします。
- SKIPキーの場合、▶▶I キーを押すと次のトラック、I◀◀ キーを押すと手前のトラックにスキップします。

トラックを選択した後、フロントパネルまたはリモコンのPLAYキーを押すと、トラックの再生が始まります。
また、PLAYキーの代わりにフロントパネルまたはリモコンのREADYキーを押すと、選択したトラックの先頭で一時停止します。

トラック番号を指定する

リモコンのテンキー（ 0 ～9 ）を使用して、再生するトラック番号を直接指定することができます。
トラック番号はオーディオCDフォーマットの場合は最大2桁、WAVフォーマットおよびMP3フォーマットの場合は最大3桁です。

1. リモコンのテンキー（ 0 ～9 ）を使って、トラック番号を入力します。トラック番号は高い桁の数字から順に入力します。
   - トラック1を指定する場合：
     1 キーを1 回押す。
   - **トラック12を指定する場合：**
     1 キー→2 キーの順に押す。
2. PLAYキーを押します。
   選択したトラックの再生が始まります。
   また、この手順でPLAYキーの代わりにリモコンのREADYキーを押した場合は、選択したトラックの先頭で一時停止状態になります。

メモ

- PLAYキーを押す代わりにMULTI JOGダイヤルを押して（またはリモコンのENTERキーを押して）、選択したファイルを再生することもできます。
- プログラム、ランダムモード時はテンキーによるトラック指定は出来ません。

早送り／早戻しサーチ

音声を聞きながらトラック内を早送り／早戻しサーチすることができます。

1. 希望のトラックを再生または一時停止にします。
2. ►► キーまたは ◄◄ キーを押し続けます。
   早送り／早戻しサーチが始まります。
3. サーチを止めるには、押し続けているキーを離します。
   サーチを始める前の状態（再生または一時停止）に戻ります。

タイムサーチ

本機が停止中、再生中または一時停止中、指定したトラックの指定時間にロケートすることができます。

メモ

再生モードがプログラムモードまたはランダムモード時は、タイムサーチを行うことができません。

1. リモコンのテンキー（0～9）を使って、以下の順に数字を入力します。

● **WAV、MP3フォーマットの場合**

- トラック番号：3桁
- トラックの先頭からの経過時間（XX時／XX分／XX秒）：それぞれ2桁

● **オーディオCDフォーマットの場合**

- トラック番号：2桁
- トラックの先頭からの経過時間（XX分／XX秒）：それぞれ2桁

例えば、MP3フォーマットのトラック2 の先頭から1 分30 秒の位置を指定する場合、以下の順にキーを押します。

0 → 0 → 2 → 0 → 0 → 0 → 1 → 3 → 0

9桁の数字入力を終えた時点で、自動的に指定位置にロケートします。
また、オーディオCDフォーマットのトラック2の先頭から1 分30 秒の位置を指定する場合、以下の順にキーを押します。

0 → 2 → 0 → 1 → 3 → 0

6桁の数字入力を終えた時点で、自動的に指定位置にロケートします。

ロケート前の本機の状態が停止中または再生中の場合、ロケート後に再生を始めます。ロケート前の本機の状態が一時停止中の場合、ロケート後に一時停止します。

メモ

現在の再生エリアに存在しないトラック番号や、トラック内に存在しない時間を指定すると、その時点で設定操作が解除されます。

途中まで指定してタイムサーチを行う

数字入力を最後の秒桁まで完了する前にリモコンのENTERキー（またはPLAY、READYキー）を押すと、その時点での指定位置にロケートします。
例えば、MP3形式のトラックを収録したCD使用時に、" 0 → 0 → 2 → 0 → 0 → 1 → 2 " と入力してENTERキーを押すと、トラック2の先頭から12分の位置にロケートします。
ロケート後の動作は、ENTERキー押しの場合はロケート前の状態に応じて再生または一時停止します。PLAYキー押しの場合は再生を開始します。READYキー押しの場合は一時停止します。

メモ

- この方法の場合、最後に入力する桁（トラック、時、分、秒）の中では頭の0を（トラック桁の場合は00も）省略できます。例えば、MP3形式のトラックを収録したCD使用時に、トラック2の2分の位置にロケートする場合、" 0 → 0 → 2 → 0 → 0 → 2 " と入力してENTERキーを押します。
- トラック番号のみを入力してENTERキー（またはPLAYキーまたはREADYキー）を押す操作は、「トラック番号を指定する」（21ページ）と同じです。

タイムスキップ

再生中または一時停止中、1分単位で、現在位置の前後にスキップすることができます。

1. 再生中または一時停止中、◄◄ / ►► キーを押します。
   現在の位置から1分後ろ、または1分手前の位置にロケートします。ロケート後の動作はロケート前の動作に従います。

メモ

- トラックの先頭から1分未満の位置で ◄◄ キーを押した場合、現在のトラックの先頭にロケートします。
- トラックの先頭から1秒未満の位置で ◄◄ キーを押した場合、前のトラックの終わりから1分前の位置にロケートします。ただし、カードまたはプログラムの先頭トラックの場合、現在のトラックの先頭で一時停止します。
  （ランダム再生時、トラックの先頭から1 秒未満の位置で ◄◄ キーを押した場合も、トラックの先頭にロケートします。）
- トラックの残り時間が1分未満の位置で ►► キーを押した場合、次のトラックの先頭にロケートします。ただし、カードまたはプログラムの最終トラックの場合、現在のトラックの最後で一時停止します。

再生モード

本機は以下の４種類の方法（再生モード）で、再生エリア内のトラックを再生することができます。

連続再生（初期設定）

再生エリア内のトラック番号順に再生します。

シングル再生

現在選択されているトラックだけを再生し、再生後に停止します。

プログラム再生

プログラム登録した順序でトラックを再生します。（ → 23ページ「プログラム再生」）

ランダム再生

再生エリア内のすべてのトラックを、トラック番号に関係なく、ランダムに再生します。全トラックの再生を終えると停止します。

再生モードを設定する

再生モードの選択は、リモコンの専用キーを使用して簡単に行うことができます。また、本体で選択するには、メニューモードを使用します。

リモコンの専用キーで設定する

1. 停止中またはメディアがセットされていないとき、リモコンのP.MODEキーを押すたびに、再生モードが切り替わります。ホーム画面に、現在選ばれているモードが次のように表示されます。

ディスプレイ表示	再生モード
CONTINUE	連続再生
SINGLE	シングル再生
PROGRAM	プログラム再生
RANDOM	ランダム再生

メモ

本取扱説明書では、特に断らないかぎり、再生モードが連続再生モードに設定されている前提で説明を行います。

メニューを使って本体から設定する

（メニュー画面の操作に関しての詳細は「メニュー画面の操作」（14ページ）をご覧ください。）

1. 停止状態でMENUキーを押してメニューモードにします。
2. MULTI JOGダイヤルを回してメニュー項目 "PLAY" を反転し、MULTI JOG ダイヤルを押します。
3. PLAY MODE項目を選択します。
4. MULTI JOGダイヤルを回して、再生モードを選びます。
5. TIME / ESCキーを押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

変更した再生モードは、電源を切っても保持されます。

プログラム再生

あらかじめプログラム登録した順序でトラックを再生します。プログラムできるトラック数は最大99トラックです。

1. 停止状態で、再生モードをプログラム再生モードに設定します。（ → 23ページ「再生モードを設定する」）
2. リモコンのテンキー（0～9）を使ってプログラムするトラック番号を入力し、ENTERキーを押して確定します。
   トラックがプログラムに登録されます。

メモ

本体で操作を行う場合、MULTI JOGダイヤルを回してトラックを選び、MULTI JOGダイヤルを押します。

3. 手順2.を繰り返して、希望のトラックを順次、プログラムに登録します。
   画面には、プログラム番号とトータル時間が表示されます。

メモ

- 同じトラックを繰り返しプログラムすることも可能です。
- リモコンのCLR/ESCキー（または本体のTIME/ESCキー）を押すと、最後にプログラムしたトラックがプログラムから削除されます。
- 100曲以上をプログラムしようとすると、エラーメッセージ "PROGRAM FULL" が表示されます。プログラムできるのは99曲までです。
- WAVファイル、MP3ファイルの場合、プログラムしたトラックの総再生時間が99時間59分59秒を超えると "- - H - - M - - S" と表示されます。オーディオCDの場合、99分59秒を超えると "- - M - - S" と表示されます。
- 本機以外でWAVファイルやMP3ファイルを記録したCDの場合、トータル時間が表示されず、時間表示部は "- - H - - M - - s" 表示になります。

4. PLAYキーを押してプログラム再生を始めます。

メモ

- プログラム再生モードでは、トラックが1 つもプログラム登録されていないときは、再生が行われません。
- 停止中にSTOPキーを押すと、すべてのプログラム登録データがクリアされます。
- 再生モードを切り替えると、プログラム登録データがクリアされます。
- 本体の電源を切ると、プログラム登録データがクリアされます。

再生時間表示モードを切り換える

ホーム画面に表示される再生時間表示モードを選択することができます。

1. 本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのTIMEキー）を押します。
   キーを押すたびに４種類の時間表示が切り替わります。現在選ばれている表示モードは、時間表示部の上に点灯表示されます。

点灯なし

現在のトラックの経過時間を表示します。

"REMAIN" が点灯

現在のトラックの残り時間を表示します。

"TOTAL" が点灯

再生エリアの先頭からの経過時間を表示します。

"TOTAL" と "REMAIN" が点灯

再生エリアの残り時間を表示します。

メモ

- 停止中は、"TOTAL"、"REMAIN" の点灯状態にかかわらず、常に再生エリアのトータル再生時間を表示します。
- 本機以外の機器（パソコンなど）を使ってWAVファイルやMP3ファイルを記録したCDの場合、停止中のトータル時間、再生中のトータル経過時間およびトータル残り時間が表示されません（トラック数あるいはトラック番号のみが表示され、時間表示部は−−表示になります）。ただし、本機で全トラックの再生を行った後では時間が表示されます。
- プログラムモードでは、再生エリア全体ではなくプログラム全体の経過時間と残り時間を表示します
- 時間表示モード設定は、電源を切っても保持されます。
- 録音中／録音待機中の時間表示については、「録音時間表示モードを切り換える」（38ページ）をご覧ください。

パワーオンプレイ

パワーオンプレイ機能は、電源を入れると自動的に再生を始める機能です。
この機能をオンに設定し、POWERスイッチを押し込んだ状態で、市販のタイマーなどを使って本機の電源を入れると、電源オフ時にカレントデバイスにセットされていたメディアが自動的に再生されます

1. 本機の電源がタイマーの電源出力から供給されるように、本機をタイマーに接続します。
2. 再生する準備をします。
   デバイスを選択し、カレントデバイスにメディアをセットします。
   再生エリアや再生モードなど、必要な設定を行います。
3. 本体のPOWER ON PLAYスイッチをPLAY側に設定します。
4. タイマーを希望の時刻に設定します。
   設定した時刻になると本機の電源がオンになり、自動的に再生を始めます。

リピート再生

再生エリアの全トラックを繰り返し再生したり、トラック内の任意の区間を繰り返し再生（A- Bリピート再生）することができます。

通常のリピート再生

リモコンのREPEATキーを押してリピート再生をオンにすると、再生エリア内のすべてのトラックを繰り返し再生します。（本体で選択するには、メニューモードを使用します。）

メモ

PLAYメニューのREPEAT項目を使って、本体からリピート再生をオンにすることもできます。

ディスプレイに "REPEAT" が点灯します。
この状態で、再生エリア内のすべてのトラックを繰り返し再生できます。
再生中にリピート再生をオンにした場合は、そのまま再生を続け、再生エリアの最後まで再生すると先頭に戻って再生を続けます。停止中にオンにした場合は、PLAYキーを押すとリピート再生が始まります。
リピート再生をオフにするには、リモコンのREPEATキーをもう一度押します（またはPLAYメニューのREPEAT項目をOFFに設定します）。
ディスプレイに "REPEAT" が消灯します。

メモ

- リピート再生をシングル再生、プログラム再生、ランダム再生と組み合わせることにより、1 曲リピート、プログラムリピート、ランダムリピートが可能です。
- リピート機能のオン／オフ設定は、電源を切っても保持されます。

A-B リピート再生

トラック内の任意の区間（A-B）を指定して、繰り返し再生します。

1. 再生中または一時停止中に、リピート再生区間の始点（A）にしたい位置で、リモコンの A-B キーを押します。
   ホーム画面に "REPEAT" と、"A" が点灯します。

メ モ

REPEAT キーを押すと、リピート再生の始点（A）が解除され、"REPEAT" と、"A-" が消灯します。

2. リピート再生区間の終点（B）にしたい位置で、再度リモコンの A-B キーを押します。再生中に解除した場合は、A-B リピート再生の終点に指定した位置を越えても再生が続きます。

メ モ

- STOP キーを押して停止状態にすると、指定した区間（A-B）は消去されます。
- トラックを跨いでの A-B リピート再生はできません。

ホーム画面に（ "REPEAT" に加えて）"A-B" が点灯します。
これで区間（A-B）が確定し、A-B リピート再生が始まります。

●A-B リピート再生をオフにするには：

リモコンの A-B キー、または REPEAT キーを押します。
ホーム画面の "REPEAT" インジケーターと、A-B インジケーターが消灯し、A-B リピート再生が解除されます。

ピッチコントロール再生

本機では、ピッチ（音の高さと再生の速さ）を変化させて再生できます（ピッチコントロール再生）。
ピッチコントロール再生を行うには、以下の操作を行います。

1. 本体の PITCH つまみ（またはリモコンの PITCH キー）を押して、ピッチコントロール再生をオンにします。
   オンにすると、ホーム画面に "PITCH" が点灯します。
2. PITCH つまみを回して（またはリモコンの PITCH ＋／－キーを押して）、ピッチを設定します。
   設定操作中、ディスプレイにピッチコントロール値が "PITCH LVL XXX%" のように表示されます。
   －16.0％ ～＋16.0％ の範囲で設定することができます。

●ピッチコントロール再生をオフにするには：

本体の PITCH つまみ（またはリモコンの PITCH キー）を押します。
ディスプレイの PITCH が消灯し、ピッチコントロール再生がオフになります。ピッチコントロールをオフにしても、上記手順２で設定したピッチは残りますので、再度ピッチコントロールをオンにすると有効になります。

ヒント

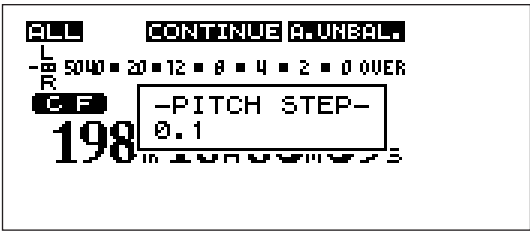
キーコントロール機能とピッチコントロール機能を併用することにより、音の高さを変えずにスピードだけを変えることができます。（ → 26 ページ「キーコントロール再生」）

ご注意

再生中にピッチコントロール再生のオン／オフを切り換えると、再生音が瞬間的に途切れることがあります。

ピッチステップを設定する

ピッチステップを変更することができます。
ピッチステップとは、PITCH つまみを１段階回したとき、またはリモコンの PITCH ＋／－キーを１回押したときのピッチ変化量のことです。
ピッチステップの設定は本体から行います（リモコンからの設定はできません）。

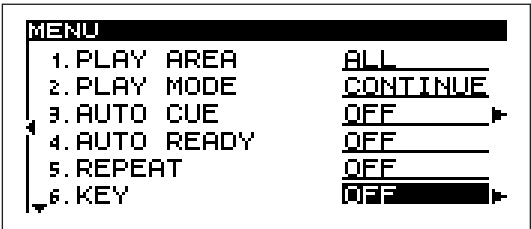
1. 本体の PITCH つまみを長押しします。
   ピッチステップを設定する画面が表示されます。

2. この画面を表示中、MULTI JOG ダイヤルを回してピッチステップを設定します。0.1 %～ 1.0 % の範囲で設定できます。
3. 設定を終えたら、本体の TIME / ESC キー（またはリモコンの CLR/ESC キー）を押してホーム画面に戻します。

メ モ

ピッチコントロールの設定は、電源を切っても保持されます。

キーコントロール再生

キーコントロール機能を使って、再生時のキー（音の高さ）を変えることができます。
以下の手順で、メニューモードからキーコントロールのオン／オフおよびキーレベル設定を行うことができます。
（メニュー画面の操作に関しての詳細は「メニュー画面の操作」（14ページ）をご覧ください。）

1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. PLAYメニューを選択します。
3. KEY項目を選択します。

この状態で、キーコントロールのオン／オフを選択することができます。

4. KEY項目を "ON" に設定します。
5. 本体の ►► キー（またはリモコンのCURSOR ▶キー）を押して、レベル設定画面に進みます。

6. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを使って）希望のキーレベルを選択します。
キーレベルは、♭6〜♭1、0（音程の変化無し）、＃1〜＃6の中から選択できます。
7. 設定を終えたら、本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押してホーム画面に戻します。
キーコントロール機能がオンのとき、ホーム画面に "KEY" が点灯します。

メモ

キーコントロール設定は、電源を切っても保持されます。

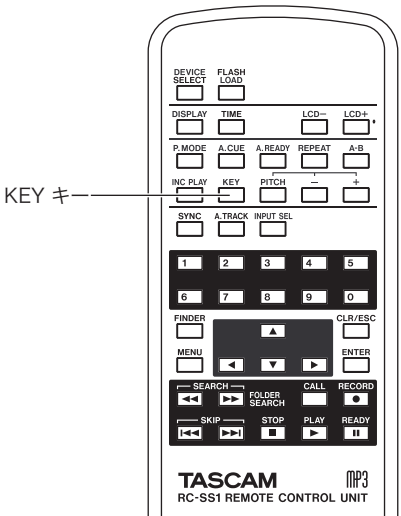
ヒント

キーコントロール機能とピッチコントロール機能の両方をオンにすると、キー（音程）はキーコントロール機能で決まり、スピードはピッチコントロール機能で決まります（つまり、ピッチコントロールでピッチを変えても、それによって音程が変わることはありません）。
したがって "KEY LEVEL" を "0" に設定してキーコントロール機能をオンにしておくと、ピッチコントロールを使って音程を変えずに再生スピードだけを変えることができます。

ご注意

キーコントロール機能を使用している時に再生音が震えているように聞こえることがありますが、これは再生音を特殊処理しているために発生するもので、故障ではありません。

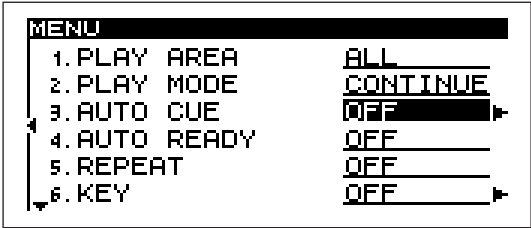
リモコンの専用キーでオン／オフを切り換える

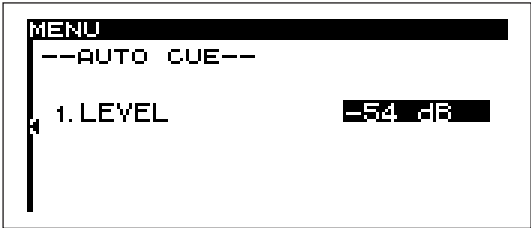
リモコンのKEYキーを押すと、キーコントロールのオン／オフが切り換わります。

メモ

リモコンからキーレベルを設定することはできません。

オートキュー機能

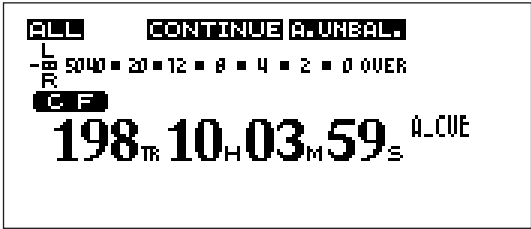
オートキュー機能をオンにすると、再生するトラックを選択して一時停止状態にしたとき、トラックの先頭の「無音」部分をスキップしてトラックの実際の「信号」の立ち上がり位置で一時停止状態になります。そのため再生を始めた直後に音が出ます。
なおオートキュー機能動作時におけるオーディオ信号検出のスレッショルドレベル（＝オートキューレベル）を設定することができます。すなわち、本機はオートキューレベル以上の信号「信号」、オートキューレベル以下の信号「無音」として扱います。
以下の手順で、メニューを使ってオートキュー機能のオン／オフおよびオートキューレベルの設定を行います。
（メニュー画面の操作に関しての詳細は「メニュー画面の操作」（１４ページ）をご覧ください。）

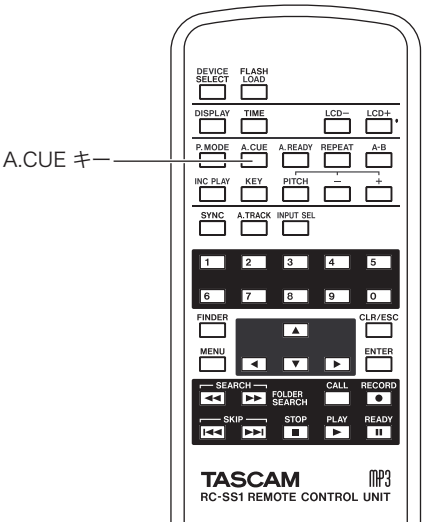
1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. PLAYメニューを選択します。
3. AUTO CUE項目を選択します。

この状態で、オートキュー機能のオン／オフを選択することができます。

4. AUTO CUE項目を "ON" に設定します。
5. 本体の ►► キー（またはリモコンのCURSOR ▶キー）を押します。

この画面で、オートキューレベルを設定します。

6. 本体のMULTI JOGダイアルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを使って）希望のオートキューレベルを選択します。
   オートキューレベルは、－24dB～－72dB（6dBステップ）の間で選択できます。
7. 設定を終えたら、本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押してホーム画面に戻します。
   オートキュー機能がオンのとき、ホーム画面に "A_CUE" が点灯します。

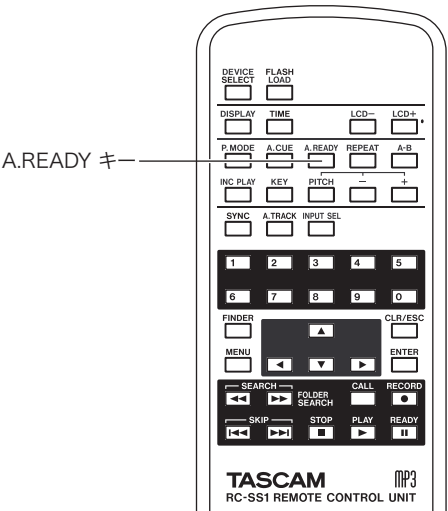
メ モ

オートキュー設定は、電源を切っても保持されます。

リモコンの専用キーでオン／オフを切り換える

リモコンのA.CUEキーを押すと、オートキュー機能のオン／オフが切り換わります。

メ モ

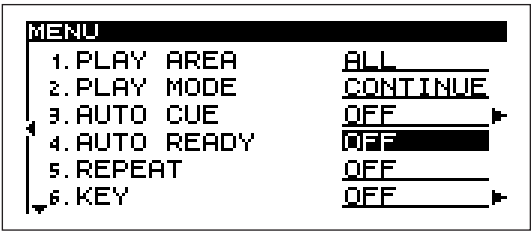
リモコンからオートキューレベルを設定することはできません。

オートレディ機能

オートレディ機能をオンにすると、トラックの再生が終了した後、次のトラックの先頭で一時停止になります。
リモコンの A.READY キーを押すと、オートレディ機能のオン／オフが切り換わります。

オートキュー機能がオンのとき、ホーム画面に "A_READY" が点灯します。

本体でオン／オフを切り換える

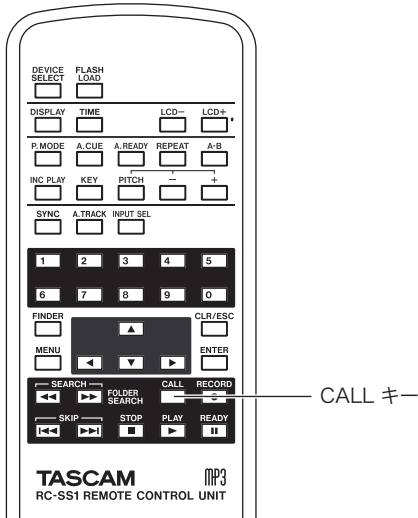
メニューを使って、本体からオートレディ機能のオン／オフを行うこともできます。
（メニュー画面の操作に関しての詳細は「メニュー画面の操作」（14ページ）をご覧ください。）

1. MENU キーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. PLAY メニューを選択します。
3. AUTO READY 項目を選択します。

4. MULTI JOG ダイヤルを回してオン／オフを切り換えます。
5. 設定を終えたら、TIME / ESC キーを押してホーム画面に戻します。

メ モ

オートレディ設定は、電源を切っても保持されます。

コール機能

コール機能とは、最後に一時停止から再生を開始したポイント（コールポイント）に戻って一時停止する機能です。
コール機能を実行するには、再生中または停止中、本体またはリモコンの CALL キーを押します。

コールポイントは以下の操作を行うと消去されます。

- 電源を切る。
- メディアを取り出す。
- カレントデバイスを切り換える。
- 再生モードを切り換える。
- 再生エリアを切り換える。
- メディアの内容を変更する（録音、編集、消去など）。

メ モ

- コールポイントが設定されていないときに CALL キーを押すと、"NoCallPoint" が表示されます。
- プログラム再生モード、ランダム再生モードでは、コール機能を使用できません。

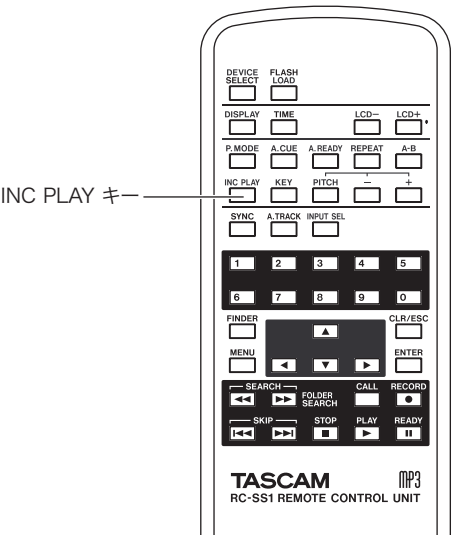
インクリメンタルプレイ機能

インクリメンタルプレイ機能をオンにすると、再生中に PLAY キーを押したときに次のトラックの先頭から再生を行い、再生中に STOP キーを押したときに次のトラックの先頭で一時停止します

メ モ

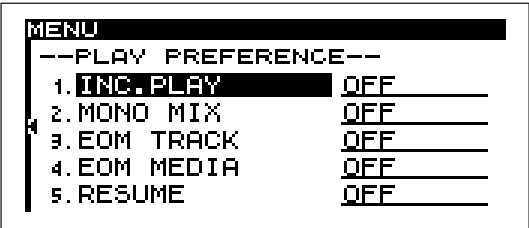
インクリメンタルプレイ機能オンのとき、一時停止中に PLAY キーを押すと、その位置から再生を開始します。一時停止中に STOP キーを押すと停止します。
なお最終トラックを再生中に PLAY キーを押すと再生エリアの先頭のトラックから再生を行い、STOP キーを押すと再生エリアの先頭のトラックで一時停止します。

リモコンの専用キーで設定する

リモコンのINC PLAYキーを押すと、インクリメンタルプレイ機能のオン／オフが切り換わります。

インクリメンタルプレイ機能がオンのとき、ホーム画面に"INC_PLAY" が点灯します。

メニューを使って設定する

（メニュー画面の操作に関しての詳細は「メニュー画面の操作」（14ページ）をご覧ください。）

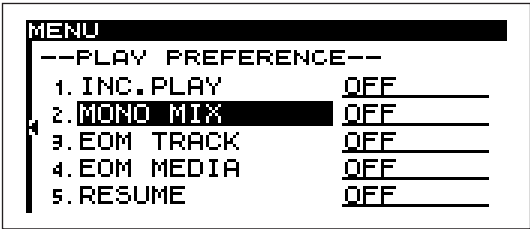
1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. PLAYメニューを選択します。
3. PREFERENCE項目を反転します。
4. 本体の ►► キー（またはリモコンのCURSOR ▶キー）を押してPLAY PREFERENCE画面に進みます。
5. "INC. PLAY"を選択します。

6. MULTI JOGダイヤルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを使って）、オン／オフを設定します。
7. 設定を終えたら、本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押してホーム画面に戻します。

メ モ

インクリメンタルプレイ設定は、電源を切っても保持されます。

モノラルで再生する

ステレオのオーディオファイルをモノラルで再生することができます。このとき、トラックのL／Rチャンネルの信号がミックスされて、L／R出力チャンネルから出力されます。
設定はメニューを使って行います。
（メニュー画面の操作に関しての詳細は「メニュー画面の操作」（14ページ）をご覧ください。）

1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. PLAYメニューを選択します。
3. PREFERENCE項目を反転します。
4. 本体の ►► キー（またはリモコンのCURSOR ▶キー）を押してPLAY PREFERENCE画面に進みます。
5. "MONO MIX" を選択します。

6. MULTI JOGダイヤルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを使って）、オン／オフを設定します。
7. 設定を終えたら、本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押してホーム画面に戻します。

メ モ

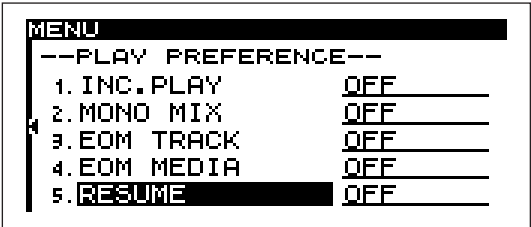
この設定は、電源を切っても保持されます。

リジューム再生する

リジューム再生機能をオンにすると、前回再生を停止した位置（リジュームポイント）から再生を開始することができます。
リジュームポイントは以下の操作のいずれかを行うと消去されます。

- メディアを取り出す。
- カレントデバイスを切り換える。
- 再生エリアを切り換える。
- 再生モードを切り換える。
- メディアの内容を変更する（録音、編集、消去など）。

リジューム機能のオン／オフ設定はメニューを使って行います。
（メニュー画面の操作に関しての詳細は「メニュー画面の操作」（14ページ）をご覧ください。）

1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. PLAYメニューを選択します。
3. PREFERENCE項目を反転します。
4. 本体の ►► キー（またはリモコンのCURSOR ►キー）を押してPLAY PREFERENCE画面に進みます。
5. "RESUME" を選択します。

6. MULTI JOGダイヤルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを使って）、オン／オフを設定します。
7. 設定を終えたら、本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押してホーム画面に戻します。

メモ

- この設定は、電源を切っても保持されます。
- 再生可能なトラックが存在しない場合（プログラムモードで、1トラックも登録されていない場合など）、カウンター表示が全てゼロ表示となります。
- リジュームポイントが存在しない（リジュームポイントとして登録されている時間が存在しない）場合、再生エリアのトラックの先頭がリジュームポイントになります。

フラッシュスタート機能

フラッシュスタート機能を使って、あらかじめ登録しておいたトラックを瞬時に再生開始することができます。
最大20トラック分の先頭部をあらかじめメモリーに取り込み、本機のフロントパネルに接続したPS/2キーボード、または本機のパラレル端子に接続した外部機器からの操作で、瞬時に再生を開始することができます。

1. 再生エリアを設定します。（ → 20ページ「再生エリア」）
   フラッシュスタートしたいトラックを登録したプレイリストまたはフォルダを現在の再生エリアに設定します。トラック数は20トラック以内にしてください。
2. 再生モードをCONTINUEまたはPROGRAMに設定します。（ → 23ページ「再生モード」）

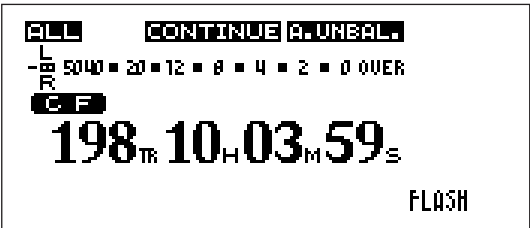
メモ

再生モードをRANDOMに設定するとフラッシュロードを行うことができません。

3. 停止中、リモコンのFLASH LOADキーを押します。
   本機が再生エリア内のトラックの冒頭部のデータを次々と読み込みます。
   読み込む順序は再生順です。すなわち、再生モードがCONTINUEの場合は先頭トラックから順次読み込み、再生モードがPROGRAMの場合はプログラム順に読み込みます。
   読み込み中、HOME画面右下に "FLASH" が点滅表示されます。

メモ

- 再生モードをRANDOMに設定しているときにFLASH LOADキーを押すと、"CAN'T SELECT" が表示され、データの読み込みを行いません。
- 再生モードをSINGLEに設定しているときにFLASH LOADキーを押すと、CONTINUE設定時と同じように、再生エリア内の先頭トラックから次々と読み込みます。
- 21トラック以上登録されている場合、先頭から順に20トラックのデータが読み込まれます。

読み込みを完了すると、ホーム画面右下に "FLASH" が点灯します。

4. "FLASH" が点灯中、本機のフロントパネルに接続したPS/2キーボード、または本機のパラレル端子に接続した外部機器を使って、フラッシュスタートを行います。
PS/2キーボードからは、CTRL＋ファンクションキー（F1〜F12）を使ってトラック１〜12までのフラッシュスタートを行うことができます。（→67ページ「キーボード操作一覧」）
外部パラレル端子を使う場合、トラック１〜20までのフラッシュスタートを行うことができます。（→68ページ「パラレル端子を使う」）

ご注意

フラッシュスタートの対象トラックは同じサンプリング周波数でなければなりません。トラック読み込み中にサンプリング周波数が異なるトラックを検出した場合、"FLASH LOAD" が表示され読み込みがキャンセルされます。

ヒント

CFカード使用時、再生エリアをPLAYLISTに設定し、フラッシュスタートしたいトラックのみを登録したプレイリストをカレントプレイリストとして選択することにより、希望トラックのフラッシュスタート設定を効率的に行うことができます。
（→20ページ「再生エリア」）（→53ページ「プレイリストの編集[CFのみ]」）

EOM機能

EOM機能をオンにしておくと、トラックまたは再生エリアの残り時間が設定した時間以下になるとCONTROL I/O (PARALLEL)端子からEOMタリー信号を出力します。

EOMタリー出力のトリガーを設定する

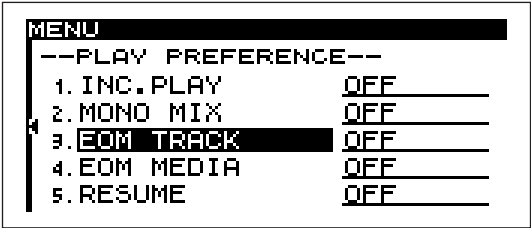
メニューモードを使って、EOM タリー信号を出力するトリガーとなるトラックの残り時間または再生エリアの残り時間を設定します。
（メニュー画面の操作に関しての詳細は「メニュー画面の操作」（14ページ）をご覧ください。）

1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。

2. PLAYメニューを選択します。

3. PREFERENCE項目を反転します。

4. 本体の ►► キー（またはリモコンのCURSOR ►キー）を押してPLAY PREFERENCE画面に進みます。

5. トラックの残り時間をトリガーにするには、"EOM TRACK"、再生エリアの残り時間をトリガーにするには、"EOM MEDIA" を選択します。

6. MULTI JOGダイヤルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを使って）、トリガーとなる残り時間を設定します。
OFF、1〜99（秒）の中から選択します。

7. 設定を終えたら、本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESC キー）を押してホーム画面に戻します。

メモ

この設定は、電源を切っても保持されます。

実際の使用方法

1. EOMタリー信号を受信する機器をCONTROL I/O (PARALLEL)端子に接続します。

2. 本機および受信機器の電源を入れます。

3. 本機の再生を始めます。

再生中のトラックまたは再生エリアの残り時間が設定された時間以下になると、CONTROL I/O (PARALLEL)端子からEOM タリー信号が出力されます。
トラックおよび再生エリアの残り時間が両方ともトリガーとして設定されている場合、どちらかの条件を満たした時点でEOM タリー信号が出力されます。

本機を使って、CD（CD-R／CD-RW）ディスクまたはCFカードに以下のフォーマットで外部音源を録音することができます。

CFカード：
MP3 またはWAV フォーマット（Fs＝44.1kHzまたは48kHz ）のオーディオ

CDディスク：
MP3（Fs＝44.1kHzまたは48kHz ）またはオーディオCD（CD-DA）フォーマットのオーディオ

以下の説明では、必要な接続を終え、本機の電源がオンで、カレントデバイスに録音可能なメディアがセットされていることを前提にしています。

ご注意

カレントデバイスがCDの場合、ファイナライズされていないCD-RまたはCD-RWディスクがセットされていることが必要です。

メ モ

- CDとCFカード間でのオーディオファイルのコピーや変換コピーも可能です。詳しくは「CDとCFカード間のファイルコピー」（56ページ）をご覧ください。
- CDにWAVフォーマットで録音することはできません。ただし、CFカードからCDにWAVファイルをコピーしたり、WAVファイルを記録したデータCDを再生することはできます。（ → 58ページ「データCDを作成する」）

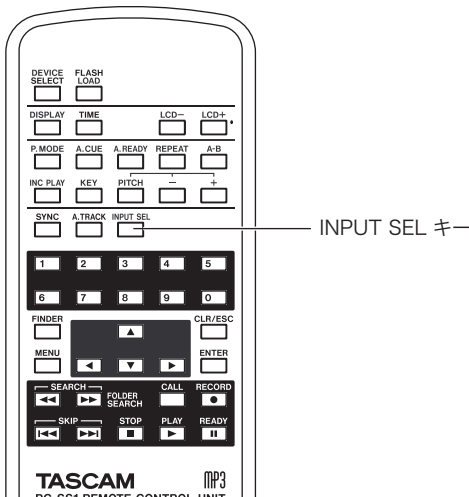
入力ソースを選択する

入力ソース（録音ソース）を、3種類の入力（アナログバランス、アナログアンバランス、デジタル）の中から選択します。
入力ソースを選択するには、リモコンのINPUT SELキーを使うか、またはメニューを使って行います。

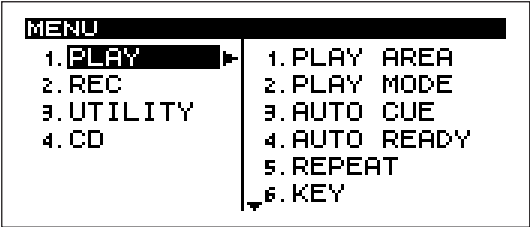
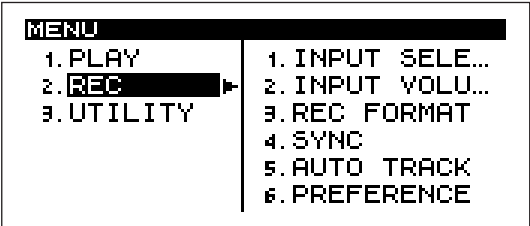
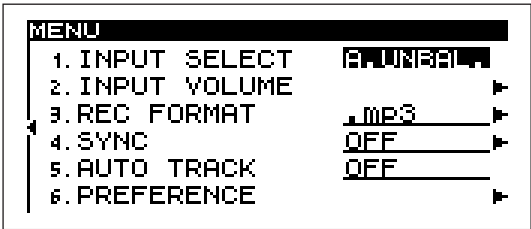
メ モ

録音中は入力ソースを切り換えることができません。

リモコンの専用キーで選択する

INPUT SELキーを押すたびに、3種類の入力ソースが切り換わります。

メニューを使って選択する

（メニュー画面の操作に関しての詳細は「メニュー画面の操作」（14ページ）をご覧ください。）

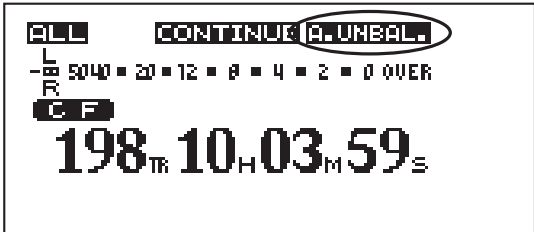
1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。

2. RECメニューを選択します。

3. INPUT SELECT 項目を選択します。

4. MULTI JOG ダイヤルを回して（またはリモコンの CURSOR ▲ / ▼キーを使って）、以下の中から選択します。
A. BAL.（アナログバランス入力）、A. UNBAL（アナログアンバランス入力）、D. COAX.（デジタル入力）

5. 設定を終えたら、本体の TIME / ESC キー（またはリモコンの CLR/ESC キー）を押してホーム画面に戻します。

メ モ

入力ソース選択は、電源を切っても保持されます。

入力ソースの表示

現在選ばれている入力ソースは、ホーム画面の右上部に表示されます。

"A.BAL." が点灯

ANALOG INPUTS（BALANCED）L/R 端子の入力信号を選択中。

"A.UNBAL." が点灯

ANALOG INPUTS（UNBALANCED）L/R 端子の入力信号を選択中。

"D.COAX." が点灯

DIGITAL IN（COAXIAL）端子の入力信号を選択中。

メ モ

INPUT SELECT 項目を "D.COAX." に設定している場合、入力ソースが以下のような状態のとき、録音待機状態から録音を開始することができません。

- 本機が入力ソースにデジタルロックしない。（"DIN UNLOCK" を表示します。）
- 入力ソースがオーディオでない。（"DIN NotAudio" を表示します。）
- REC メニューの REC FORMAT 項目で設定したサンプリングレートが入力ソースと異なる。（"FS UNMATCH" を表示します。）
ただし、サンプリングレートコンバータを有効にした場合はサンプリングレートが異なっていても録音可能です。（→34ページ「サンプリングレートコンバータを使う」）

録音ファイルフォーマットを設定する

カレントデバイスが CF の場合は、MP3 または WAV フォーマットで録音することができます。またカレントデバイスが CD の場合は、MP3 またはオーディオ CD（CD-DA）フォーマットで録音することができます。
なお、CF カードには MP3 ファイルと WAV ファイルを混在することができますが、CD には MP3 ファイルとオーディオ CD ファイルを混在することができません。したがって、CD に最初に記録するファイルによって、そのディスクに録音できるファイル形式（MP3 またはオーディオ CD）が決まります。

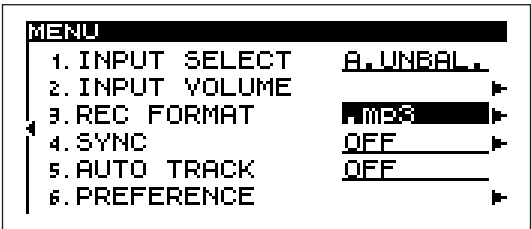
メ モ

- CD に WAV ファイルを録音することはできませんが、後述する CF カードから CD へのファイルコピー機能を使って WAV ファイルをコピーすることは可能です。（→ 56ページ「CD と CF カード間のファイルコピー」）
- CD への MP3 ファイルの録音は、ブランク CD 挿入時のみ可能です。CD を取り出したり電源を切ると、以後の追加録音はできません。（→ 36ページ「CD のファイナライズ」）

ファイルフォーマットの設定は、停止中または録音待機中にメニューを使って行います。
（メニュー画面の操作に関しての詳細は「メニュー画面の操作」（14ページ）をご覧ください。）

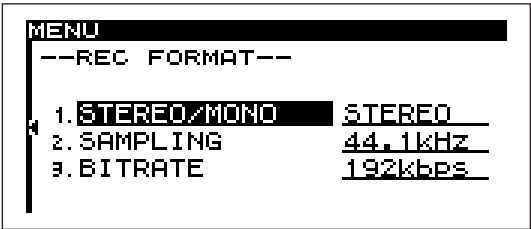
1. MENU キーを押してメインメニューリスト画面を表示します。

2. REC メニューを選択します。

3. REC FORMAT 項目を選択します。

4. MULTI JOG ダイヤルを回して（またはリモコンの CURSOR ▲ / ▼キーを使って）、録音フォーマットを選択します。

- CF カードの場合：".mp3" または ".wav"
- ブランク CD の場合：".mp3" または "CDDA"（オーディオ CD）

カレントデバイスが CD で、録音フォーマットとして "CDDA" を選択した場合は、以下の手順 5、6.の画面設定はありません。手順 7.に進んでください。
CF の場合および CD で ".mp3" を選択した場合、以下の手順に進みます。

5. 本体の ►► キー（またはリモコンのCURSOR ►キー）を押して、詳細設定画面に進みます。

6. 以下の項目を設定します。

STEREO/MONO
録音ファイルをステレオファイルにするかモノラルファイルにするかを選択します。

SAMPLING
サンプリング周波数44.1kHzまたは48kHzを選択します。

BITRATE（"mp3" 選択時のみ選択可能）
ビットレートを設定します。64kbps、128kbps、192kbps、256kbps、320kbpsの中から選択します。

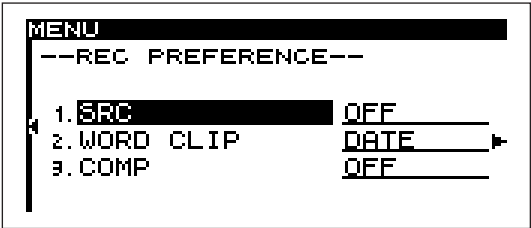
7. 設定を終えたら、本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押してホーム画面に戻します。

メモ

録音ファイルフォーマット設定は、電源を切っても保持されます。

サンプリングレートコンバーターを使う

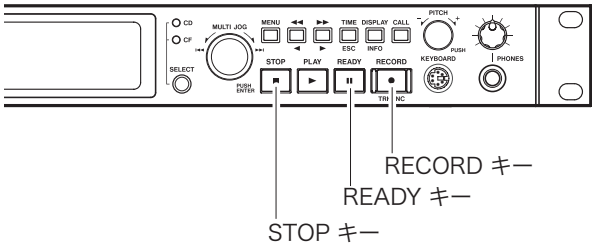
本機はサンプリングレートコンバーターを内蔵していますので、デジタル入力ソースのサンプリングレートと異なるサンプリングレートで録音することも可能です。
メニューを使ってサンプリングレートコンバーター（SRC）のオン／オフを設定します。
（メニュー画面の操作に関しての詳細は「メニュー画面の操作」（14ページ）をご覧ください。）

1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. RECメニューを選択します。
3. PREFERENCE項目を反転します。
4. 本体の ►► キー（またはリモコンのCURSOR ►キー）を押してREC PREFERENCE画面に進みます。
5. "SRC" を選択します。

6. MULTI JOGダイヤルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを使って）、オン／オフを設定します。
7. 設定を終えたら、本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押してホーム画面に戻します。

メモ

- REC FORMAT項目で設定したサンプリングレートと異なるサンプリングレートのデジタル信号をDIGITAL IN端子から受信しているとき、SRC がオフの状態で録音しようとすると、エラーメッセージ "FS UNMATCH" が表示されます。
- サンプリングレートコンバーターの設定は、電源を切っても保持されます。

入力信号をモニターする

RECORDキーを押して録音待機にすると、本体のRECORDキーとREADYキーが点灯し、入力信号が本機の各種出力端子（ヘッドホン、アナログバランス、アナログアンバランス、およびデジタル）から出力されます。またホーム画面上のメーターが入力レベルを表示します。

録音待機を解除するには、STOPキーを押します。

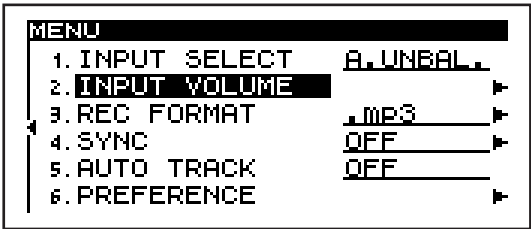
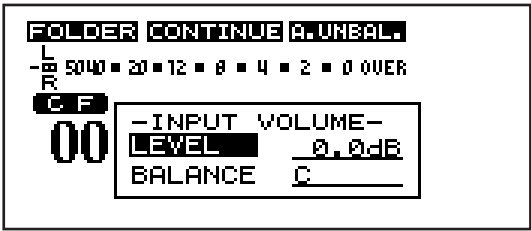
ヒント

録音を前提としないで単に入力信号をモニターしたい場合、メディアをセットしない状態でRECORDキーを押します。ディスプレイに "MONITOR" が表示され、RECORDキーが赤く点滅します。
入力信号のモニターを解除するには、STOPキーを押します。

入力信号のレベルとバランスを調節する

入力信号のレベルおよびバランスをメニューを使って調節することができます。
上記「入力信号をモニターする」の説明に従って、入力信号をモニターできる状態にしてから、以下のメニュー操作を行います。
（メニュー画面の操作に関しての詳細は「メニュー画面の操作」（14ページ）をご覧ください。）

1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. RECメニューを選択します。

3. INPUT VOLUME項目を反転します。

4. 本体の ▶▶ キー（またはリモコンのCURSOR ▶キー）を押してINPUT VOLUME SETTINGポップアップ画面を表示します。

5. MULTI JOGダイヤルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを使って）LEVEL項目を反転してから、本体の ▶▶ キー（またはリモコンのCURSOR ▶キー）押して、レベル値を反転します。

6. MULTI JOGダイヤルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを使って）、ボリュームを調節します。
−∞〜＋18dBの範囲で設定できます。
ディスプレイ上部にはホーム画面のレベルメーターが表示されていますので、チェックしながら調節することができます。
メーター右端のOVERが点灯しない範囲で、なるべくレベルを高めに調節してください。

ご注意

OVERは−0.2dB以上で点灯します。

7. 本体の ◀◀ キー（またはリモコンのCURSOR ◀キー）押してLEVELを反転します。

8. MULTI JOGダイヤルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを使って）BALANCE項目を反転してから、本体の ▶▶ キー（またはリモコンのCURSOR ▶キー）押して、バランス値を反転します。

9. MULTI JOGダイヤルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを使って）、バランスを調節します。
L50〜C（センター）〜R50の範囲で設定できます。

10. 設定を終えたら、本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押してホーム画面に戻します。

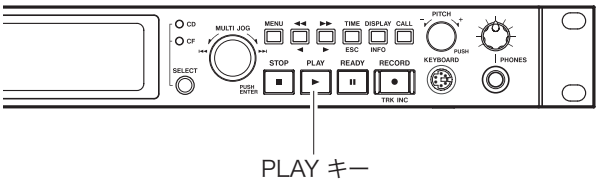
録音の基本操作

上記の設定（入力ソースの選択、録音ファイルフォーマットの設定、サンプリングコンバーターのオン／オフ、入力レベルの調整）を終えたら、録音を行います。

停止状態から録音待機状態にするには：

RECORDキーを押して録音待機にします（本体のRECORDキーおよびREADYキーが点灯）。

録音待機（一時停止）状態から録音を開始するには：

PLAYキーを押します。

録音を一時停止するには：

READYキーを押します。

録音を止めるには：

STOPキーを押します。録音を止めると、録音情報の書き込みが行われ、オーディオファイルが作成されます。

メ モ

以下のメモは、WAVやMP3フォーマットで録音を行う場合に適応されます。

- 作成されるオーディオファイルに自動的に付加されるオーディオファイル名は、PREFERENCEメニューのWORD CLIP項目を使って設定することができます。（ → 42ページ「録音ファイル名を設定する（WAV、MP3のみ）」）
- 各トラックの最大サイズは、2GBです。
- 録音されたトラックは、カレントフォルダに作成されます。（ → 21ページ「カレントフォルダ、カレントプレイリストを選ぶ」）

ご注意

メディアに録音内容を記録する間、"INFORMATION WRITING" がディスプレイに表示されます。この間は、本機を動かしたり、電源を切ったり、メディアを取り出したりしないでください。録音内容が正しく記録できなくなります。

CDのファイナライズ

CD（CD-RまたはCD-RWディスク）に録音を行った場合、本機以外のCDプレーヤー／CDドライブを使ってファイルを再生するにはファイナライズを行う必要があります。ファイルフォーマットがMP3のときとオーディオCD（CD-DA）のときで、本機の動作が異なります。

MP3フォーマットで録音時：

CDを取り出すときに本機が自動的にファイナライズを行います。したがって、MP3フォーマットで録音したディスクをいったん本機から取り出すと、その後追記することができなくなります。
なお、CDを取り出さずに電源をオフにした場合、次回電源をオンにしたときに本機が自動的にディスクのファイナライズを行います。

メモ

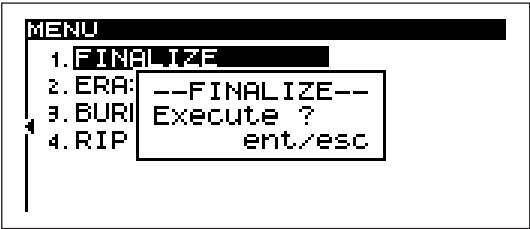
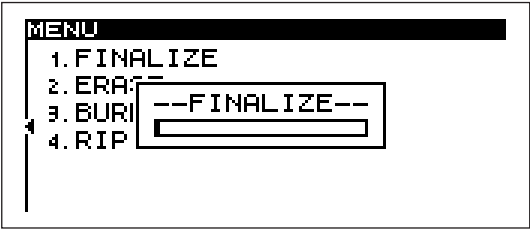
ディスクを取り出さずに、セットした状態でメニューを使ってファイナライズを行うこともできます。（ → 36ページ「CDをファイナライズする」）

オーディオCDフォーマットで録音時：

オーディオCDフォーマットによる録音を行った場合、本機が自動的にファイナライズを行うことはありません。メニューを使ってファイナライズを行うまで、（ディスクに空き容量がある限り）何度でも追記することができます。ただしファイナライズを行う前の状態では、本機以外の機器で再生することができません。
ファイナライズの方法は次項をご覧ください。

CDをファイナライズする

上記のように、本機を使ってオーディオCDフォーマットで録音したCDを他の機器で再生するには、CDを手動でファイナライズする必要があります。またMP3フォーマットで録音したディスクの場合、前述のようにディスク取り出し時に自動的にファイナライズされますが、ディスクをセットした状態で手動でファイナライズすることも可能です。
いずれの場合も、以下の手順でファイナライズを行います。（メニュー画面の操作に関しての詳細は「メニュー画面の操作」（14ページ）をご覧ください。）

1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. CDメニューを反転してMULTI JOGダイヤルを押します。
3. FINALIZE項目を反転してMULTI JOGダイヤルを押します。
   確認のポップアップ画面が表示されます。

4. 再度、MULTI JOGダイヤルを押します。
   ファイナライズが始まります。

実行中は "FINALIZE" およびプログレスバーが表示されます。
ファイナライズを終了すると、CDメニュー画面に戻ります。

メモ

ファイナライズ済みのCD-RWディスクをアンファイナライズすることができます。（ → 63ページ「CDをアンファイナライズする」）

録音時間について

各録音フォーマットにおけるメディア容量別の録音時間を以下の表に示します。

WAVE　Stereo [CFカードのみ]

メディア／容量表記	44.1kHz	48kHz
CFカード／512MB	48分	44分
CFカード／1GB	1時間36分	1時間28分
CFカード／2GB	3時間12分	2時間56分
CFカード／4GB	6時間24分	5時間52分
CFカード／8GB	12時間48分	11時間44分

WAVE　Mono [CFカードのみ]

メディア／容量表記	44.1kHz	48kHz
CFカード／512MB	1時間36分	1時間28分
CFカード／1GB	3時間12分	2時間56分
CFカード／2GB	6時間24分	5時間52分
CFカード／4GB	12時間48分	11時間44分
CFカード／8GB	25時間36分	23時間28分

MP3　Stereo , 44.1kHz/48kHz

メディア／容量表記	64kbps	128kbps	192kbps	256kbps	320kbps
CFカード／512MB	17時間40分	8時間50分	5時間50分	4時間25分	3時間30分
CFカード／1GB	35時間20分	17時間40分	11時間40分	8時間50分	7時間00分
CFカード／2GB	70時間40分	35時間20分	23時間20分	17時間40分	14時間00分
CFカード／4GB	141時間20分	70時間40分	46時間40分	35時間20分	28時間00分
CFカード／8GB	282時間40分	141時間20分	93時間20分	70時間40分	56時間00分
CD／650MB	23時間00分	11時間30分	7時間40分	5時間45分	4時間35分
CD／700MB	24時間50分	12時間25分	8時間15分	6時間10分	4時間55分

MP3　Mono , 44.1kHz/48kHz

メディア／容量表記	64kbps	128kbps	192kbps	256kbps	320kbps
CFカード／512MB	35時間20分	17時間40分	11時間40分	8時間50分	7時間00分
CFカード／1GB	70時間40分	35時間20分	23時間20分	17時間40分	14時間00分
CFカード／2GB	141時間20分	70時間40分	46時間40分	35時間20分	28時間00分
CFカード／4GB	282時間40分	141時間20分	93時間20分	70時間40分	56時間00分
CFカード／8GB	565時間20分	282時間40分	186時間40分	141時間20分	112時間00分
CD／650MB	46時間00分	23時間00分	15時間20分	11時間30分	9時間10分
CD／700MB	49時間40分	24時間50分	16時間30分	12時間25分	9時間55分

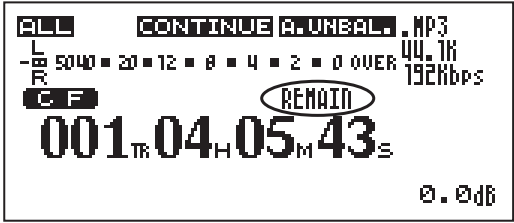
オーディオCD　Stereo , 44.1kHz , 非圧縮 [CDのみ]

メディア／容量表記	
CD／650MB	74分
CD／700MB	80分

メモ

メディアの容量表記と実際の容量とに差異がある場合がありますので、上記の時間はあくまで概算です。

録音時間表示モードを切り換える

録音中（または録音待機中）、本体またはリモコンのTIMEキーを使って、時間表示モードを以下の４種類の中から選択することができます。選択中の時間表示モードはホーム画面の時間表示部の上に点灯表示されます。

点灯なし

現在のトラックの録音済み時間を表示します。

REMAINが点灯

現在の録音フォーマットで現在のトラックに録音可能な残り時間を表示します。残り時間は、メディアの空き容量または最大トラック容量（2GB）に達するまでの容量によって制約を受けます。

メ モ

CDの場合、メディア容量が最大で700MBですので、常にメディアの空き容量表示になります。

TOTALが点灯

メディア全体の録音済み時間を表示します。

TOTALおよびREMAINが点灯

現在の録音フォーマットでメディアに録音可能な残り時間を表示します。

メ モ

- 残り時間は、録音フォーマット（RECメニューのREC FORMAT項目）によって変わります。
- 録音中は、メディアに録音可能な時間が1トラックでの録音可能時間よりも短い場合、「REMAINが点灯」時と「TOTALおよびREMAINが点灯」時で同じ時間を表示します。
- 録音時間表示モードは、電源を切っても保持されます。
- 再生中の時間表示については「再生時間表示モードを切り換える」（24ページ）をご覧ください。
- 録音可能な最大トラック数は、CFカードでは999トラック（WAVトラックとMP3トラックの合計数）です。CDの場合、MP3やWAVファイルを記録したデータCDディスクの場合は999トラック、オーディオCDディスクの場合は99トラックです。

シンク録音する

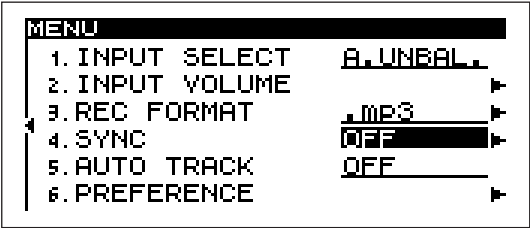
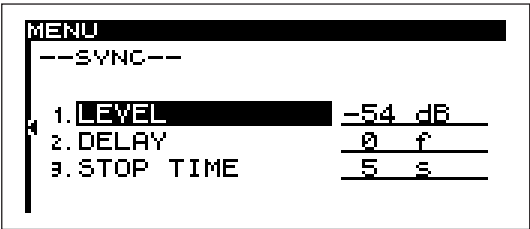
シンク録音機能をオンにすると、あらかじめ設定したレベル（シンクレベル）以上の信号が入力されたときに自動的に録音が開始されます。録音開始後、シンクレベル以下の信号が一定時間（ストップタイム）以上続くと、自動的に録音待機になります。

設定する

メニューを使って、シンク録音機能のオン／オフ設定および詳細設定を行います。ただしオン／オフ設定のみは、リモコンのSYNCキーを使って行うことができます。
シンク録音機能がオンのとき、ホーム画面に "SYNC" が点灯します。

メニューを使う

（メニュー画面の操作に関しての詳細は「メニュー画面の操作」（14ページ）をご覧ください。）

1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. RECメニューを選択します。
3. SYNC項目を選択します。

4. MULTI JOGダイヤルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを使って）、オン／オフを設定します。
5. 本体の ►► キー（またはリモコンのCURSOR ►キー）を押して、詳細設定画面に進みます。

6. 以下の項目を設定します。

LEVEL

シンクレベルを設定します。
－72dB～－24dBの範囲（6dBステップ）で設定できます（初期設定は－54dB）。

DELAY

シンクレベルを越える信号を検出してから記録開始するまでの時間（1フレームステップ）を設定します（1フレーム＝1/75秒）。
－75フレーム～＋75フレームの範囲で設定できます（初期設定は0）。マイナス値に設定すると、検出時より前に遡ることができます。

メ モ

設定範囲を時間に換算すると、− 1.00秒〜＋ 1.00秒になります。

STOP TIME

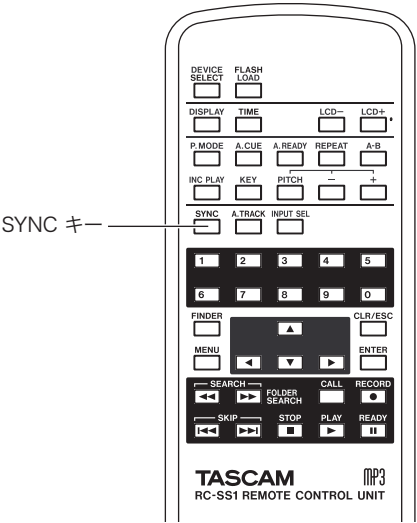
シンクレベル以下の信号がどれだけ続くと録音を止めて録音待機にするかを設定します。
5〜30秒（1秒ステップ）またはINF（∞）に設定できます（初期設定は5秒、自動停止させたくない場合はINFを選択してください）。

7. 設定を終えたら、本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押してホーム画面に戻します。

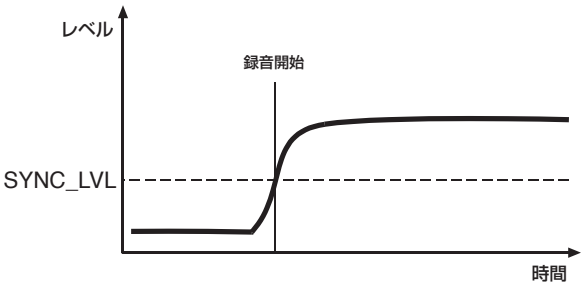
メ モ

設定は、電源を切っても保持されます。

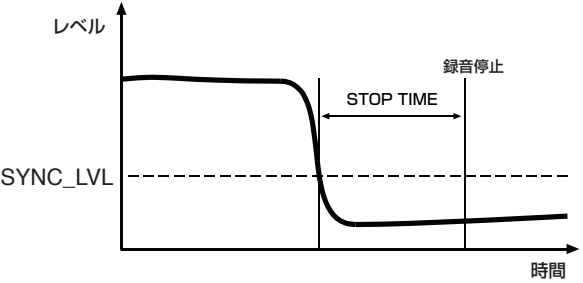
リモコンの専用キーでオン／オフを切り換える

SYNCキーを押すたびに、シンク録音機能のオン／オフが切り換わります。

シンク録音の動作

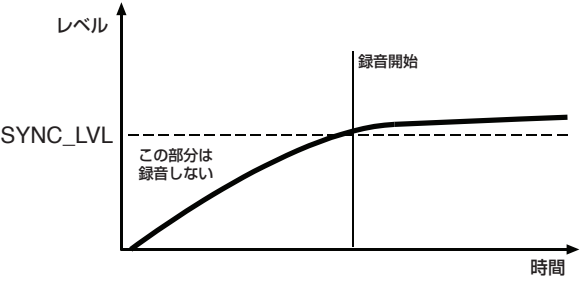
シンク録音機能をオンにした状態で、本機を録音待機にすると、入力ソースのレベルに応じて自動的に録音の開始、停止が行われます。

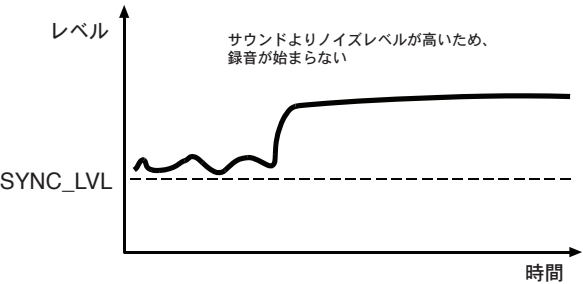
- シンクレベル以上の信号が入力されると、自動的に録音を開始します。
  ただし、録音待機後、シンクレベル以下の信号が1秒以上続かないと、入力を検知しても録音が開始されません。

メ モ

上記の説明はDELAY項目が "0"（＝初期設定）の場合です。DELAY項目を変更すると、「録音開始」ポイントを変更することができます。

- 録音中、STOP TIME（初期設定：5秒）で設定した時間以上シンクレベル以下の信号が続くと、自動的に録音待機になります。

メ モ

STOP TIME項目をINFに設定した場合、シンクレベル以下の信号が続いても自動的に録音待機になりません。

- シンク録音を解除するには、リモコンのSYNC RECキーを押します。
- **シンクレベルが高過ぎる場合：**
  シンクレベルの設定が高過ぎると、小さい音から始まる曲の先頭が欠けてしまうなどの不具合が起きる可能性があります。

- **シンクレベルが低すぎる場合：**

録音待機にしたときすでにシンクレベルを越えるような、ノイズレベルの大きいソースの場合、シンク録音が始まりません。

オートトラック機能

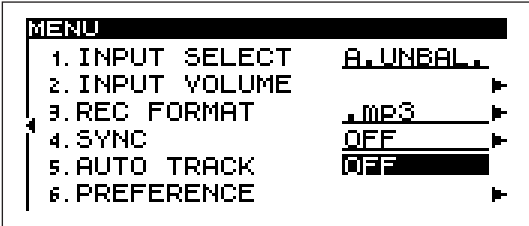
オートトラック録音とは、録音中、設定された条件を満たしたときにトラック番号を自動更新する機能です。トラック番号が更新されるたびに新しいオーディオファイルが作成されます。
メニューを使って、オートトラックモードの選択および詳細設定を行います。ただしオートトラックモード設定のみは、リモコンのA.TRACKキーを使って行うことができます。
オートトラック機能がオンのとき、ホーム画面に "A_TRACK" が点灯します。
オートトラックの設定はいつでも行うことができますので、録音を始めてから設定を変更することも可能です。

メモ

CFカードにWAVフォーマットで録音した場合、録音したあとから、編集機能を使ってトラックの分割や結合が可能です。（→ 48ページ「ファイルを分割する(DIVIDE)」），（→ 49ページ「ファイルを結合する(COMBINE)」）

メニューを使う

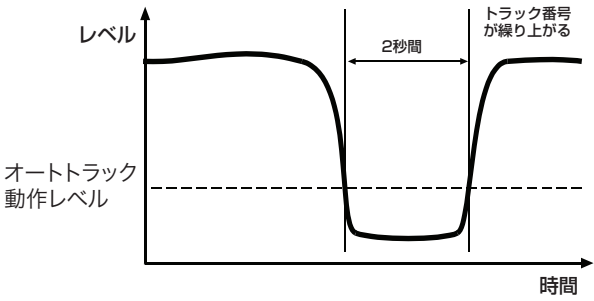
（メニュー画面の操作に関しての詳細は「メニュー画面の操作」（14ページ）をご覧ください。）

1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. RECメニューを選択します。
3. AUTO TRACK項目を選択します。

4. MULTI JOGダイヤルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを使って）、オートトラックモードを以下の中から選択します。

OFF：

トラックの自動更新を行いません。

LEVEL：

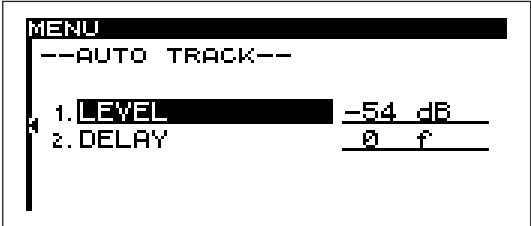
オートトラック動作レベル（下記の詳細設定画面で設定）以下の信号が２秒以上続いた後で、信号が動作レベルを超えたとき、トラック番号を更新します。

DD：

DIGITAL IN端子経由でデジタルソース（CD 、DAT 、MD）を録音するときに、ソース側のトラックの区切りを検出するとトラック番号を更新します。
ただし、アナログソース録音時または上記以外のデジタルソース録音時は、LEVELモードになり、入力レベルに応じてトラックを更新します。

TIME：

一定時間（下記の詳細設定画面で設定）ごとにトラック番号を更新します。

5. 上記でOFF以外を選択した場合、本体の ▶▶ キー（またはリモコンのCURSOR ▶キー）を押して、詳細設定画面に進みます。
6. それぞれの設定画面で設定を行います。

● **LEVEL選択時**

LEVEL項目で、オートトラック動作レベルを設定します。
－72dB～－24dBの範囲（6dBステップ）で設定できます（初期設定は－54dB）。
DELAY項目で、オートトラック動作レベルを越える信号を検出してからトラックを更新するまでの時間を１フレームステップで設定します（1フレーム0＝1/75秒）
－75フレーム～＋75フレームの範囲で設定できます（初期設定は0）。マイナス値に設定すると、検出時より前に遡ることができます。

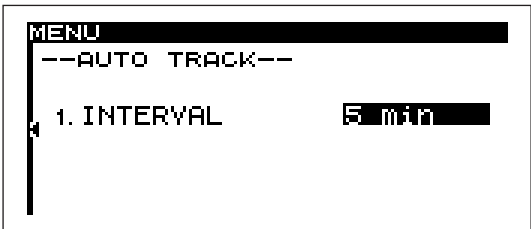
メモ

設定範囲を時間に換算すると、－1.00秒～＋1. 00秒になります。

● DD選択時

LEVEL選択時と同様に、DELAY項目で、オートトラック動作レベルを越える信号を検出してからトラックを更新するまでの時間を1フレームステップで設定します（1フレーム＝1/75秒）。

● TIME選択時

INTERVAL項目で、トラック更新の時間間隔を1～10分（1分ステップ）の中から選択します。

7. 設定を終えたら、本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押してホーム画面に戻します。

メ モ

設定は電源を切っても保持されます。

リモコンの専用キーでモードを切り換える

リモコンのA.TRACKキーを押すたびに、オートトラック機能のモードが、OFF → LEVEL → DD → TIMEの順に切り換わります。

トラック番号を手動で更新する

録音中にRECORDキーを押すと、トラック番号を更新することができます。
ただし、4秒以下のトラックを作成することはできません。

メ モ

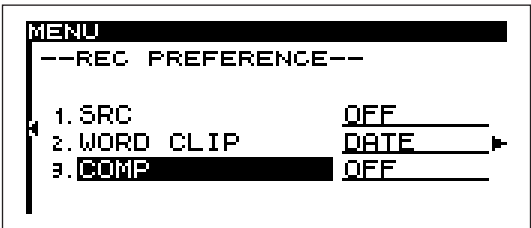
CFカードにWAVフォーマットで録音した場合、編集機能を使うと、録音後にトラックの分割や結合が可能です（ → 48ページ「ファイルを分割する(DIVIDE)」），（ → 49ページ「ファイルを結合する(COMBINE)」）

ご注意

MP3で録音する場合、トラックの更新を短時間に多数行うと、CFカードによっては、エラーメッセージ "OVER FLOW" が表示され、録音を停止することがあります。
これを防ぐには、更新の間隔をあけてご使用ください。

コンプレッサーを掛けて録音する

録音ソースに本機内蔵のコンプレッサーを掛けて録音することができます。
コンプレッサーとは，ピーク音を抑え，音の粒（1音ごとの強弱）を揃えることで聞き取りやすい音質にするエフェクターです。
メニューを使ってコンプレッサーのオン／オフを設定します。
（メニュー画面の操作に関しての詳細は「メニュー画面の操作」（14ページ）をご覧ください。）

1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. RECメニューを選択します。
3. PREFERENCE項目を反転します。
4. 本体の ►► キー（またはリモコンのCURSOR ▶キー）を押してREC PREFERENCE画面に進みます。
5. "COMP" を選択します。

6. MULTI JOGダイヤルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを使って）、コンプレッサーモードを以下の中から選択します。

   OFF：コンプレッサーを使わずに録音します。

   SOFT：軽いコンプレッサーが掛かります。音楽の録音に適しています。

   HARD：きついコンプレッサーが掛かります。録音音源の音量が小さい場合、録音ボリュームのブーストもされますので、会議等の録音に適しています。

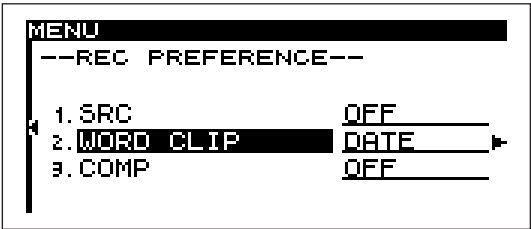
7. 設定を終えたら、本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押してホーム画面に戻します。

メ モ

設定は電源を切っても保持されます。

録音ファイル名を設定する [WAV、MP3のみ]

WAVおよびMP3フォーマットでの録音時に自動的に付加されるファイル名を設定することができます。
メニューを使って設定します。
（メニュー画面の操作に関しての詳細は「メニュー画面の操作」（14ページ）をご覧ください。）

1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. RECメニューを選択します。
3. PREFERENCE項目を反転します。
4. 本体の ►► キー（またはリモコンのCURSOR ►キー）を押してREC PREFERENCE画面に進みます。
5. "WORD CLIP" を選択します。

6. MULTI JOGダイヤルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを使って）、以下の中から選択します。

DATE：（初期設定）

本機のクロックの日時がファイル名になります。

USER 01～USER 03：

ユーザー登録した文字列（8文字）がファイル名になります。

文字列の編集／登録は以下の手順で行います。

1. USER 01～USER 03のいずれかを選択した状態で、►► キーを押します。
編集画面が表示されます。
2. 以下の要領で文字列を編集します。

- **編集位置（カーソル位置）を移動するには：**
本体の ◄◄ / ►► キー（またはリモコンのCURSOR ◄ / ►キー）を使います。
- **カーソル位置の文字を変更するには：**
本体のMULTI JOGダイヤルを回します。（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを押します）
- **文字を削除するには：**
本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押します。
- **カーソル位置より後ろの文字をすべて削除するには：**
本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を長押しします。
- **大文字／小文字を切り換えるには：**
本体のDISPLAY / INFO キー（またはリモコンのDISPLAYキー）を押します。
- **1文字分の空白（スペース）を空けるには：**
CALLキーを押します。
- **編集をキャンセルするには：**
STOPキーを押します。

3. 編集を終えたら、MULTI JOGダイヤルを押します。
編集した文字列が確定し、PREFERENCEメニューに戻ります。

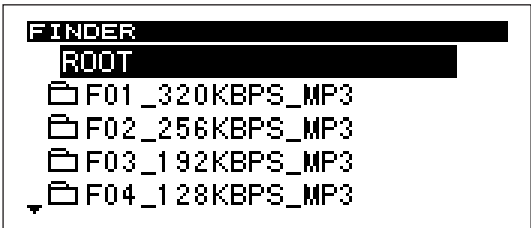
概要

WAV／MP3ファイルを記録したデータCDやCFカードの場合、フォルダファインダ画面でフォルダやファイルのツリー構造を見ることができます。
この画面から操作対象のフォルダまたはファイルを選択し、フォルダメニュー画面またはファイルメニュー画面に入ることができます。
CFカードの場合、これらの画面からフォルダの作成、フォルダやファイルの名前編集と削除、ファイルのプレイリスト登録、ファイル編集（分割、結合）などを行うことができます。またフォルダファインダ画面からの直接操作によって、ファイルのフォルダ間の移動やコピーを行うことができます。
WAVやMP3ファイルを記録した未ファイナライズのデータCDの場合、フォルダファインダ画面からフォルダの作成とカレントフォルダの変更のみができます。編集やプレイリスト登録はできません。
なおオーディオCDファイルを記録したCDの場合、フォルダファインダ画面が存在しませんが、CD-DAファインダ画面が存在します。（→52ページ「CD-DAファインダ画面を使う」）

ヒント

カードリーダーを使ってパソコンからCFカードを読み込むことにより、フォルダ構成の変更、フォルダ名／ファイル名の編集、フォルダ／ファイルの削除などをパソコンから行うことができます。パソコンでの編集を行った場合、本機のファイルの再生順がパソコンでの編集以前と変わる場合がありますのでご了承ください。

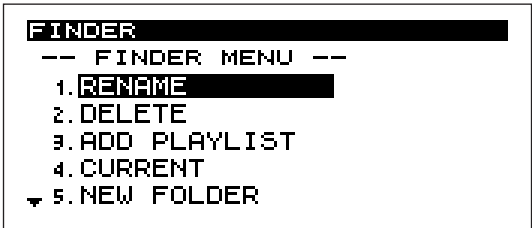
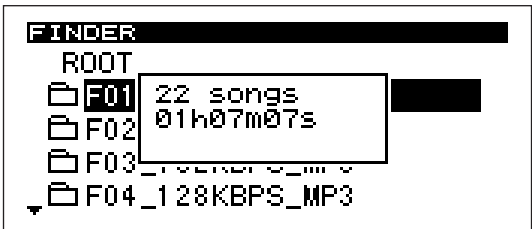
フォルダファインダ画面を開く

以下の操作は、CFカード、WAV／MP3ファイルを記録したデータCD、またはブランクCDがカレントデバイスにセットされていることを前提としています。
再生エリア（→20ページ「再生エリア」）がALLまたはFOLDERの場合、停止中／再生中／一時停止中に本体のMENUキーを長押しすると（リモコンの場合、FINDERキーを押すと）、フォルダファインダ画面が表示されます。

- 再生エリアがALLで停止中、ルートフォルダのファインダ画面が表示されます。
- 再生エリアがFOLDERで停止中、カレントフォルダのファインダ画面が表示されます。
- 一時停止中、（再生エリアに関係なく）カレントファイルが属するフォルダのファインダ画面が表示されます。このとき、カレントファイルが反転しています。

フォルダファインダ画面内のナビゲーション

フォルダファインダ画面が表示されているとき、本体の◀◀／▶▶キーおよびMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合はCURSORキー）を使って、操作対象のフォルダやファイルを選択（反転）します。
以下にフォルダ反転中とファイル反転中それぞれの場合の操作を説明します。

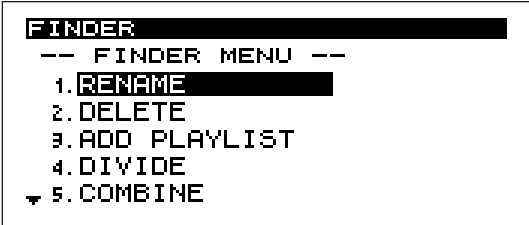
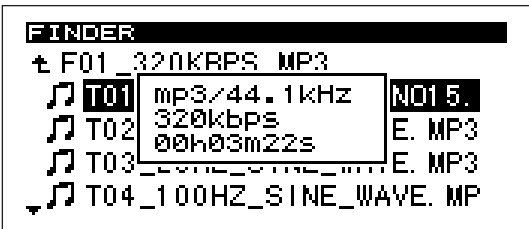
フォルダを反転中の操作

- **反転中のフォルダのフォルダメニューを表示するには：**
  MENUキーを押します。（→44ページ「フォルダメニュー画面の操作」）

- **上位フォルダを開くには：**
  本体の◀◀キー（リモコンの場合はCURSOR ◀キー）を押します。
- **反転中のフォルダを開くには：**
  本体の▶▶キー（リモコンの場合はCURSOR ▶キー）を押します。
- **フォルダファインダモードを終了してホーム画面に戻るには：**
  本体のTIME / ESCキー（リモコンの場合はCLR/ESCキー）を押します。
- **反転中のフォルダの先頭ファイルから再生を開始するには：**
  PLAYキーを押します。再生開始と同時にフォルダファインダモードを終了してホーム画面に戻ります。
  再生エリアがFOLDERの場合、反転中のフォルダがカレントフォルダになります。
- **反転中のフォルダの先頭ファイルで一時停止するには：**
  READYキーを押します。一時停止すると同時にフォルダファインダモードを終了してホーム画面に戻ります。
  再生エリアがFOLDERの場合、選択中のフォルダがカレントフォルダになります。
- **選択中のフォルダのプロパティを表示するには：**
  本体のDISPLAY / INFOキー（リモコンの場合、DISPLAYキー）を押します。

再度、本体のDISPLAY / INFOキー（リモコンの場合、DISPLAYキー）を押すと、プロパティ表示が消えて、フォルダファインダ画面に戻ります。

ファイルを反転中の操作

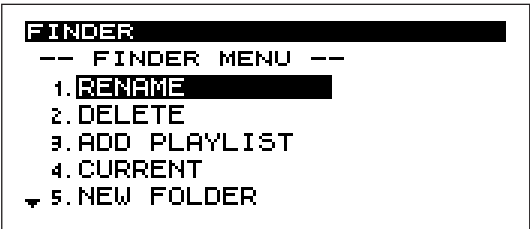
- **反転中のファイルのファイルメニューを表示するには［CFカードのみ］：**

  MENUキーを押します。（ → 47ページ「ファイルメニュー画面の操作」）

```
FINDER
 -- FINDER MENU --
  1.RENAME
  2.DELETE
  3.ADD PLAYLIST
  4.DIVIDE
  5.COMBINE
```

- **上位フォルダを開くには：**
  本体の ◀◀ キー（またはリモコンのCURSOR ◀ キー）を押します。
- **ファインダモードを終了してホーム画面に戻るには：**
  本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押します。
- **反転中のファイルの頭から再生を開始するには：**
  PLAYキーを押します。再生開始と同時にフォルダファインダモードを終了してホーム画面に戻ります。
  再生エリアがFOLDERの場合、反転中のファイルを含むフォルダがカレントフォルダになります。
- **反転中のファイルの頭で一時停止するには：**
  READYキーを押します。一時停止と同時にフォルダファインダモードを終了してホーム画面に戻ります。
  再生エリアがFOLDERの場合、反転中のファイルを含むフォルダがカレントフォルダになります。
- **反転中のファイルのプロパティを表示するには：**
  本体のDISPLAY / INFOキー（リモコンの場合、DISPLAYキー）を押します。

  再度、本体のDISPLAY / INFOキー（リモコンの場合、DISPLAYキー）を押すと、プロパティ表示が消えて、フォルダファインダ画面に戻ります。
- **反転中のファイルを移動するには［CFカードのみ］：**
  本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合はENTERキー）を長押しして、ファイル移動モードにします。詳細については「ファイルの移動とコピー」（50ページ）をご覧ください。
  この操作はCFカード使用時にのみ可能です。

フォルダメニュー画面の操作

カレントデバイスがCFカードの場合、フォルダメニュー画面機能をすべて実行することができます。WAV／MP3ファイルを記録した未ファイナライズCDの場合、一部の機能を実行することができます。
以下の説明は、操作対象フォルダのフォルダメニュー画面が表示されていることを前提にしています。
フォルダメニュー画面を表示するには、フォルダファインダ画面で希望のフォルダを反転してMENUキーを押します。（ → 43ページ「フォルダファインダ画面内のナビゲーション」）

```
FINDER
 -- FINDER MENU --
  1.RENAME
  2.DELETE
  3.ADD PLAYLIST
  4.CURRENT
  5.NEW FOLDER
```

フォルダ名を編集する［CFカードのみ］

以下の操作はCFカード使用時にのみ可能です。

1. フォルダメニュー画面が表示されているとき、本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して）RENAMEを反転します。
2. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します。
   名前編集（RENAME）画面になります。

3. 以下の要領で名前を編集します。

- **編集位置（カーソル位置）を移動するには：**
  本体の ◀◀ / ▶▶ キー（またはリモコンのCURSOR ◀ / ▶キー）を使います。
- **カーソル位置の文字を変更するには：**
  本体のMULTI JOGダイヤルを回します。（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを押します）
- **文字を削除するには：**
  本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押します。
- **カーソル位置より後ろの文字をすべて削除するには：**
  本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を長押しします。
- **文字種（大文字／小文字）を切り換えるには：**
  本体のDISPLAY / INFOキー（またはリモコンのDISPLAYキー）を押します。

- **１文字分の空白（スペース）を空けるには：**
  CALLキーを押します。
- **編集をキャンセルするには：**
  STOPキーを押します。

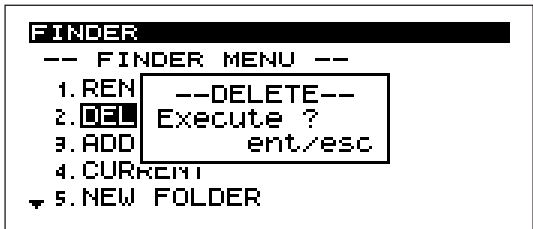
4. 設定を終えたら、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押して、編集を確定します。
   ディスプレイがフォルダファインダ画面に戻ります。

ご注意

- アルファベット、数字、記号以外が入った名前を編集することはできません。（RENAME時に登録済みの名前が表示されません。）
- 以下の記号や句読点は名前に使うことができません。
  ￥ ／ ： ；, * ？ " ＜ ＞ ｜

フォルダを削除する [CFカードのみ]

以下の操作はCFカード使用時にのみ可能です。
フォルダを削除すると、その中に含まれているファイルも削除されます。

1. フォルダメニュー画面が表示されているとき、本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して）DELETEを反転します。
2. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します。
   削除の確認画面になります。

3. 再び、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します。
   フォルダが削除されます。
   ディスプレイがフォルダファインダ画面に戻ります。
   削除を取り消すには、TIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押します。

メモ

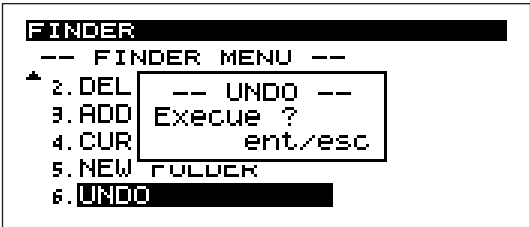
フォルダを削除した直後であれば、削除を取り消すことができます。（ → 下記「フォルダの削除を取り消す」）

フォルダの削除を取り消す（UNDO）[CFカードのみ]

以下の操作はCFカード使用時にのみ可能です。
CFカード上のフォルダを削除した直後に、操作を取り消してフォルダを復活することができます。
再生モードが連続再生(CONTINUE)に設定されているときのみ可能です。

メモ

取り消し操作を行うときは、フォルダメニュー画面を開く前のフォルダファインダ画面で、どのフォルダが選択されていてもかまいません。

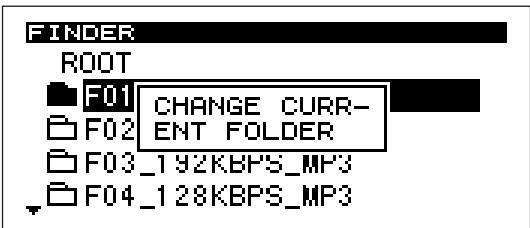
1. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して）UNDOを反転します。
2. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します。確認画面が表示されます。

3. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します。
   フォルダが復活し、フォルダファインダ画面に戻ります。このとき、復活したフォルダが反転しています。

メモ

- 取り消し（UNDO）を中止する場合、本体のTIME / ESCキー（リモコンの場合、CLR/ESCキー）を押します。
- UNDO可能なフォルダ削除操作が存在しない場合、"CAN'T UNDO" を表示します。

カレントフォルダにする

作業中のフォルダを、カレントフォルダにすることができます。
この操作はCFカードおよびWAV／MP3ファイルを記録した未ファイナライズCDに対して有効です。

1. フォルダメニュー画面が表示されているとき、本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して）CURRENTを反転します。
2. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します
   以下のポップアップ（ "CHANGE CURRENT FOLDER")が表示されます。

ディスプレイがフォルダファインダ画面に戻ります。

メモ

録音によって作成されるオーディオファイルはカレントフォルダに記録されます。録音ファイルを収納するための新規フォルダを作成した場合、上記の手順で新規フォルダをカレントフォルダにすることができます。

新規フォルダを作成する

作業中のフォルダの中に新たなフォルダを作成することができます。
この操作はCFカードおよびMP3ファイルを記録した未ファイナライズCDに対して有効です。

1. フォルダメニュー画面が表示されているとき、本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して）、NEW FOLDERを反転します。
2. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します。
3. 名前編集（RENAME）画面になります。名前の編集方法については、「フォルダ名を編集する［CFカードのみ］（44ページ）をご参照ください。
4. 名前の編集を終えたら、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押して、編集を確定します。
   ポップアップ（"FOLDER"）が表示され、新規フォルダが作成されます。
   作成後、ディスプレイがフォルダファインダ画面に戻ります。

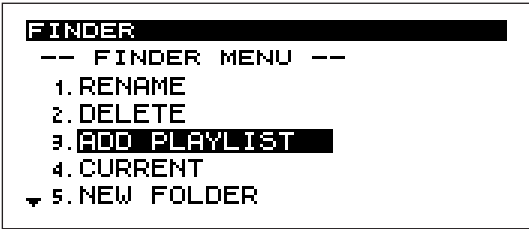
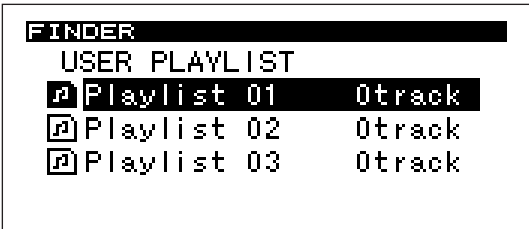
メ モ

１枚のメディア上に作成できる最大フォルダ数は255です。

フォルダ全体をプレイリストに追加する［CFカードのみ］

CFカードのフォルダ内のファイルをすべて、希望のプレイリストに追加することができます。
ただし、サブフォルダ内のファイルは追加されません。

1. フォルダメニュー画面が表示されているとき、本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して）ADD PLAYLISTを反転します。

```
FINDER
 -- FINDER MENU --
  1.RENAME
  2.DELETE
  3.ADD PLAYLIST
  4.CURRENT
  5.NEW FOLDER
```

2. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します。
   プレイリスト選択画面が表示されます。

3. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して）登録先にするプレイリストを反転します。
4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは ▶▶ キー（リモコンの場合、ENTERキーまたはCURSOR ▶キー）を押します。
   選択したプレイリストが表示されます。

5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して）、追加するフォルダのプレイリスト内の位置を選択します。反転したファイルの後ろにフォルダが追加されます。
6. 本体のMULTI JOGダイヤルを長押しします（リモコンの場合、ENTERキーを押します）。
   フォルダがプレイリストに追加されます。

ファイルメニュー画面の操作 [CFカードのみ]

以下に述べるファイルの編集操作は、CFカードに対して行うことができます。CDではファイルを編集することができません。
以下の説明は、カレントデバイスがCFで、操作対象ファイルのファイルメニュー画面が表示されていることを前提にしています。
ファイルメニュー画面を表示するには、フォルダファインダ画面で希望のファイルを反転してMENUキーを押します。（ → 43ページ「フォルダファインダ画面内のナビゲーション」）

```
FINDER
 -- FINDER MENU --
  1.RENAME
  2.DELETE
  3.ADD PLAYLIST
  4.DIVIDE
  5.COMBINE
```

ファイル名を編集する

1. ファイルメニュー画面が表示されているとき、本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して）RENAMEを反転します。
2. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します。
   名前編集（RENAME）画面になります。

```
FINDER
 -- RENAME --

   T01_PIANO_SONATA_NO15
                     INSERT
```

3. 以下の要領で名前を編集します。

- **編集位置（カーソル位置）を移動するには：**
  本体の ◀◀ / ▶▶ キー（またはリモコンのCURSOR ◀ / ▶キー）を使います。
- **カーソル位置の文字を変更するには：**
  本体のMULTI JOGダイヤルを回します。（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを押します）
- **文字を削除するには：**
  本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押します。
- **カーソル位置より後ろの文字をすべて削除するには：**
  本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を長押しします。
- **文字種（大文字／小文字）を切り換えるには：**
  本体のDISPLAY / INFOキー（またはリモコンのDISPLAYキー）を押します。
- **１文字分の空白（スペース）を空けるには：**
  CALLキーを押します。
- **編集をキャンセルするには：**
  STOPキーを押します。

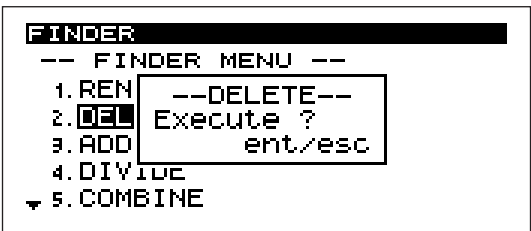
4. 設定を終えたら、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押して、編集を確定します。
   ディスプレイがフォルダファインダ画面に戻ります。
   編集を取り消すには、TIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押します。

ご注意

- CFカードをパソコンに直接セットして、パソコンからファイル名を編集することもできますが、パソコン上でファイル名の編集を行った場合、本機のファイルの再生順がパソコンでの編集以前と変わる場合がありますのでご了承ください。
- アルファベット、数字、記号以外が入った名前を編集することはできません。（RENAME時に登録済みの名前が表示されません。）
- 以下の記号や句読点は名前に使うことができません。
  ¥ ／ ： ；, * ？ " ＜ ＞ ｜

ファイルを削除する

ファイルをCFカードから削除することができます。

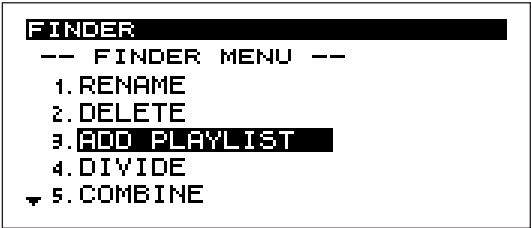
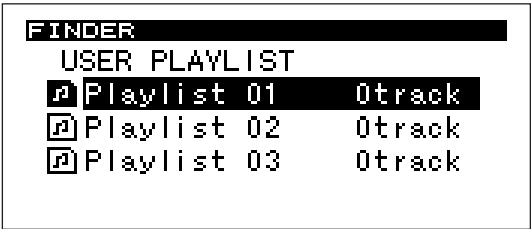
1. ファイルメニュー画面が表示されているとき、本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して）DELETEを反転します。
2. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します。
   削除の確認画面になります。

3. 再び、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します。
   ファイルがCFカードから削除されます。
   ディスプレイがフォルダファインダ画面に戻ります。
   削除を取り消すには、確認画面でTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押します。

メモ

ファイルの削除は、再生モードが連続再生（CONTINUE）に設定されているときのみ可能です。

ファイルをプレイリストに追加する

ファイルを希望のプレイリストに追加することができます。

1. ファイルメニュー画面が表示されているとき、本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して）ADD PLAYLISTを反転します。

2. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します
プレイリスト選択画面が表示されます。

3. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して）登録先にするプレイリストを反転します。
4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは▶▶キー（リモコンの場合、ENTERキーまたはCURSOR ▶キー）を押します。
選択したプレイリストが表示されます。

5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して)、追加するファイルのプレイリスト内の位置を選択します。反転したファイルの後ろにファイルが追加されます。
6. 本体のMULTI JOGダイヤルを長押しします（リモコンの場合、ENTERキーを押します)。

ファイルを分割する（DIVIDE）

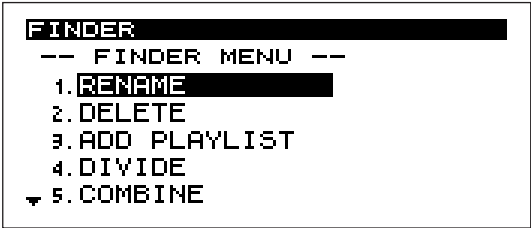
WAVファイルを２つのファイルに分割することができます。
再生モードが連続再生（CONTINUE）に設定されているときのみ可能です。

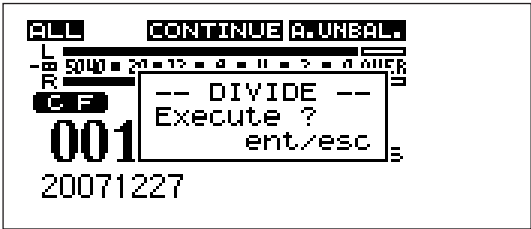
メモ

分割した後で、分割操作を取り消す（UNDOする）ことができます。（ → 50ページ「ファイルメニューの操作を取り消す(UNDO)」）

ご注意

MP3ファイルを分割することはできません。

1. PLAYキー、◀◀ / ▶▶キー、タイムサーチ機能、タイムスキップ機能などを使って、WAVファイル上の分割したい位置付近にロケートし、一時停止にします。
後から微調整を行いますので、おおよその位置でかまいません。
2. 本体のMENUキーを長押しして（またはリモコンのFINDERキーを押して）フォルダファインダ画面を表示します。
手順1.で操作したカレントファイルの属するフォルダファインダ画面が表示され、カレントファイルが反転しています。
3. MENUキーを押してカレントファイルのファイルメニュー画面を開きます。

4. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して）DIVIDEを反転します。
5. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します。
ホーム画面が表示されます。
このときスクラブ再生モードになり、PLAYキーとREADYキーが点滅します。
6. スクラブ再生機能を使って、分割ポイントを正確に設定します。
本体のMULTI JOGダイヤルを回すと（リモコンの場合、SKIPキーを押すと）スクラブ再生を行い、ポイントが移動します。

7. 分割ポイントを決めたら、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します。
"EXECUTE ?" が表示されます。

分割ポイントを変更する場合、本体のTIME / ESCキー（リモコンの場合、CLR/ESCキー）を押してください。スクラブ再生モードに戻りますので、手順6.からやり直します。
分割を実行する場合は次の手順8.に進みます。

メモ

プレイリストに登録されているファイルの場合、ポップアップ "P.LIST ENTRY" が表示されます。
編集対象のファイルがプレイリストに登録されていた場合、そのプレイリストは再生できなくなります。プレイリストファインダでプレイリストを再編集してください。

8. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します。
分割が実行され、フォルダファインダ画面に戻ります。

ファイルを結合する（COMBINE）

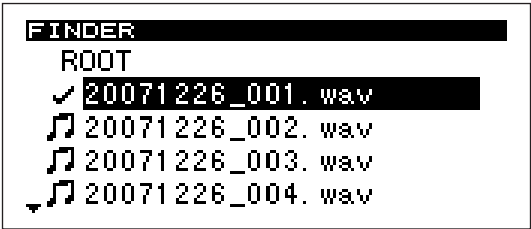
２つのWAVファイルを結合して１つのファイルにすることができます。
再生モードが連続再生（CONTINUE）に設定されているときのみ可能です。

ご注意

- MP3ファイルを結合することはできません。
- SAMPLING、チャンネル数の異なる２つのWAVファイルを結合することはできません。

メモ

結合した後で、結合操作を取り消す（UNDOする）ことができます。（ → 50ページ「ファイルメニューの操作を取り消す(UNDO)」）

1. 結合したいファイルのいずれか一方のファイルメニュー画面を開きます。
2. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して）COMBINEを反転します。
3. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します。
ファイルリストが表示されます。

ファイルメニューを開く前に選択していたファイルにチェックマークが付いています。

4. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して)、チェックマークが付いているファイルと結合したいファイルを反転します。
5. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します。
"EXECUTE ?" が表示され、結合ポイントの前後４秒間をリピート再生します。

メモ

プレイリストに登録されているファイルの場合、"P.LIST ENTRY" がポップアップ表示されます。
編集対象のファイルがプレイリストに登録されていた場合、そのプレイリストは再生できなくなります。プレイリストファインダでプレイリストを再編集してください。

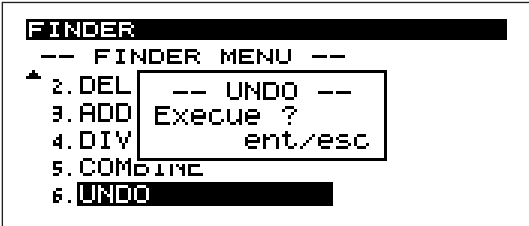
4. 結合操作を確定するには、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します。
結合が実行され、フォルダファインダ画面に戻ります。
結合を中止する場合、本体のTIME / ESCキー（リモコンの場合、CLR/ESCキー）を押します。
ファイルリストに戻りますので、手順1.からやり直します。

ファイルメニューの操作を取り消す（UNDO）

ファイルメニュー操作のうち、ファイル分割、ファイル結合、およびファイル削除については、操作を実行した直後に、操作を取り消すことができます。
再生モードが連続再生（CONTINUE）に設定されているときのみ可能です。

メモ

取り消し操作を行うときは、ファイルメニュー画面を開く前のフォルダファインダ画面で、どのファイルが選択されていてもかまいません。

1. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して）UNDOを反転します。
2. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します。
確認画面が表示されます。

3. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します。
取り消し（UNDO）が実行され、フォルダファインダ画面に戻ります。このとき、UNDOされたフォルダ／ファイルが反転しています。

メモ

- 取り消し（UNDO）を中止する場合、本体のTIME / ESCキー（リモコンの場合、CLR/ESCキー）を押します。
- UNDO可能なファイル操作が存在しない場合、"CAN'T UNDO" を表示します。

ファイルの移動とコピー [CFカードのみ]

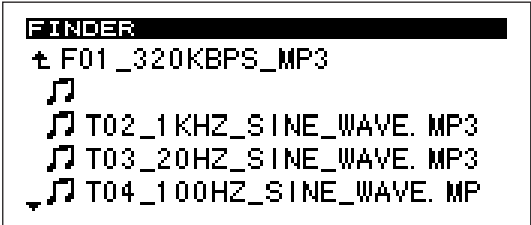
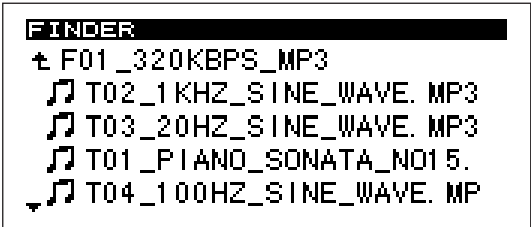
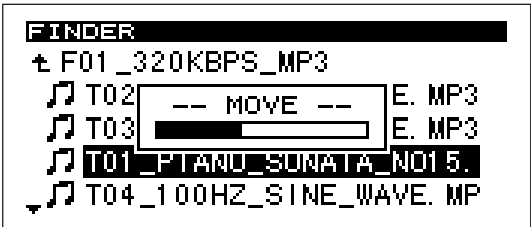
CFカード内のファイルの位置をフォルダ内で移動したり、別のフォルダに移動またはコピーすることができます。これらの操作はフォルダファインダ画面で行います（ファイルメニュー画面に入る必要はありません）。
以下の説明は、操作対象フォルダのフォルダメニュー画面が表示されていることを前提にしています。

同一フォルダ内のファイル移動

1. フォルダファインダ画面で、本体の ◄◄ / ►► キーおよびMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、CURSORキー）を使って、移動したいファイルを含むフォルダのファインダ画面を表示します。
2. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して）、移動したいファイルを反転します。
3. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を長押しします。
移動対象ファイルが点滅します。

```
FINDER
 F01_320KBPS_MP3
  ♫
  ♫ T02_1KHZ_SINE_WAVE. MP3
  ♫ T03_20HZ_SINE_WAVE. MP3
  ♫ T04_100HZ_SINE_WAVE. MP
```

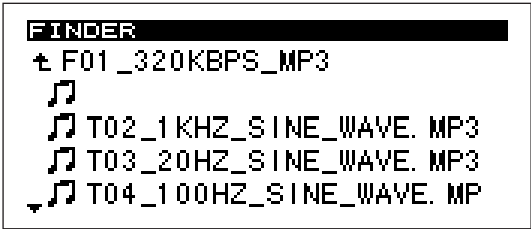
4. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して）移動対象ファイルを希望の位置に移動します。

```
FINDER
 F01_320KBPS_MP3
  ♫ T02_1KHZ_SINE_WAVE. MP3
  ♫ T03_20HZ_SINE_WAVE. MP3
  ♫ T01_PIANO_SONATA_NO15.
  ♫ T04_100HZ_SINE_WAVE. MP
```

5. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します。
"MOVE" がポップアップ表示され、移動が確定します。

フォルダ間のファイル移動／コピー

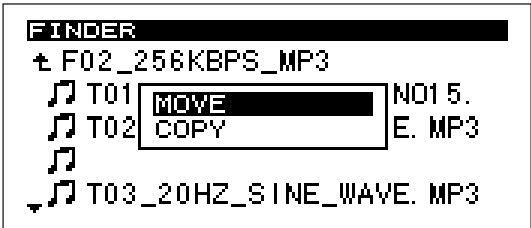
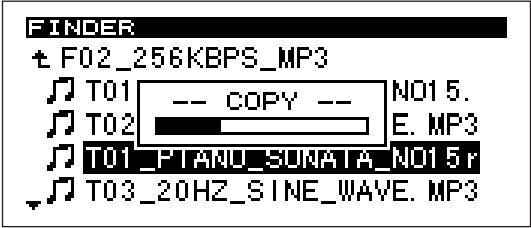
1. フォルダファインダ画面で、本体の ◀◀ / ▶▶ キーおよび MULTI JOG ダイヤル（リモコンの場合、CURSOR キー）を使って、移動したいファイルを含むフォルダのファインダ画面を表示します。

2. 本体の MULTI JOG ダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して）、移動したいファイルを反転します。

3. 本体の MULTI JOG ダイヤル（リモコンの場合、ENTER キー）を長押しします。
   移動対象ファイルが点滅します。

```
FINDER
F01_320KBPS_MP3
♫
♫ T02_1KHZ_SINE_WAVE.MP3
♫ T03_20HZ_SINE_WAVE.MP3
♫ T04_100HZ_SINE_WAVE.MP
```

   点滅しているファイルを、フォルダ名が表示されているところまで移動すると、点滅しているファイル名が消えて、フォルダ名が反転表示になります。

4. 本体の MULTI JOG ダイヤルと ◀◀ / ▶▶ キー（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼ / ◀ / ▶キー）を使ってフォルダファインダ内をナビゲートして、移動先のフォルダを開きます。
   カーソルをファイル名が表示されているところまで移動すると、移動対象ファイルの点滅表示が現れます。

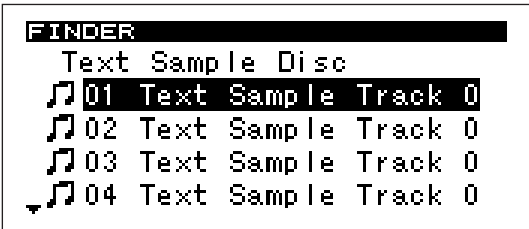
5. 本体の MULTI JOG ダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼を使って）、点滅している移動対象ファイルを移動先にしたい位置に移動します。
   MULTI JOG ダイヤルを押します。（リモコンの場合、ENTER キーを押します。）。
   以下のポップアップが表示されます。

6. ファイルを以前の場所から単に移動する場合は "MOVE" 、ファイルをコピーする場合は "COPY" を反転し、本体の MULTI JOG ダイヤルを（リモコンの場合、ENTER キーを）押します。
   操作が実行され、実行中、ポップアップが表示されます。

メ モ

COPY の場合は移動元にファイルが残ります。MOVE の場合は移動元にファイルが残りません。

第8章　CD-DA ファインダ画面を使う [オーディオ CD のみ]

オーディオ CD（CD-DA）トラックを記録した CD の場合、CD-DA ファインダ画面を使って、再生するトラックを選択することができます。また、オーディオ CD トラックが記録されている未ファイナライズ CD の場合、CD TEXT の編集を行うことができます。
以下の説明では、オーディオ CD がセットされ、カレントデバイスとして CD が選択されていることを前提にしています。

CD-DA ファインダ画面を開く

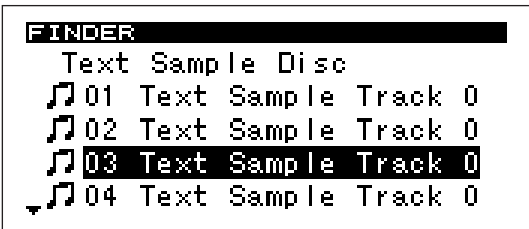
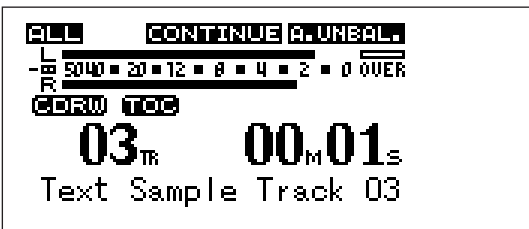
停止中／一時停止中／再生中に、本体の MENU キーを長押しすると（リモコンの場合、FINDER キーを押すと）、CD-DA ファインダ画面が表示されます。

この画面にはトラック番号順にトラックがリスト表示されます。
停止中に呼び出すと、トラック 1 が反転します。一時停止中／再生中に呼び出すと、現在のトラックが反転します。

CD-DA ファインダ画面を終了してホーム画面に戻るには：

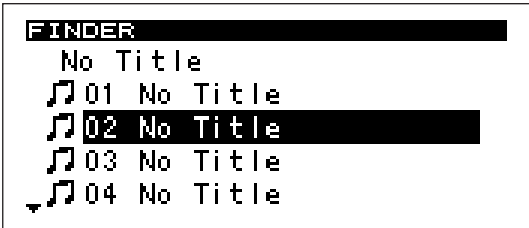
本体の TIME / ESC キー（リモコンの場合は CLR/ESC キー）を押します。

再生するトラックを選ぶ

CD-DA ファインダ画面から、以下の方法で再生するトラックを選ぶことができます。

1. CD-DA ファインダ画面を開き、再生したいトラックを反転させます。

2. 本体の MULTI JOG ダイヤル（リモコンの場合、ENTER キー）を押します。
   停止中に上記操作を行うと、反転トラックの再生が始まります。
   一時停止中に上記操作を行うと、反転トラックの先頭で一時停止になります。

CD TEXT を編集する

オーディオ CD トラックが記録されている未ファイナライズ CD がセットされている場合、以下の方法で CD TEXT を編集することができます。

1. CD-DA ファインダ画面を開き、希望のトラックを反転させます。

2. MENU キーを押します。
   反転トラックの CD テキスト編集画面が表示されます。

3. 以下の要領で名前を編集します。

- **編集位置（カーソル位置）を移動するには：**
  本体の ◀◀ / ▶▶ キー（またはリモコンの CURSOR ◀ / ▶ キー）を使います。
- **カーソル位置の文字を変更するには：**
  本体の MULTI JOG ダイヤルを回します（またはリモコンの CURSOR ▲ / ▼ キーを押します）。
- **文字を削除するには：**
  本体の TIME / ESC キー（またはリモコンの CLR/ESC キー）を押します。
- **カーソル位置より後ろの文字をすべて削除するには：**
  本体の TIME / ESC キー（またはリモコンの CLR/ESC キー）を長押しします。
- **文字種（大文字／小文字）を切り換えるには：**
  本体の DISPLAY / INFO キー（またはリモコンの DISPLAY キー）を押します。
- **1 文字分の空白（スペース）を空けるには：**
  CALL キーを押します。
- **編集をキャンセルするには：**
  STOP キーを押します。

4. 設定を終えたら、本体の MULTI JOG ダイヤル（またはリモコンの ENTER キー）を押して、編集を確定します。
   ディスプレイが CD-DA ファインダ画面に戻ります。

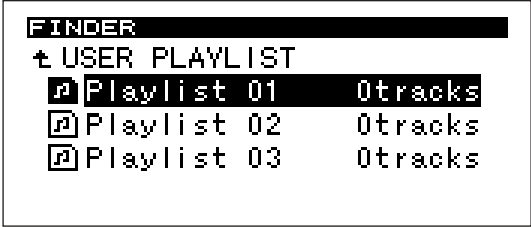
ご注意

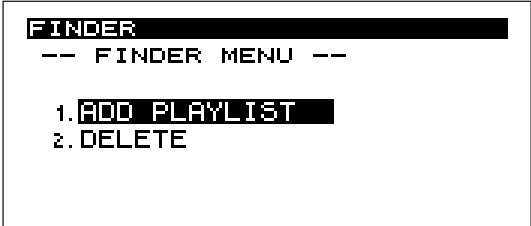
以下の記号や句読点は名前に使うことができません。

¥ ／ ： ； , * ? " < > |

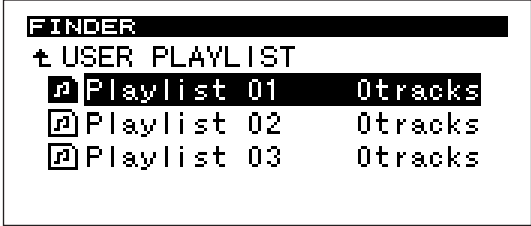
概要

CF カード使用時、本機のプレイリスト再生機能を使うことができます。CD の場合はプレイリスト再生ができません。
CF カードを初めて本機にセットすると、本機が３つの空のプレイリスト（01 ～ 03）をカード上に自動作成します。これらのプレイリストにカード内のオーディオファイルを登録しておくと、再生エリアをプレイリストに設定したとき、現在選択中のプレイリスト（＝カレントプレイリスト）内のファイルを再生対象にすることができます。
プレイリストに関する作業を行うには、まず「プレイリストファインダ画面」を開きます。この画面から「プレイリストメニュー画面」に進むと、ファイルをプレイリストに追加したり、プレイリストの内容を一括削除することができます。またプレイリストファインダ画面から「プレイリスト画面」（プレイリストに含まれるファイルを表示）に進み、操作対象ファイルを選んでから「ファイルメニュー画面」に進むと、プレイリストへのファイル追加、プレイリストからのファイル削除、およびプレイリスト内のファイル移動を行うことができます。

FINDER
USER PLAYLIST
Playlist 01　0tracks
Playlist 02　0tracks
Playlist 03　0tracks

［プレイリストファインダ 画面］

［プレイリスト画面］

［プレイリストメニュー画面］

プレイリストファインダ画面を開く

再生エリア（ → 20ページ「再生エリア」）がPLAY LISTの場合、停止中／再生中／一時停止中に本体のMENUキーを長押しすると（リモコンの場合、FINDERキーを押すと）、プレイリストファインダ画面が表示されます。

プレイリストファインダ画面内のナビゲーション

プレイリストファインダ画面には、３つのプレイリスト（"PLAYLIST_01"～"PLAYLIST_03"）が表示されます。
右側には、それぞれのプレイリストに登録されているファイル（トラック）数が表示されます。
プレイリストファインダ画面が表示されているとき、本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合はCURSOR ▲ / ▼キーを押して）、操作対象のプレイリストを選択（反転）します。
この状態で以下の操作が可能です。

- **プレイリストの頭から再生を開始する：**
  PLAYキーを押します。再生開始と同時にホーム画面に戻ります。
  また、選択したプレイリストがカレントプレイリストに設定されます。
- **プレイリストの頭で一時停止する：**
  READYキーを押します。一時停止すると同時にホーム画面に戻ります。
  また、選択したプレイリストがカレントプレイリストに設定されます。
- **プレイリスト画面を開く：**
  本体のMULTI JOGダイヤルまたは▶▶キー（リモコンの場合はENTERキーまたはCURSOR ▶キー）を押します。
  プレイリスト画面にはプレイリスト内のファイルがリスト表示されます。この画面内で操作対象ファイルを反転してMENUキーを押すと、ファイルメニュー画面が開きます。（ → 47ページ「ファイルメニュー画面の操作」）

- **プレイリストメニュー画面を開く：**
MENUキーを押します。プレイリストメニューの各項目の詳細は以下の「プレイリストメニュー画面の操作」（54ページ）をご覧ください。

- **プレイリストのプロパティを表示する：**
本体のDISPLAY / INFOキー（リモコンの場合、DISPLAYキー）を押します。

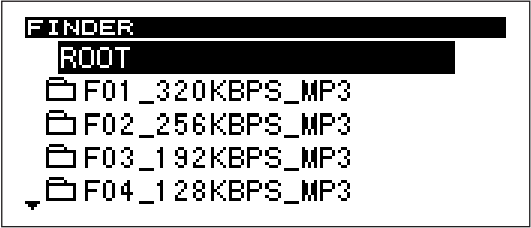
プレイリストに含まれるトラックの数とプレイリストのトータル再生時間が表示されます。
再度、本体のDISPLAY / INFOキー（リモコンの場合、DISPLAYキー）を押すと、プロパティ表示が消えて、プレイリストファインダ画面に戻ります。

プレイリストメニュー画面の操作

プレイリストメニューでは、プレイリストからのファイル削除、プレイリストへのファイル追加を行うことができます。
以下の説明は、操作対象プレイリストのプレイリストメニュー画面が表示されていることを前提にしています。
プレイリストメニュー画面を表示するには、プレイリストファインダ画面で希望のプレイリストを反転してMENUキーを押します。（ → 53ページ「プレイリストファインダ画面内のナビゲーション」）

プレイリストにファイルを追加する

以下の手順でプレイリストにファイルを追加することができます。なお、フォルダに含まれるファイルを一括して追加することもできます。

1. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して）、ADD PLAYLISTを反転します。
2. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します。
フォルダファインダ画面が表示されます。

3. 追加したいファイルまたはフォルダを選択（反転）します。
フォルダファインダ画面内のナビゲーションについては「フォルダファインダ画面内のナビゲーション」（43ページ）をご覧ください。
フォルダを選択すると、フォルダ内のファイルすべてが追加されます。

メモ

サブフォルダ内のファイルは追加されません。

4. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を長押しします。
ファイル（またはフォルダ内の全ファイル）がプレイリストに追加されます。

メモ

- プレイリストに登録可能なトラック数は、最大99トラックです。
- 99トラック以上の登録を行おうとした場合、"P.LIST FULL"を表示し、トラックの登録を行いません。
- プレイリストに同じトラックを複数回登録することはできません。

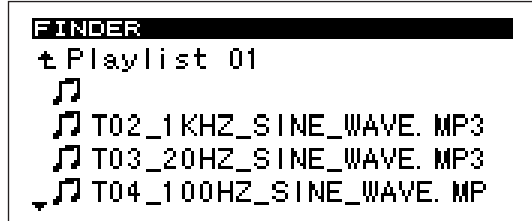
プレイリストのファイルを削除する

以下の手順でプレイリスト上のファイルを一つずつ、または全てのファイルを一度に削除することができます。
ただしプレイリスト上からファイルを削除しても、ファイルがカードから削除されることはありません。

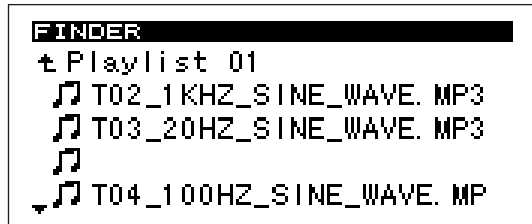
1. 本体の MULTI JOG ダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して）プレイリスト中のファイルもしくはプレイリストを選択します（プレイリストを選択した場合は、プレイリスト中の全ファイルが削除されます）。
2. MENUキーを押してプレイリストメニュー画面を開きます。
3. 本体の MULTI JOG ダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して）DELETE を反転します。
4. 本体の MULTI JOG ダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します。
   確認のポップアップ画面が表示されます。
5. 本体の MULTI JOG ダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します。
   削除を取り消すには、本体の TIME / ESC キー（またはリモコンの CLR/ESC キー）を押します。

ファイルを移動する

ファイルの位置をプレイリスト内で移動することができます。

1. 移動したいファイルを反転します。
2. 本体の MULTI JOG ダイヤルを長押しします。（リモコンの場合、ENTERキーを押します。）
   移動対象ファイルが点滅しています。

```
FINDER
Playlist 01
♫
♫ T02_1KHZ_SINE_WAVE.MP3
♫ T03_20HZ_SINE_WAVE.MP3
♫ T04_100HZ_SINE_WAVE.MP
```

3. 本体の MULTI JOG ダイヤルを回して（リモコンの場合、CURSOR ▲ / ▼キーを押して）移動対象ファイルを希望の位置に移動します。

```
FINDER
Playlist 01
♫ T02_1KHZ_SINE_WAVE.MP3
♫ T03_20HZ_SINE_WAVE.MP3
♫
♫ T04_100HZ_SINE_WAVE.MP
```

4. 本体の MULTI JOG ダイヤル（リモコンの場合、ENTERキー）を押します。
   移動が確定します。

第10章　CDとCFカード間のファイルコピー

CFカードに記録されているファイルをCDにコピー（または変換コピー）することができます。また、CDに記録されているファイルをCFカードにコピー（または変換コピー）することができます。これらのコピーは、CDメニューを使って行いますのでカレントデバイスをCDに設定します。
また、以下に述べる操作を行う前に、あらかじめ適切なCDおよびCFカードを本機にセットしておきます。

CFカードのファイルをCDにコピー／変換コピーする

CFカード上のファイル（MP3またはWAVファイル）をブランクCD（CD-R／CD-RW）ディスクにコピー／変換コピーする場合、そのままのファイル形式でデータCDとして記録するか、オーディオCD（CD-DA）形式で記録するかを選択します。オーディオCDを選択した場合、CFカード上のサンプリング周波数44.1kHzのMP3またはWAVファイルを、オーディオCD（CD-DA）フォーマットに変換してCDに記録することができます。
すでにトラックが記録されていてファイナライズされていないCDディスクを使う場合、ディスクの形式（オーディオCDまたはデータCD）がすでに決定していますので、その形式に従って記録を行います。

ご注意

本機はCDにWAVファイルの録音することはできませんが、CFカード上のWAVファイルをCDにコピーすることができます。CDにコピーされたWAVファイルは本機で再生することができます。

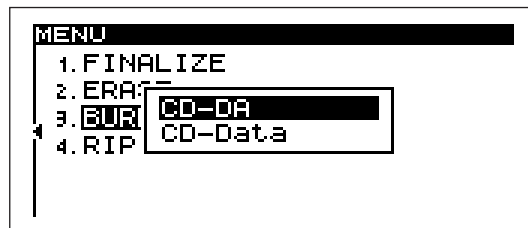
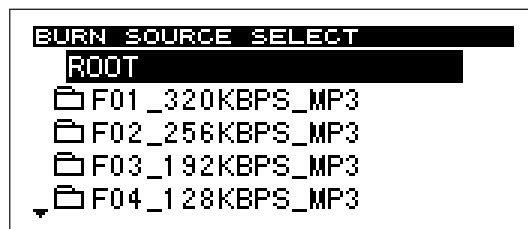
オーディオCDを作成する

CFカード上のファイル（MP3またはWAVファイル）をオーディオCD（CD-DA）フォーマットに変換してCDに記録する手順を説明します。
以下の手順は、カレントデバイスがCDに設定され、コピー元のファイルを含むCFカードおよびコピー先のCDが本機にセットされていることを前提にしています。

1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. CDメニューを反転して、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
3. BURN TO CD項目を反転して、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
   本機が自動的にCFカードの読み込みを行います。
   読み込み中は "MEDIA READ" およびプログレスバーがポップアップ表示されます。

メモ

CFカードがセットされていない場合、"MEDIA READ" 後に "CF READ" がポップアップ表示されます。

4. CDドライブにブランクCDがセットされている場合、CFカードの読み込み後、CDの書き込み形式を選択するポップアップ画面が表示されますので、"CDDA" を反転して、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。

CFカードのフォルダファインダ画面が表示されます。

メモ

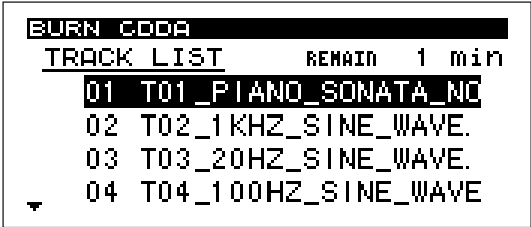
CDにすでにオーディオCDトラックが書き込まれている場合、上記のポップアップ画面は表示されず、自動的にCD-DA形式が選択されます。

5. CDに記録するソースを選択します。
   「フォルダファインダ画面内のナビゲーション」（43ページ）の説明に従ってファインダ内を移動して、ファイルを選択します。フォルダを選択することはできません。
   複数のファイルを選択するには、希望のファイルを反転した状態でCALLキーを押す、という操作を繰り返します。選択したファイルにはチェックマーク（ "✔" ）が付きます。なお同一フォルダ内にあるファイルのみ、複数選択が可能です。
   選択したファイルを選択解除するには、再びCALLキーを押します。

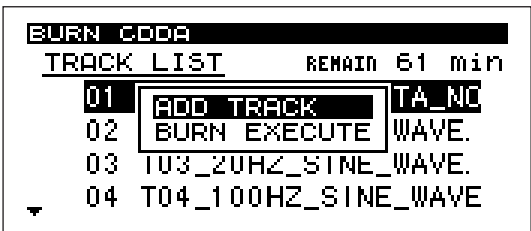
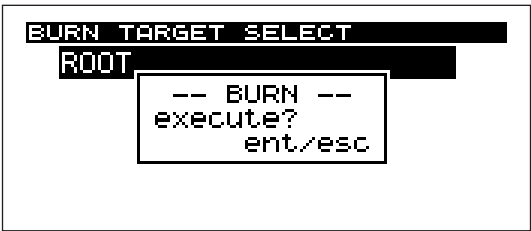
メモ

- コピー元ファイルのサンプリング周波数は44.1kHzでなければなりません。サンプリング周波数48kHzのファイルを選択しようとすると、"Cannot burn 48kHz file" がポップアップ表示されます。
- 同一フォルダ内のファイルのみ複数選択可能ですので、CALLキーを使って1つ目のファイルを選択すると、以後は別のフォルダに移動することができなくなります。
- 選択済みのファイルを選択しようとすると、警告メッセージが表示されます。

- コピー元ファイルが4秒未満のファイルを選択しようとすると、"Cannot burn under 4s" がポップアップ表示されます。
- ファイルを一つだけ選択する場合はCALLキーを押す必要がありません。反転した状態で次の手順6.に進んでください。

6. CDに記録するファイルをすべて選択したら、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を長押しして、選択を確定します。
CDのトラックリストが表示されます。

書き込んだ後のCDの残り時間が画面右上に表示されます。時間をオーバーすると "OVER" が表示され、選択しているファイルをCDに書き込むことができません。この場合、"OVER" が表示されなくなるように、ソースになるファイルを削除する必要があります。
すでに記録済みのファイルがある場合、そのファイルもリストに表示されます。
既存トラックには音符マークが付きます。追加するファイルには音符マークが付きません。

7. 必要に応じて、トラック順の変更や、ファイルの削除を行います。
変更の手順については、下記の「トラックリスト内のファイルを移動する」、「トラックリスト内のファイルを削除する」をご覧ください。

8. 書き込みを実行するには、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
ポップアップが表示されます。

9. さらにトラックを追加したい場合は、ADD TRACKを選択して本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。（手順5.に戻ります。）トラックの選択を終了する場合はBURN EXECUTEを選択して本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
確認のポップアップが表示されます。

10. 再度、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
書き込みが始まります。
実行中は "BURN" およびプログレスバーがポップアップ表示されます。
書き込みを終了すると、CDメニュー画面に戻ります。

トラックリスト内のファイルを移動する

トラックリスト表示中（上記手順6）、以下の要領でトラック順を変更することができます。
ただし、記録済みのトラック順は変更できません。

1. MULTI JOGダイヤルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを使って）トラック順を変更したいトラックを反転します。
2. 本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を長押ししてトラック順変更モードにします。
反転していたトラックが点滅になります。
3. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを使って）、点滅しているトラックを希望の位置に移動します。
4. 本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
移動が確定します。
5. 必要に応じて、上記手順1〜4を繰り返します。

トラックリスト内のファイルを削除する

トラックリスト表示中（上記手順6）、以下の要領でファイルを削除することができます。すでに記録済みのファイルは削除できません。

1. MULTI JOGダイヤルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを使って）削除したいファイルを反転します。
2. ESCキーを長押しします。
ファイルが削除されます。

データCDを作成する

CFカード上のファイル（MP3またはWAVファイル）をそのままの形式でデータCDにコピーする手順を説明します。
以下の手順は、カレントデバイスがCDに設定され、コピー元のファイルを含むCFカードおよびコピー先のCDが本機にセットされていることを前提にしています。

ご注意

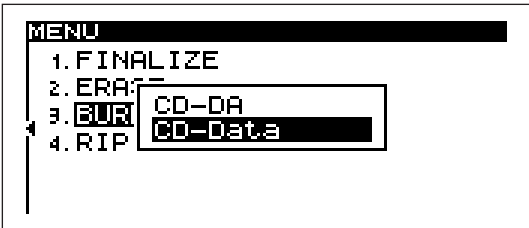
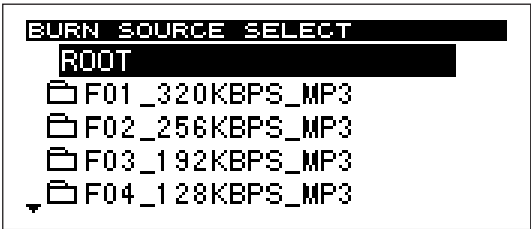
本機はCFカード上のWAVファイルをCDにコピーすることができますが、CDを使ったWAVファイルの録音はできません。

1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. CDメニューを反転して、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
3. BURN TO CD項目を反転して、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
本機が自動的にCFカードの読み込みを行います。
読み込み中は "MEDIA READ" およびプログレスバーがポップアップ表示されます。

```
MENU
 1.FINALIZE
 2.ERA
 3.BUR  -MEDIA READ-
 4.RIP
```

メ モ

CFカードがセットされていない場合、"MEDIA READ" 後に "CF READ" がポップアップ表示されます。

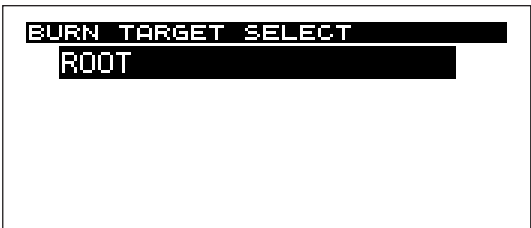
4. CDドライブにブランクCDがセットされている場合、CFカードの読み込み後、CDの書き込み形式を選択するポップアップ画面（下図）が表示されますので、"CD-Data" を反転して、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。

CFカードのフォルダファインダ画面が表示されます。

メ モ

CDにすでにMP3またはWAVファイルが書き込まれている場合、上記のポップアップ画面は表示されず、自動的にデータCD形式が選択されます。

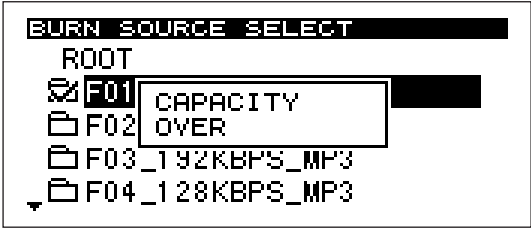
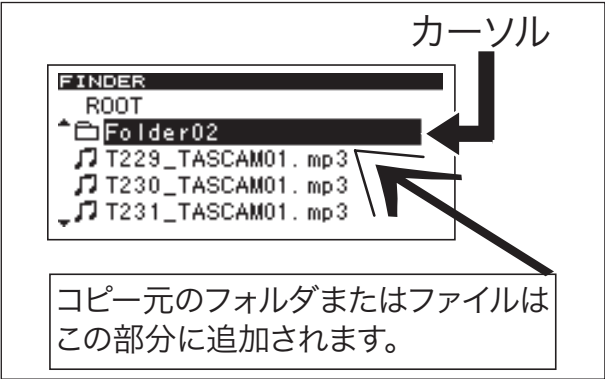
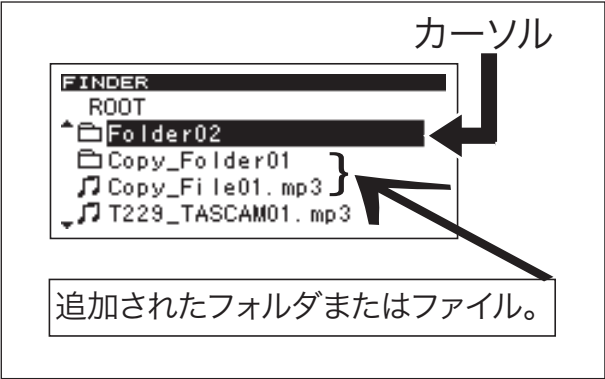
5. CDにコピーするソースを選択します。
「フォルダファインダ画面内のナビゲーション」（43ページ）の説明に従ってファインダ内を移動して、フォルダまたはファイルを選択します。フォルダを選択すると、フォルダ内のファイルがすべてソースになります。
複数のフォルダやファイルを選択する場合、希望のフォルダまたはファイルを反転した状態でCALLキーを押す、という操作を繰り返します。選択したフォルダやファイルにはチェックマーク（ "✔" ）が付きます。なお同一フォルダ内にあるフォルダやファイルのみ、複数選択が可能です。
選択したファイルを選択解除するには、再びCALLキーを押します。

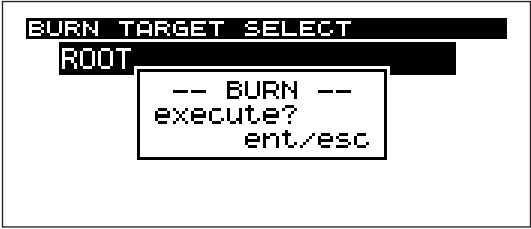
メ モ

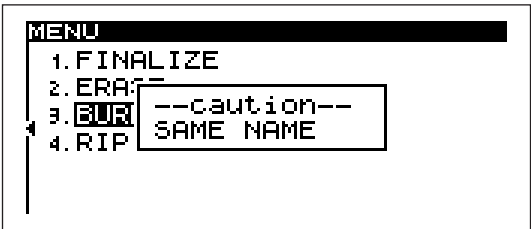
- 同一フォルダ内のフォルダ／ファイルのみ選択可能ですので、CALLキーを使って1つ目のフォルダ／ファイルを選択すると、以後は別のフォルダに移動することができなくなります。
- フォルダまたはファイルを一つだけ選択する場合CALLキーを押す必要がありません。反転した状態で次の手順6.に進んでください。

6. CDにコピーするファイルをすべて選択したら、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を長押しして、選択を確定します。
ターゲット選択画面が表示されます。

ディスクの空き容量やトラック数制限を超えるようなコピー元選択を行った場合、ターゲット選択画面に進むことができません。このような場合、選択したフォルダやファイルの削除を行って、制限を超えないようにしてください。

メモ

- コピー元ファイルのトータル容量がコピー先ディスクの空き容量を超えている場合、上記手順6.の後、"CAPACITY OVER" がポップアップ表示されます。
- コピー元ファイルをコピーするとディスクのトラック数制限を超える場合、上記手順6.の後、"TRACK OVER" がポップアップ表示されます。

7. 書き込み先（ターゲット）を選択します。
   すでにフォルダ構造を持っているディスクの場合、「フォルダファインダ画面内のナビゲーション」（43ページ）の説明に従ってファインダ内を移動してフォルダまたはファイルを選択します。
   選択したフォルダまたはファイルの後ろに、フォルダやファイルが書き込まれます。

［コピー前の画面表示］

［コピー後の画面表示］

8. 本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を長押しして、選択を確定します。
   確認画面が表示されます。

メモ

名前の重複がある場合、以下のポップアップ画面が表示されます。

ESCキーまたはSTOPキーを押すとポップアップ画面が消えて、メニュー画面に戻ります。

9. 再度、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
   書き込みが実行されます。
   実行中は、"BURN" およびプログレスバーがポップアップ表示されます。

書き込みを終了すると、CDメニュー画面に戻ります。

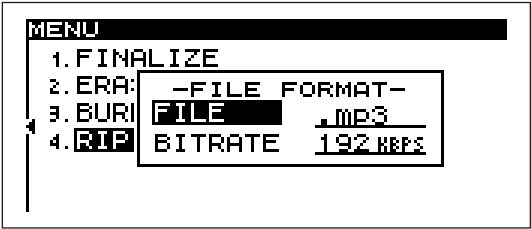
CDのファイルをCFカードにコピー／変換コピーする

CD上のファイルをCFカードにコピー／変換コピーすることができます。オーディオCDディスクからのコピーでは、各トラックファイルが指定されたフォーマット（MP3またはWAVファイル）に変換されて書き込まれます。MP3やWAVファイルを記録したCDからのコピーでは、そのままの形式で書き込まれます。

オーディオCDのトラックを変換コピーする

CD上のオーディオCD（CD-DA）トラックをMP3またはWAVフォーマットに変換してCFカードに書き込む手順を説明します。以下の手順は、カレントデバイスがCDに設定され、コピー元のファイルを含むCFカードおよびコピー先のCDが本機にセットされていることを前提にしています。

1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. CDメニューを反転して、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
3. RIP TO CF項目を反転して、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
本機が自動的にCFカードの読み込みを行います。
読み込み中は "MEDIA READ" およびプログレスバーがポップアップ表示されます。
読み込み終了後、以下の画面が表示されます。

メモ

CFカードがセットされていない場合、"MEDIA READ" 後に "CF READ" がポップアップ表示されます。

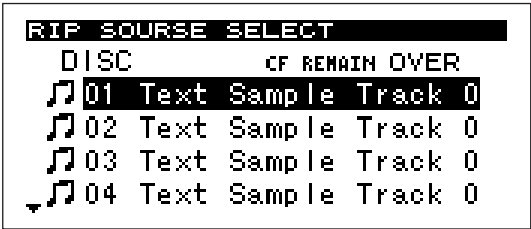
4. CFカードに記録するファイルのフォーマットを選択します。

file type（ファイルタイプ）：
".mp3" または ".wav" を選択します。

bitrate（ビットレート）：
64kbps、128kbps、192kbps、256kbps、320kbps の中から選択します。

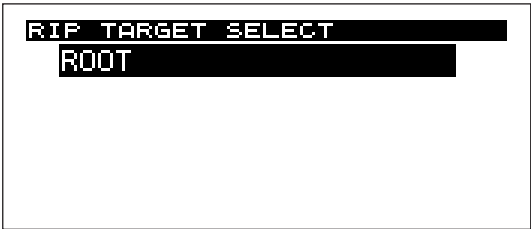
メモ

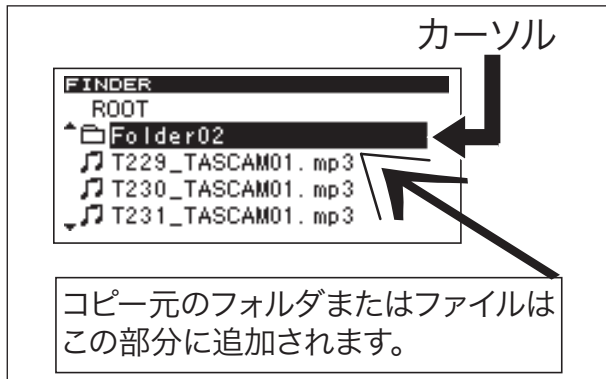
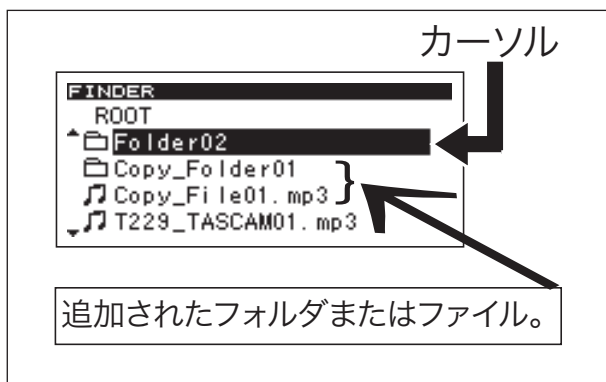
CFカードに記録するファイルのサンプリングレートは44.1kHz固定です。

5. すべての設定を終えたら、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を長押しします。
ソース選択画面が表示されます。

6. コピーするトラック（ソース）を選択します。
ソースにするトラックを反転し、CALLキーを押してチェックマーク（"✔"）を付けます。複数のトラックを選択する場合、この操作を繰り返します。
選択したファイルを選択解除するには、再びCALLキーを押します。
画面右上部に、書き込み後のCFカードの残量が表示されます。
ソース選択作業中にソース容量がCFカードの残り容量を超えたり、ソーストラック数がCFカードのファイル数制限を超えると、"OVER" が表示され、次の手順7.を受け付けません。選択解除などを行って、"OVER" が表示されなくなるようにしてください。

メモ

トラックを一つだけ選択する場合はCALLキーを押す必要がありません。反転した状態で次の手順7.に進んで下さい。

7. すべての希望トラックを選択したら、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を長押しして選択を確定します。
ターゲット（書き込み先）選択を行うためのフォルダファインダ画面が表示されます。

8. 書き込み先（ターゲット）を選択します。
「フォルダファインダ画面内のナビゲーション」（43ページ）の説明に従ってファインダ内を移動して、フォルダまたはファイルを選択します。

選択したフォルダまたはファイルの後ろに、フォルダやファイルが書き込まれます。

［コピー前の画面表示］

［コピー後の画面表示］

9. 本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を長押しして、コピー先を確定します。

10.再度、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
書き込みが始まります。
実行中は "RIP" およびプログレスバーがポップアップ表示されます。

書き込みを終了すると、CDメニュー画面に戻ります。

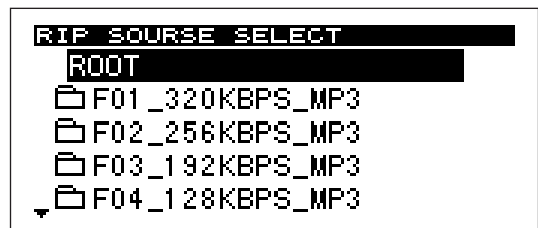
データCDのファイルをコピーする

データCD上のMP3ファイルまたはWAVファイルを、そのままの形式でCFカードにコピーする手順を説明します。
以下の手順は、カレントデバイスがCDに設定され、コピー元のファイルを含むCFカードおよびコピー先のCDが本機にセットされていることを前提にしています。

1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。

2. CDメニューを反転して、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。

3. RIP TO CF項目を反転して、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
本機が自動的にCFカードの読み込みを行います。
読み込み中は "MEDIA READ" およびプログレスバーがポップアップ表示されます。
読み込み終了後、以下のようなCDのフォルダファインダ画面が表示されます。

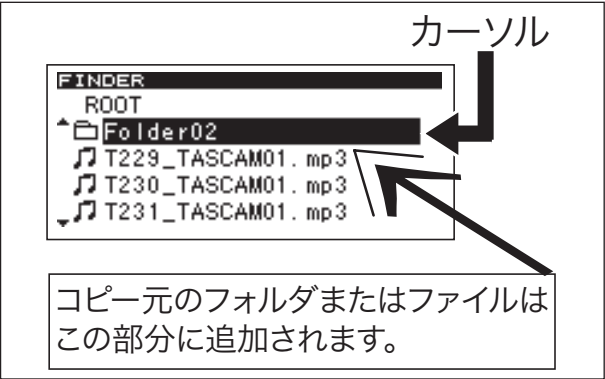
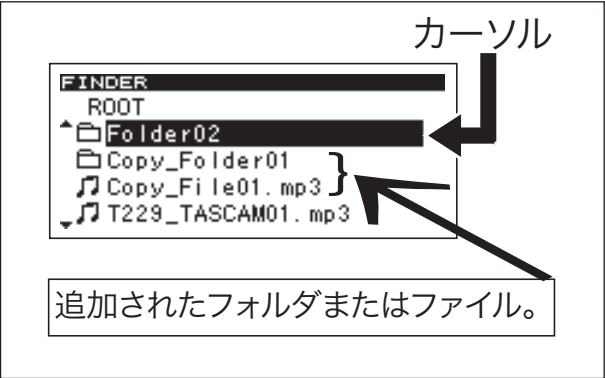
メモ

CFカードがセットされていない場合、"MEDIA READ" 後に "CF READ" がポップアップ表示されます。

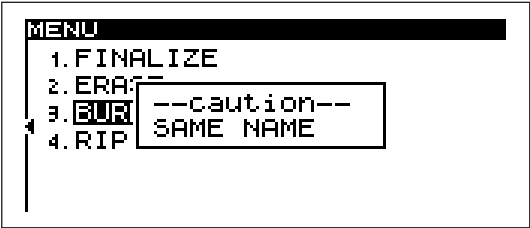
4. コピーするファイル（ソースファイル）を選択します。
「フォルダファインダ画面内のナビゲーション」（43ページ）の説明に従ってファインダ内を移動して、フォルダまたはファイルを選択します。フォルダを選択すると、フォルダ内のファイルがすべてソースになります。
複数のフォルダやファイルを選択する場合、希望のフォルダまたはファイルを反転した状態でCALLキーを押す、という操作を繰り返します。選択したフォルダやファイルにはチェックマーク（"✔"）が付きます。なお同一フォルダ内にあるフォルダやファイルのみ、複数選択が可能です。
選択したフォルダやファイルを選択解除するには、再びCALLキーを押します。

メモ

- 同一フォルダ内のフォルダ／ファイルのみ複数選択可能ですので、CALLキーを使って１つ目のファイルを選択すると、以後は別のフォルダに移動することができなくなります。
- フォルダまたはファイルを一つだけ選択する場合はCALLキーを押す必要がありません。反転した状態で次の手順5.に進んでください。

5. コピーするファイルをすべて選択したら、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を長押しして選択を確定します。
選択が確定すると、CFカードのフォルダファインダ画面が表示されます。この画面で書き込み先を選択します。
ソース容量がCFカードの残り容量を超えたり、ファイル数がCFカードのファイル数制限を超えると、それぞれ"CAPACITY OVER"、"TRACK OVER" がポップアップ表示され、ソース選択を確定することができません。
この場合、STOPキーを押してポップアップ表示を消し、ソースファイルの総容量あるいは数を減らしてから、再度、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を長押ししてください。

6. 書き込み先（ターゲット）を選択します。
「フォルダファインダ画面内のナビゲーション」（43ページ）の説明に従ってファインダ内を移動して、フォルダまたはファイルを選択します。
選択したフォルダまたはファイルの後ろに、フォルダやファイルが書き込まれます。

［コピー前の画面表示］

［コピー後の画面表示］

7. 本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を長押ししてコピー先を確定します。
コピー先にすでにあるファイルと名前が重複している場合、以下のポップアップ画面が表示されます。

8. 再度、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
書き込みが始まります。
実行中は "RIP" およびプログレスバーが表示されます。

書き込みを終了すると、CDメニュー画面に戻ります。

CDメニューを使って、CD-RWのアンファイナライズ、トラック消去、ディスク消去、ディスクのリフレッシュを行うことができます。本章ではこれらのCD-RW管理機能について説明します。
以下の操作説明は、カレントデバイスがCDに設定され、CD-RWがセットされていることを前提としています。

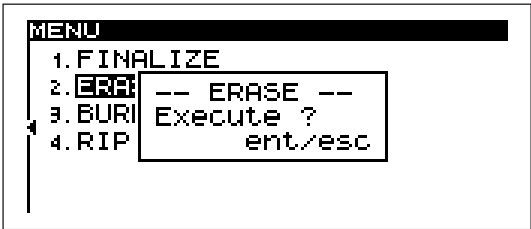
メモ

CDメニューを使って、この他にCDのファイナライズ、CDとCFカード間のファイルコピーを行うことができます。
ファイナライズについては「第6章　録音」の中で説明します（ → 36ページ「CDのファイナライズ」）。またCDとCFカード間のファイルコピーについては「第10章　CDとCFカード間のファイルコピー」（56ページ）をご覧ください。

CDをアンファイナライズする

ファイナライズ済みのCD-RWディスクがセットされている場合、ERASE項目を使ってアンファイナライズを行うことができます。

1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. CDメニューを反転して、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
3. ERASE項目を反転して、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
   項目選択のためのウィンドウがポップアップ表示されます。
4. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを使って）ポップアップウィンドウに"Unfinalize" を表示して、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
   以下の確認画面がポップアップ表示されます。

```
MENU
 1.FINALIZE
 2.ERA  -- ERASE --
 3.BURI Execute ?
 4.RIP        ent/esc
```

5. 再度、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
   アンファイナライズが始まります。
   実行中は "UNFINALIZE" およびプログレスバーが表示されます。
   アンファイナライズを終了すると、CDメニュー画面に戻ります。

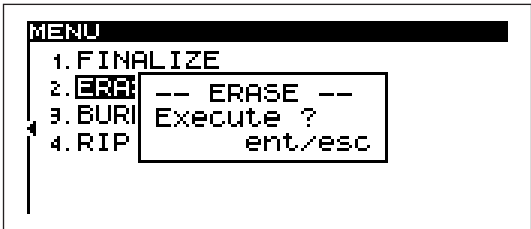
トラックを消去する

オーディオCDを記録したCD-RWの場合、トラックを消去することができます。指定のトラック番号以降（最終トラックまで）が消去されます。

1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. CDメニューを反転して、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
3. ERASE項目を反転して、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
   項目選択のためのウィンドウがポップアップ表示されます。
4. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを使って）ポップアップウィンドウ表示を選び、以下のような表示のときに本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。

```
MENU
 1.FINALIZE
 2.ERA
 3.BURI Erase Track
 4.RIP   12 - 19 trk
```

5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（またはリモコンのCURSOR ▲ / ▼キーを使って）、消去するトラック範囲の始まりのトラックを選択します。上の画面例ではトラック "12" が選ばれています。
   トラック範囲の最終トラック（上図の "19" 部）はディスクの最終トラックに固定され、変更できません。
6. 選択を終えたら、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
   確認画面が表示されます。

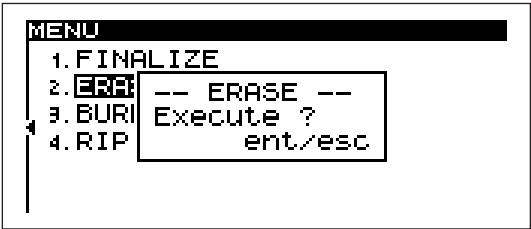
```
MENU
 1.FINALIZE
 2.ERA  -- ERASE --
 3.BURI Execute ?
 4.RIP        ent/esc
```

7. 再度、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
   トラック消去が始まります。
   実行中は "- ERASE -" およびプログレスバーが表示されます。
   トラック消去を終了すると、CDメニュー画面に戻ります。

メモ

- ファイナライズ済みのディスクに対してトラック消去を実行する場合、本機がディスクをアンファイナライズしてから、指定のトラックの消去を行います。
- CD-DAが記録されたディスクでのみ実行可能です。

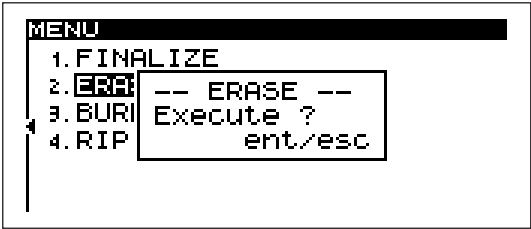
ディスクを消去する

CD-RW ディスク全体を消去することができます。

1. MENU キーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. CD メニューを反転して、本体の MULTI JOG ダイヤル（またはリモコンの ENTER キー）を押します。
3. ERASE 項目を反転して、本体の MULTI JOG ダイヤル（またはリモコンの ENTER キー）を押します。
   項目選択のためのウィンドウがポップアップ表示されます。
4. 本体の MULTI JOG ダイヤルを回して（またはリモコンの CURSOR ▲ / ▼キーを使って）ポップアップウィンドウに "Erase Media" を表示して、本体の MULTI JOG ダイヤル（またはリモコンの ENTER キー）を押します。
   確認画面が表示されます。

5. 再度、本体の MULTI JOG ダイヤル（またはリモコンの ENTER キー）を押します。
   ディスクの消去が始まります。
   実行中は "- ERASE -" およびプログレスバーが表示されます。
   ディスクの消去を終了すると、CD メニュー画面に戻ります。

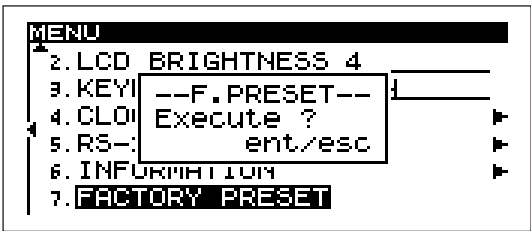
ディスクをリフレッシュ（全面消去）する

CD-RW ディスクをリフレッシュ（全面消去）することができます。停電などが原因でファイナライズの途中で強制終了したディスクや、コンピュータで使用したディスクは、本機で認識できないことがあります。このような場合は、以下の操作でディスクをリフレッシュすると、認識できるようになることがあります。

1. MENU キーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. CD メニューを反転して、本体の MULTI JOG ダイヤル（またはリモコンの ENTER キー）を押します。
3. ERASE 項目を反転して、本体の MULTI JOG ダイヤル（またはリモコンの ENTER キー）を押します。
   ポップアップメニューが表示されます。
4. REFRESH 項目を反転して、本体の MULTI JOG ダイヤル（またはリモコンの ENTER キー）を押します。
   確認画面が表示されます。

5. 再度、本体の MULTI JOG ダイヤル（またはリモコンの ENTER キー）を押します。
   ディスクのリフレッシュが始まります。
   実行中は "- REFRESH -" およびプログレスバーが表示されます。
   ディスクのリフレッシュを終了すると、CD メニュー画面に戻ります。

出荷時の設定に戻す

メニューその他の設定を工場出荷時の設定に戻すことができます。カレントデバイスにメディアをセットしているときは設定を戻すことができません。
メディアを取り外してから、以下のメニュー操作を行います。
（メニュー画面の操作に関しての詳細は「メニュー画面の操作」（14ページ）をご覧ください。）

1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. UTILITYメニューを選択します。
3. FACTORY PRESET項目を選択します。
確認のポップアップが表示されます。

メ モ

CFカードをセットした状態でFACTORY PRESET項目を選択すると、"CAN'T SELECT" がポップアップ表示され、選択を受け付けません。カードを取り出して再度操作を行ってください。

4. 再度、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
設定がリセットされ、"COMPLETE" が表示されて消えます。
5. 本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押してホーム画面に戻します。

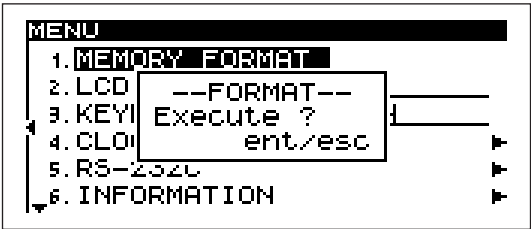
CFカードをフォーマットする

カレントデバイスとしてCFが選択され、停止状態のとき、CFカード全体をFAT形式でフォーマットすることができます。
他の機器で使用したCFカードを本機で使用するときは、最初にフォーマットを行ってください。

ご注意

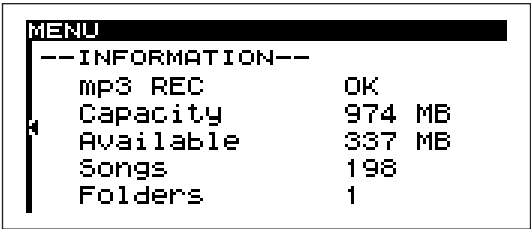
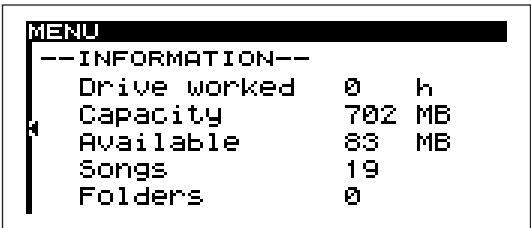
フォーマットすると、記録されたフォルダやファイルはすべて消去されます。

以下のメニュー操作を行います。
（メニュー画面の操作に関しての詳細は「メニュー画面の操作」（14ページ）をご覧ください。）

1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. UTILITYメニューを選択します。
3. MEMORY FORMAT項目を選択します。
確認のポップアップが表示されます。

4. 再度、本体のMULTI JOGダイヤル（またはリモコンのENTERキー）を押します。
カードがフォーマットされます。
実行中、"Execute" が表示されます。
5. 本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押してホーム画面に戻します。

メディアの情報を見る

カレントデバイス（CDまたはCF）にセットされているメディアの情報を見ることができます。
以下のメニュー操作を行います。
（メニュー画面の操作に関しての詳細は「メニュー画面の操作」（14ページ）をご覧ください。）

1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. UTILITYメニューを選択します。
3. INFORMATION項目を選択します。
メディアの情報が表示され、全体容量、空き容量などを確認することができます。

[CFデバイス選択時の表示]

[CDデバイス選択時の表示]

4. 本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押してホーム画面に戻します。

第13章　コンピュータキーボードを使った操作

IBM PC 互換機用、PS/2インタフェースのキーボードを本機フロントパネルに接続することにより、キーボードを使って本機を操作することができます。各種コントロールが可能ですが、特に名前の入力を効率的に行うことができます。

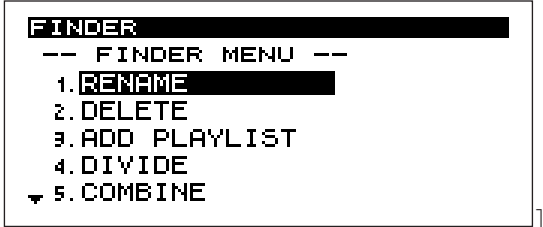
キーボードタイプの設定

接続するキーボードに合わせて、キーボードタイプを選択します。（メニュー画面の操作に関しての詳細は「メニュー画面の操作」（14ページ）をご覧ください。）

1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. UTILITYメニューを選択します。
3. KEYBOARD TYPE項目を選択します。

4. 接続するキーボードに合わせて、タイプを "JPN"（日本語対応キーボードの場合）または "US"（英語対応キーボードの場合）に設定します。
5. 本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押してホーム画面に戻します。

キーボードを使って名前を入力する

パソコンの文字入力と同じ感覚で、フォルダ名、トラック名を編集／入力することができます。
名前を編集する画面（RENAME画面）に入るには、フォルダファインダメニューから フォルダメニューまたはファイルメニューに入り、RENAME項目を選択するか、またはプレイリストファインダメニューからプレイリストメニューまたはファイルメニューに入り、RENAME項目を選択します。

入力する文字種を選択するには：

CAPSキー：「英大文字」を選択／解除します。
解除のとき：「英小文字」になります。

入力するには：

数字キー、文字キーで直接入力

カーソルを移動するには

← / ↑ / → / ↓ キーを使います。

文字を削除するには：

Deleteキー：カーソル位置の文字を削除します。
Back Spaceキー：カーソル手前の文字を削除します。

文字を挿入するには：

希望の位置でInsertキーを押します。

文字を修正するには：

カーソルを合わせて上書きします。

ご注意

以下の記号や句読点は名前に使うことができません。

¥ ／ ： ； , * ？ " < > ｜

キーボード操作一覧

名前の入力だけでなく、トランスポートコントロール、編集など、各種動作をキーボードからコントロールすることができます。以下に、キーボードのキーの機能をまとめておきます。

キーボードのキー	動作
F1 キー	本体MULTI JOGダイヤルを左方向に回したときと同じ（リモコンのSKIP ⏮ キーと同じ）
F2 キー	本体MULTI JOGダイヤルを右方向に回したときと同じ（リモコンのSKIP ⏭ キーと同じ）
F3 キー	リモコンのKEYキーと同じ
F4 キー	STOPキーと同じ
F5 キー	PLAYキーと同じ
F6 キー	READYキーと同じ
F7 キー	リモコンのAUTO CUEキーと同じ
F8 キー	RECORDキーと同じ
F9 キー	リモコンのAUTO READYキーと同じ
F10 キー	リモコンのREPEATキーと同じ
F11 キー	リモコンのP.MODEキーと同じ
F12 キー	本体のPITCHつまみを押したときと同じ（リモコンのPITCHキーと同じ）
SHIFT+ F1 キー	編集モードの "DELETE(CF) / ERASE TRK (CD)" へ
SHIFT+ F2 キー	"ERASE MEDIA" へ (CD)
SHIFT+ F3 キー	編集モードの "FORMAT (CF) / REFRESH (CD)" へ
SHIFT+ F4 キー	編集モードの "MOVE (CF)" へ
SHIFT+ F5 キー	編集モードの "DIVIDE (CF)" へ
SHIFT+ F6 キー	編集モードの "COMBINE (CF)" へ
SHIFT+ F7 キー	リモコンのFINDER キーと同じ
SHIFT+ F8 キー	編集モードの "RENAME (CF) / CD TEXT (CD)" へ
SHIFT+ F9 キー	本体のSELECTキー、リモコンのDEVICE SELECTキーと同じ
SHIFT+ F10 キー	リモコンのFLASH LOADキーと同じ
SHIFT+ F11 キー	"UNFINALIZE" へ (CD)
SHIFT+ F12 キー	"FINALIZE" へ (CD)
CTRL+ F1	FLASH LOAD完了時、トラック１をフラッシュスタート再生
CTRL+ F2	FLASH LOAD完了時、トラック２をフラッシュスタート再生
CTRL+ F3	FLASH LOAD完了時、トラック３をフラッシュスタート再生
CTRL+ F4	FLASH LOAD完了時、トラック４をフラッシュスタート再生
CTRL+ F5	FLASH LOAD完了時、トラック５をフラッシュスタート再生
CTRL+ F6	FLASH LOAD完了時、トラック６をフラッシュスタート再生
CTRL+ F7	FLASH LOAD完了時、トラック７をフラッシュスタート再生
CTRL +F8	FLASH LOAD完了時、トラック８をフラッシュスタート再生
CTRL +F9	FLASH LOAD完了時、トラック９をフラッシュスタート再生
CTRL +F10	FLASH LOAD完了時、トラック10をフラッシュスタート再生
CTRL +F11	FLASH LOAD完了時、トラック11をフラッシュスタート再生
CTRL +F12	FLASH LOAD完了時、トラック12をフラッシュスタート再生
CAPS キー	「英大文字」を選択／解除
数字キー	数字の入力
←/↑/→/↓ キー	リモコンCURSORキーと同じ
Delete キー	カーソル位置の文字を削除
Back Space キー	カーソル手前の文字を削除
Insert キー	カーソル位置に文字を挿入
ESC キー	編集／タイトル編集をキャンセルしてメニューモードを終了
Enter キー	ENTERキーと同じ

メモ

キーボードを使って編集を行う場合、ファインダ画面表示中に、行いたい編集キーを押してください。

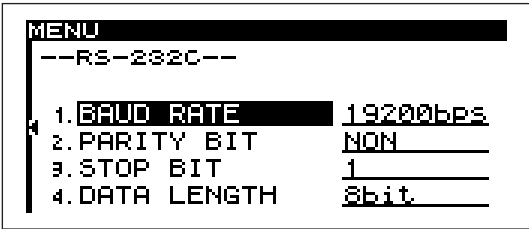
例：DELETEを行う場合

SHIFT + **F7** キー（**FINDER**キー）を押して、ファインダ画面を表示します。
削除したいファイルまたは、フォルダをカーソルキーで反転表示にします。
SHIFT + **F1** キーを押します。
"EXECUTE?" が表示されますので、**ENTER**キーを押してください。

第14章　コントロールI/Oを使う

RS-232C端子を使う

本機のCONTROL I/O(RS- 232C)端子をコンピュータのRS-232C端子と接続することにより、コンピュータから本機の制御を行うことができます。
通信に関する設定はメニューから行います。
（メニュー画面の操作に関しての詳細は「メニュー画面の操作」（14ページ）をご覧ください。）

1. MENUキーを押してメインメニューリスト画面を表示します。
2. UTILTITYメニューを選択します。
3. RS-232C項目を反転して、本体の ▶▶ キー（またはリモコンの ▶キー）を押します。
   RS-232C設定画面が表示されます。

4. 各項目の設定を行います。

BAUD RATE

ボーレート（通信速度）の設定を行います。
4800 、9600 、19200 、38400 (bps)の中からします（初期設定： 19200 ）。

PARITY BIT

通信パリティビットの設定を行います。
NON 、EVEN 、ODD の中からします（初期設定： NON ）。

STOP BIT

通信ストップビットの設定を行います。
1 または2 (bit)に設定します（初期設定： 1 ）。

DATA LENGTH

通信データ長の設定を行います。
7 または8 (bit)に設定します（初期設定： 8 ）。

5. 設定を終えたら、本体のTIME / ESCキー（またはリモコンのCLR/ESCキー）を押してホーム画面に戻します。を押してホーム画面に戻します。

メモ

- RS- 232C設定は、電源を切っても保持されます。
- 本機のRS- 232C コマンドプロトコルにつきましては、弊社のタスカム営業技術までお問い合わせください。

パラレル端子を使う

CONTROL I/OのPARALLEL端子を使って、外部のコントローラーから本機をパラレル制御することができます。ピン配列は以下のとおりです。

ピン番号	機能	IN/OUT
1	GND	–
2	Play/Flash 1	In
3	Stop/Flash 2	In
4	Record/Flash 3	In
5	▶▶I (Next)/Flash 4	In
6	I◀◀ (Previous)/Flash 5	In
7	Flash Load	In
8	Fader Start	In
9	Flash Tally	Out
10	Ready Tally	Out
11	Record Tally	Out
12	Stop Tally	Out
13	Play Tally	Out
14	Remote Select**	In
15	Ready/Flash 6	In
16	Call/Flash 7	In
17	Auto Cue/Flash 8	In
18	Auto Ready/Flash 9	In
19	Pitch/Flash 10	In
20	Flash Page***	In
21	EOM Tally	Out
22	CF Tally	Out
23	–	–
24	CD Tally	Out
25	+5V*	–

In ：外部コマンド受信アクティブロー
（グランド30ms 以上で動作）

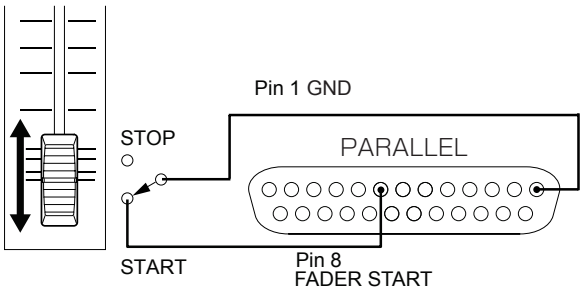
Out:オープンドレインによるトランスポートステータス
表示用信号（耐圧50V 、最大電流50mA ）

＊最大供給電流50mA

＊＊ピン14（Remote Select）
ハイのとき、上の表で "／" で区切られた2つの機能が表記されている入力ピン（ピン2～6および15～19）は、前者の機能が有効になり、通常のパラレルコントローラーとして使用することができます。
ローのとき、上記の入力ピンはフラッシュスタートキーとして機能します。

＊＊＊ピン20（Flash Page）
ピン14（Remote Select）がローのとき、ピン20のハイ／ロー状態によって、割り当てトラックが以下のようになります。

#14	#20	フラッシュスタートトラック
ロー	ハイ	1～10
ロー	ロー	11～20

以下は、フェーダースタート／ストップによって本機の再生をコントロールする場合の接続例です。

第 15 章　メッセージ一覧

エラーメッセージ

以下のエラーメッセージがポップアップ表示されたときは、本体の**STOP**キーまたは**TIME / ESC**キー(リモコンの場合、**STOP**キーまたは**CLR/ESC**キー)を押してメッセージ表示を閉じてから原因を解消してください。それでも改善しない場合は、最寄りの弊社サービス部にご相談ください。

	1 行目	2 行目	内容
1	-- error --	DECODE	MP3/WAV トラックの再生に失敗しました。
2	-- error --	REC STAND BY	録音開始準備に失敗しました。
3	-- error --	CAPACITY	メディアの記録領域が不足しているため、録音が停止しました。
4	-- error --	RECORD	録音中にエラーが発生しました。
5	-- error --	INFO WRITING	情報の書き込み中にエラーが発生しました。
6	-- error --	OVER FLOW	MP3/WAV トラックの録音中、録音バッファが不足しました。
7	-- error --	NotMatchDMA	メディアがシステムの要求する仕様を満たさないため、録音ができません。
8	-- error --	FLASH LOAD	フラッシュスタートデータ読み込み中にエラーが発生した。
9	-- error --	DIN UNLOCK	デジタル入力がロックしていません。
10	-- error --	DIN NotAudio	入力されているデジタル情報がオーディオ以外になっています。
11	-- error --	FS UNMATCH	されたサンプリング周波数と異なるデジタル信号が入力されています。
12	-- error --	EJECT	CD の排出に失敗しました。
13	-- error --	MIX DISC	MP3/WAV トラックと、オーディオトラックが混在したメディアです。
14	-- error --	CF READ	CF カードがセットされていないため、Burn/Rip が実行できません。
15	-- error --	TRACK	CD に書き込まれたトラックが再生不可能なフォーマットのため、再生ができません。

警告メッセージ

操作を受け付けない場合、以下のような警告メッセージをポップアップ表示します。警告メッセージは約 2 秒間表示された後、自動的に消えます。

	1 行目	2 行目	内容
1	--caution--	CAN'T UNDO	取り消し可能な編集が存在しないため、UNDO できません。
2	--caution--	MEDIA FULL	メディアの記録領域が不足しているため、録音が開始できません。
3	--caution--	TRACK FULL	最大記録トラック数に達しているため、録音ができません。
4	--caution--	NoCallPoint	コールポイントが存在しません。
5	--caution--	CAN'T REC	システムの制限により録音ができません。
6	--caution--	WriteProtect	書き込みが禁止されたメディアです。
7	--caution--	NOT EXECUTE	編集の実行に失敗しました。
8	--caution--	CAN'T EDIT	システムの制限により編集ができません。
9	--caution--	CAN'T SELECT	システムの制限により/実行ができません。
10	--caution--	TRK PROTECT	保護されたトラックのため、編集ができません。
11	--caution--	NAME FULL	名前が最大文字数に達しています。
12	--caution--	PROGRAM FULL	プログラム内のトラック数が最大数に達しているため、登録できません。
13	--caution--	PGM EMPTY	プログラムが未登録ですので、再生や一時停止ができません。
14	--caution--	NoSearchTime	指定されたサーチタイム（サーチトラック）が存在しないため、サーチできませんでした。
15	--caution--	UnmatchMedia	メディアがシステムの要求する仕様を満たさないため、録音ができません。
16	--caution--	Dif Playlist	指定されたプレイリストとメディア情報に相違があります。
17	--caution--	P.LIST FULL	プレイリストへの登録数が規定数を超えるため、登録できませんでした。
18	--caution--	P.LIST EMPTY	プレイリストが未登録ですので、再生や一時停止ができません。
19	--caution--	P.LIST ENTRY	プレイリストに登録されたトラックを編集しようとしています。
20	--caution--	SURE TEXT	CD Text の登録がされているが TOC 書き込みを行わずに Eject しようとしています。

動作メッセージ

必要に応じてカウンター部に以下のメッセージが表示されます。

	1行目	内容
1	POWER ON	システムが起動初期化中です。
2	DEVICE ERROR	デバイスが認識できません。サービスへお問い合わせください。
3	NO MEDIA	カレントデバイスにメディアがセットされていません。
4	MONITOR	インプットモニター中です。
5	MEDIA READING	メディア読み込み中です。
6	MEDIA ERROR	メディアの読み込みに失敗しました。
7	UNKNOWN	FAT以外でフォーマットされたCFカードです。本機で使用する場合、フォーマットを行ってください。
8	INITIALIZING MEDIA	本機で使用するための情報を作成中です。
9	RECORD STAND BY	録音開始準備中です。
10	INFORMATION WRITING	録音情報の書き込み中です。
11	FLASH LOADING	フラッシュスタート情報の読み込み中です。
12	Fs CHANGING	現在のトラックのサンプリング周波数に一致するよう、システムのサンプリング周波数を変更しています。

第16章　トラブルシューティング

本機の動作がおかしいとき、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。それでも改善しないときは、お買い上げ店または当社サービス窓口にご連絡ください。

● 電源が入らない

電源プラグがしっかりと差し込まれているか確認してください。

● メディアを認識しない

- CF カードがしっかりと挿入されているか確認してください。
- CD に傷やよごれが付いていないか確認してください。

● 再生できない

- WAV ファイルの場合、本機が対応しているサンプリング周波数（44.1kHz または 48kHz）と量子化数（16 ビット）であるかどうかを確認してください。MP3 ファイルの場合、本機が対応しているビットレートであるかどうかを確認してください。
- CD に傷やよごれが付いていないか確認してください。

● 音が出ない

モニターシステムとの接続をもう一度確認してください。また、アンプの音量を確認してください。

● 録音できない

- 接続をもう一度確認してください。
- 録音レベルを調節してください。

● 設定を変えたのに記憶されていない

本機では、設定を変更するたびにバックアップを行っています。電源を切るタイミングによってはバックアップを失敗してしまう場合がありますので、設定の変更直後に電源を切らないでください。

● 雑音がする

接続ケーブルが接触不良になっていないか、確認してください。

● 名前編集時、Name Full が表示される

ファイル名やフォルダ名などの文字数はシステムの制約上、255 文字（半角）までです。なおフォルダファインダ内のフルパスで 255 文字ですので、例えばサブフォルダ内のファイルやフォルダの場合、上位フォルダの文字数分と仕切り文字に使われる文字数分を 255 から差し引いた数が最大文字数になります。

定格

- 記録ディスク：CFカード（コンパクトフラッシュカード）
  CD-R、CD-R-DA、CD-RW、CD-RW-DA
  （CD-RWはHigh Speedに対応）
- 録音／再生フォーマット：
  MP3（CDまたはCFカード使用時）：
  サンプリング周波数：44.1kHz、48kHz
  ビット長：16ビット
  転送レート：64、128、192、256、
  320kbps
  WAV（録音はCFカード使用時のみ）：
  サンプリング周波数：44.1kHz、48kHz
  ビット長：16ビット
  CD-DA（CD使用時）：
  サンプリング周波数：44.1kHz
  ビット長：16ビット
- チャンネル数：2チャンネル（ステレオ）
  1チャンネル（モノラル）

オーディオ入出力

アナログオーディオ

- ANALOG INPUTS (BALANCED)端子
  アナログバランス入力
  コネクター：XLR-3-31相当
  規定入力レベル：＋4dBu
  最大入力レベル：＋20dBu　(*1)
  最小入力レベル－6dBu 以上（規定レベルに調整可能な最小入力レベル）
  入力インピーダンス：22kΩ
- ANALOG INPUTS (UNBALANCED)端子
  アナログアンバランス出力
  コネクター：RCAピンジャック
  規定入力レベル：－10dBV
  最大入力レベル：＋6dBV
  最小入力レベル：－20dBV 以上（規定レベルに調整可能な最小入力レベル）
  入力インピーダンス：22kΩ
- ANALOG OUTPUTS (BALANCED)端子
  アナログパランス出力
  コネクター：XLR-3-32相当
  規定出力レベル：＋4dBu
  最大出力レベル：+20dBu　(*1)
  出力インピーダンス：100Ω
- ANALOG OUTPUTS (UNBALANCED)端子
  アナログ出力アンバランス出力
  コネクター：RCAピンジャック
  規定出力レベル－10dBV
  最大出力レベル＋6dBV
  出力インピーダンス：200Ω
- PHONES端子
  ヘッドホン出力
  コネクター：ステレオ標準ジャック（6.3 φ）
  定格出力：45mW＋45mW 以上（THD+N:0.1%以下、32Ω負荷時）

＊バランス最大入出力レベルを変更したいときはサービス部門へお問い合わせください。

デジタルオーディオ

- DIGITAL IN (COAXIAL)端子
  デジタル入力
  コネクター：RCAピンジャック
  対応信号フォーマット：IEC- 60958-3 Consumer（S/PDIF）
  入力可能サンプリング周波数：32kHz～48kHz
  入力インピーダンス：75Ω（アンバランス）
  可変ゲイン幅：－∞～＋10dBFS
- DIGITAL OUT (COAXIAL)端子
  デジタル出力
  コネクター：RCAピンジャック
  対応信号フォーマット：IEC- 60958-3 Consumer（S/PDIF）
  出力インピーダンス：75Ω（アンバランス）

コントロール入出力

- CONTROL I/O （RS- 232C）端子
  通信仕様：RS- 232Cプロトコル仕様書1.00準拠
  コネクター：D－Sub 9ピンコネクター
- CONTROL I/O （PARALLEL）端子
  パラレルコントロール入出力
  コネクター：D－Sub25ピンコネクター
  最大入力電圧：＋5.5V
  ハイレベル最小入力電圧：＋3.75V
  ローレベル最大入力電圧：＋1.25V
  出力形式：オープンドレイン (耐圧50V,最大電流50mA)
  ローレベル最大出力電圧：0.5V
- REMOTE IN 端子
  専用リモコンRC- SS1接続用
  コネクター：ステレオミニジャック
- KEYBOARD端子
  PS/2キーボード接続用
  コネクター：ミニDINコネクター

オーディオ性能

周波数特性：20Hz ～20kHz, ±0.5dB (録音時)
歪率：0.005%以下 (AES-17 20kHz)(録音時)
S/N比：95dB（AES-17 20kHz,A-weighted,Typical）(録音時)
ダイナミックレンジ：95dB（AES-17 20kHz,A-weighted, Typical）(録音時)
チャンネル間クロストーク：95dB（録音時）

一般

電源：100～240VAC、50/60Hz

消費電力：12W

外形寸法：482.6 × 44.5 × 301 mm （幅×高さ×奥行き）

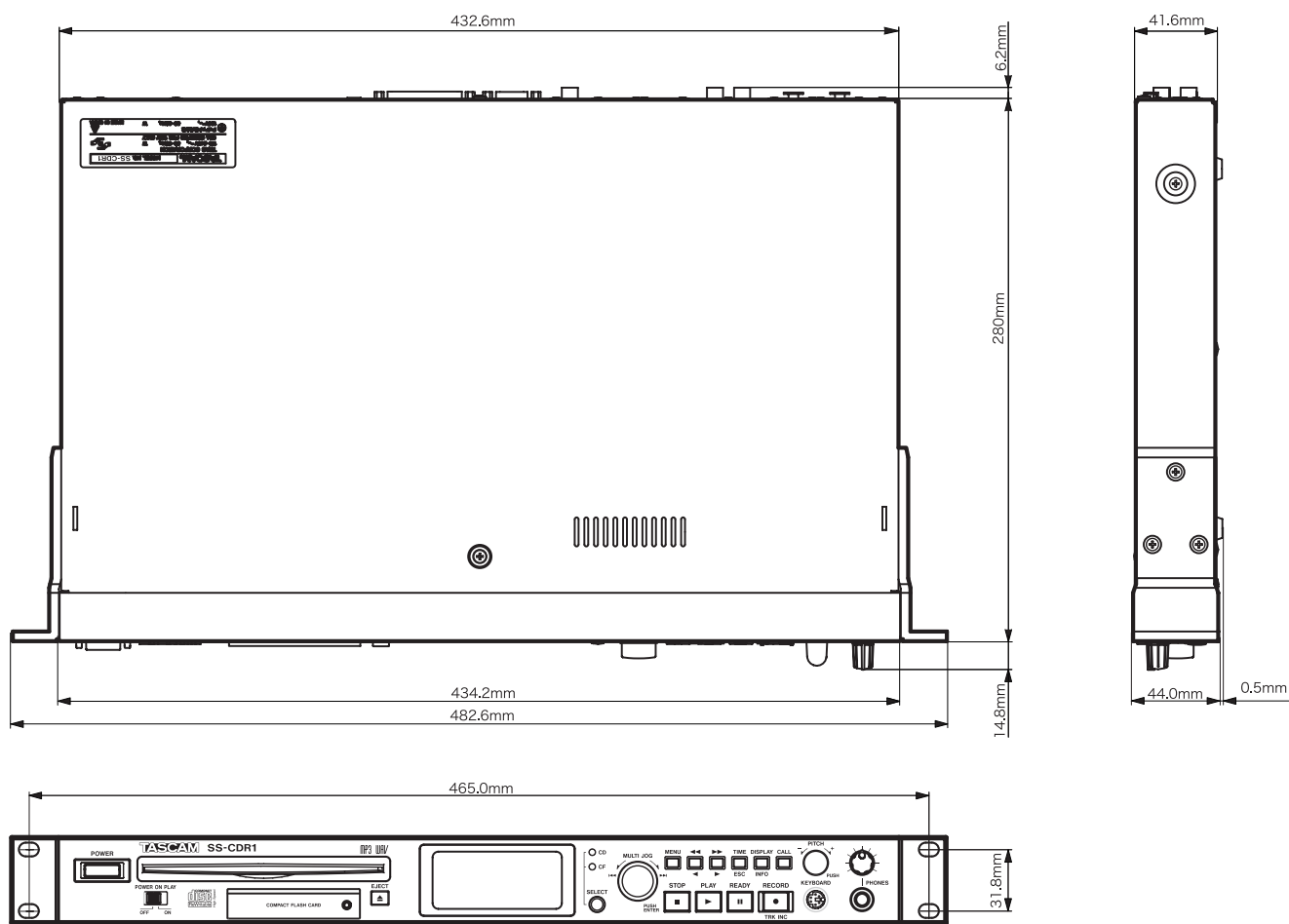
重量：3.5kg

＊仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

＊製品の改善により、取扱説明書のイラストなどが、一部製品と異なることがあります。あらかじめご了承ください。

＊CompactFlash®（コンパクトフラッシュ）は、米SanDisk社の登録商標です。

＊当製品には、イーソル株式会社のFATファイルシステム、PrFILE®2およびPrFILE2 Unicode Interfaceが搭載されています。

寸法図

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム営業技術までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く 10:00 ～ 12:00/13:00 ～ 17:00 です。

タスカム営業技術　〒206-8530　東京都多摩市落合 1-47

0120-152-854

携帯電話・PHS・IP 電話などからはフリーダイヤルをご利用いただけませんので、
通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く 9:30 ～ 17:00 です。

ティアック修理センター　〒190-1232　東京都西多摩郡瑞穂町長岡 2-2-8

0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
携帯電話・PHS・自動車電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。
新電電各社をご利用の場合、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-556-2280 / FAX：042-556-2281

■ 住所や電話番号は，予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社
〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47
http://www.tascam.jp/

Printed in China